

令和4年度

北九州市商圈調査報告書

令和5年6月

目 次

1 はじめに	1
(1)北九州市を取り巻く商業動向.....	1
(2)商圈調査の目的.....	6
(3)調査の概要.....	6
(4)報告書記述における注意事項.....	8
2 北九州市の商圈.....	9
(1)人口と世帯の推移	9
(2)北九州市全体の商圈.....	10
(3)小倉中心市街地の商圈.....	14
(4)黒崎中心市街地の商圈.....	18
(5)主な商業地区への買物出向率.....	22
(6)主な商業地区の特性.....	26
3 小倉中心市街地の利用状況	38
(1)来街頻度と来街目的	38
(2)滞在時間と消費金額.....	39
(3)来街頻度の変化とその理由.....	40
(4)小倉中心市街地に対するイメージ.....	43
(5)利用交通手段.....	44
(6)同行者	45
4 黒崎中心市街地の利用状況	46
(1)来街頻度と来街目的	46
(2)滞在時間と消費金額.....	47
(3)来街頻度の変化とその理由.....	48
(4)黒崎中心市街地に対するイメージ.....	51
(5)利用交通手段.....	52
(6)同行者	53
5 ふだんの買物行動.....	54
(1)買物場所	54
(2)買物先の店舗形態.....	55
(3)商店街・市場の利用状況	58

(4)商店街や市場が活性化していく上で果たすべき役割	59
6 東田地区(ジ アウトレット北九州、北九州英語村(KGG)、スペース・ラボ(新科学館)、いのちのたび博物館など)について	60
(1)来街経験	60
(2)来街目的	61
(3)来街頻度	62
(4)ジ アウトレット北九州の利用による普段利用商業地区の利用状況変化	63
7 キャッシュレス決済について	64
(1)利用状況	64
(2)利用しているキャッシュレス決済	64
(3)キャッシュレス決済の利用頻度	67
8 まとめ	68

1 はじめに

(1)北九州市を取り巻く商業動向

北九州市の商業は、その地勢的要因や5市合併(門司、小倉、若松、八幡、戸畑)で発足した経緯などにより、当初は、旧5市の中心市街地や主要駅を中心に百貨店や商店街による商業核が形成された。その後、郊外での宅地開発やモータリゼーション等の進展などに伴い、郊外の主要幹線道路沿線を中心に大型ショッピングセンターや食品スーパー・大型専門店などの出店が進み、商業集積が分散・拡大していった。

さらに、近年は、都心部の工場跡地や幹線道路沿線など、いわゆる街なかエリアへの大型店の出店が増えたことや、コンビニエンスストア・ネットショッピングの普及などの影響もあり、かつての中心市街地の誘引力が低迷している状況である。

商店街の動向をみると、事業者の高齢化や後継者不足、他店との競合などにより閉店する店舗が増え、にぎわいが失われた商店街がある一方、空き店舗に新たにオープンする店舗が増えた商店街等や、商店街組合が中心となり、集客やにぎわいづくりのために「まちゼミ」「こども商店街」などのイベント開催に取り組むなど精力的に活動している商店街もある。

このような商店街を支援するために、北九州市では、平成 25 年 11 月に「北九州市商店街の活性化に関する条例」が施行され、商店街組合や事業者が主体となって、行政や大型店などとも連携して商店街の活性化に取り組んでいる。行政も、商店街の空き店舗への出店支援や、商店街等が来街者の利便性向上のために行うアーケード改修や照明の LED 化などのハード整備への支援などを実施している。

また、令和2年度からは、国の交付金や県の助成制度を活用し、北九州市内の多くの商店街組合などがプレミアム率を20%に引き上げたプレミアム付商品券を発行し、地域経済の活性化や消費喚起に寄与している。令和3年度には、北九州商工会議所が市内登録店で使用できるキャッシュレス商品券「Paycha」(ペイチャ)をプレミアム率20%で発行するなど、キャッシュレス化も推進されている。

次に、大型店の動向をみると、令和4年9月時点で、北九州市圏域(北九州市と概ね半径40km 圏内にある全 30 市町村)に立地する店舗面積 1,000 ㎡超の大型店の店舗数は588 店舗、店舗面積の合計は 272 万 4,930 ㎡(1 店舗あたり 4,634 ㎡)となっており、平成 27 年と比べて店舗数は 77 店舗、店舗面積の合計は 11 万 6,820 ㎡、それぞれ増加している。

そのうち、北九州市内の店舗数は 221 店舗、店舗面積の合計は 111 万 9,827 ㎡(1 店舗あたり 5,067 ㎡)となっており、平成 27 年と比べて店舗数は 17 店舗、店舗面積の合計は 4,874 ㎡増加している。行政区別にみると、八幡東区が 4 万 8,733 ㎡(1 店舗)、若松区が 1 万 9,333 ㎡(4 店舗)、門司区が 5,713 ㎡(2 店舗)の増加となっている。一方、八幡西区ではクロサキメイトの閉店等で店舗面積が減少している。

北九州市外の店舗数は 367 店舗、店舗面積の合計は 160 万 5,103 ㎡(1 店舗あたり 4,374 ㎡)となっており、平成 27 年と比べて店舗数は 60 店舗、店舗面積の合計は 11 万 1,946 ㎡増加している。地域別にみると、遠賀・宗像地域が 5 万 2,063 ㎡(15 店舗)、京築地域が 3 万 1,854 ㎡(13 店舗)、直方・飯塚地域が 2 万 1,625 ㎡(11 店舗)の増加となっている。

■1,000 m²超の大型店の出店数及び店舗面積 ■

(単位：店、m²)

市区町村名	平成27年				令和4年				増減			
	店舗数			店舗面積	店舗数			店舗面積	店舗数			店舗面積
	1,000m ² 以上 6,000m ² 未満	6,000m ² 以上	計		1,000m ² 以上 6,000m ² 未満	6,000m ² 以上	計		1,000m ² 以上 6,000m ² 未満	6,000m ² 以上	計	
北九州市	160	44	204	1,114,953	179	42	221	1,119,827	19	▲2	17	4,874
門司区	19	1	20	55,643	21	1	22	61,356	2	0	2	5,713
小倉北区	42	14	56	351,434	41	14	55	336,247	▲1	0	▲1	▲15,187
小倉南区	30	8	38	208,620	37	7	44	201,786	7	▲1	6	▲6,834
若松区	9	4	13	78,770	12	5	17	98,103	3	1	4	19,333
八幡東区	12	4	16	110,620	12	5	17	159,353	0	1	1	48,733
八幡西区	40	12	52	265,642	50	9	59	221,611	10	▲3	7	▲44,031
戸畑区	8	1	9	44,224	6	1	7	41,371	▲2	0	▲2	▲2,853
北九州市外	254	53	307	1,493,157	316	51	367	1,605,103	62	▲2	60	111,946
遠賀・宗像地域	39	10	49	251,167	53	11	64	303,230	14	1	15	52,063
直方・飯塚地域	54	10	64	283,874	67	8	75	305,499	13	▲2	11	21,625
田川地域	15	3	18	74,048	14	3	17	69,568	▲1	0	▲1	▲4,480
京築地域	44	12	56	306,976	56	13	69	338,830	12	1	13	31,854
下関地域	102	18	120	577,092	126	16	142	587,976	24	▲2	22	10,884
合 計	414	97	511	2,608,110	495	93	588	2,724,930	81	▲4	77	116,820

出典：平成27年…北九州市は独自調査、北九州市外は「全国大型小売店総覧」（東洋経済新報社）
 令和4年…北九州市は独自調査、北九州市外は関係自治体の公表データを基に独自調査
 （数値は平成27年は7月時点、令和4年は9月時点）

平成24年度以降の新規の出店状況を見ると、店舗数は年によって多少のばらつきがあるものの、令和元年度までは年度平均20件弱で推移している。

店舗面積の合計は、平成24年度には8万m²を超えていたが、平成25年度から令和元年度にかけて、6万m²台から4万m²台に減少している。また、令和2年度に店舗数と店舗面積の両方が大きく落ち込んでいるが、これは新型コロナウイルスの感染拡大に伴う社会経済活動の停滞が要因と考えられる。

業態別にみると、ホームセンターやショッピングセンターの新規出店数は少なく、10年間で10件を超える件数に留まっている一方で、比較的店舗面積が狭いドラッグストア(1店舗あたり約1,500m²)やディスカウントストア(1店舗あたり約3,000m²)の新規出店数は堅調であり、令和2、3年度においても7割を占めている。

■ 1,000㎡超の大型店の出店状況の年度推移 ■

(単位：店、㎡)

年 度		スーパー	ホーム センター	専門店	ショッピング センター	ディスカウント ストア	ドラッグ ストア	合 計
平成24年度	店舗数	4	3	5	1	3	8	24
	構成比	16.7%	12.5%	20.8%	4.2%	12.5%	33.3%	100.0%
	店舗面積	15,244	15,526	18,007	5,144	14,803	11,813	80,537
	1店舗当り面積	3,811	5,175	3,601	5,144	4,934	1,477	3,356
平成25年度	店舗数	2	1	2	1	7	4	17
	構成比	11.8%	5.9%	11.8%	5.9%	41.2%	23.5%	100.0%
	店舗面積	4,868	4,668	7,093	13,538	24,258	5,911	60,336
	1店舗当り面積	2,434	4,668	3,547	13,538	3,465	1,478	3,549
平成26年度	店舗数	2	1	4	1	2	10	20
	構成比	10.0%	5.0%	20.0%	5.0%	10.0%	50.0%	100.0%
	店舗面積	6,914	4,774	7,188	19,853	11,000	17,033	66,762
	1店舗当り面積	3,457	4,774	1,797	19,853	5,500	1,703	3,338
平成27年度	店舗数	2	3	1	2	4	14	26
	構成比	7.7%	11.5%	3.8%	7.7%	15.4%	53.8%	100.0%
	店舗面積	6,016	18,281	1,479	10,611	8,998	22,425	67,810
	1店舗当り面積	3,008	6,094	1,479	5,306	2,250	1,602	2,608
平成28年度	店舗数	5	0	3	0	3	10	21
	構成比	23.8%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	47.6%	100.0%
	店舗面積	17,848	0	9,053	0	12,150	15,654	54,705
	1店舗当り面積	3,570	0	3,018	0	4,050	1,565	2,605
平成29年度	店舗数	2	0	1	2	4	8	17
	構成比	11.8%	0.0%	5.9%	11.8%	23.5%	47.1%	100.0%
	店舗面積	4,715	0	4,000	11,195	10,713	12,248	42,871
	1店舗当り面積	2,358	0	4,000	5,598	2,678	1,531	2,522
平成30年度	店舗数	8	2	2	0	2	4	18
	構成比	44.4%	11.1%	11.1%	0.0%	11.1%	22.2%	100.0%
	店舗面積	15,177	8,965	7,279	0	3,574	5,523	40,518
	1店舗当り面積	1,897	4,483	3,640	0	1,787	1,381	2,251
令和元年度	店舗数	4	0	0	4	1	7	16
	構成比	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	6.3%	43.8%	100.0%
	店舗面積	9,629	0	0	26,789	1,670	9,748	47,836
	1店舗当り面積	2,407	0	0	6,697	1,670	1,393	2,990
令和2年度	店舗数	1	1	1	0	2	5	10
	構成比	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	20.0%	50.0%	100.0%
	店舗面積	1,401	3,412	3,063	0	5,064	7,003	19,943
	1店舗当り面積	1,401	3,412	3,063	0	2,532	1,401	1,994
令和3年度	店舗数	1	0	1	2	4	6	14
	構成比	7.1%	0.0%	7.1%	14.3%	28.6%	42.9%	100.0%
	店舗面積	1,856	0	1,708	12,729	6,684	8,081	31,058
	1店舗当り面積	1,856	0	1,708	6,365	1,671	1,347	2,218
合 計	店舗数	31	11	20	13	32	76	183
	構成比	16.9%	6.0%	10.9%	7.1%	17.5%	41.5%	100.0%
	店舗面積	83,668	55,626	58,870	99,859	98,914	115,439	512,376
	1店舗当り面積	2,699	5,057	2,944	7,681	3,091	1,519	2,800

※出典「大店立地法届出の概要表」（経済産業省）

福岡都市圏をみると、福岡市の天神地区で再開発計画「天神ビッグバン」の一環により、令和2年2月に天神ビブレ、3月に天神コア、令和3年8月にイムズなど、歴史ある大型商業施設が相次いで閉店している。これらはいずれも、オフィス・ホテル・商業施設等の複合ビルに建て替えが予定されている。

令和4年4月には、福岡市博多区の青果市場跡地にららぽーと福岡が、北九州市八幡東区のスペースワールド跡地にジ アウトレット北九州が相次いでオープンしており、広域からの集客が可能な大型商業施設として、地域の活性化や賑わいの創出を図っている。

また、下関地域では平成30年3月にシーモール下関が大規模リニューアルを行ったほか、遠賀・宗像地域では令和4年4月にプラザモールなかまが、京築地域では5月にスパイシーモール行橋がオープンするなど大型店出店の動きは活発である。

■ 北九州市を取り巻く大型店の出店状況等 ■

(店舗面積 5,000 m²以上抜粋)

時 期	出 退 店		法制度、商業・その他の動き
	北 九 州 市 内	北 九 州 市 外	
平成25年 3月	コストコホールセール北九州倉庫店オープン		
平成25年 7月	ミスターマックス小倉北店オープン		
平成25年11月		ゆめモール下関オープン	「北九州市商店街の活性化に関する条例」施行
平成26年 4月			消費税8%に増税
平成26年 6月	ミスターマックス八幡東店オープン		
平成26年 9月	イオンタウン黒崎オープン		
平成27年 6月		コスタ行橋2期(ドン・キホーテ他)オープン	
平成27年10月	井筒屋アネックス1閉店		TPP協定交渉の大筋合意
平成28年 4月	サンリブきふねオープン	KITTE博多オープン	
平成28年 6月		トライアル鞍手店オープン	
平成29年 1月	イオン城野店閉店		
平成29年 8月	イオン徳力店閉店		
平成29年12月			スペースワールド閉園
平成30年 3月		シーモール下関リニューアル	
平成30年 8月		ニトリ直方店オープン	
平成31年 2月	コレット井筒屋閉店		
平成31年 4月	ナフコ小倉南店新館オープン		
令和元年9月	フォレオひびきのランドオープン		
令和元年10月		ライフガーデン水巻オープン	消費税10%に増税 食品等への軽減税率導入 キャッシュレス・消費者還元事業スタート
令和 2年 1月			国内で初の新型コロナ感染者確認
令和 2年 2月		天神ビブレ閉店	
令和 2年 3月		天神コア閉店	
令和 2年 4月		トライアル東水巻店オープン	コロナ緊急事態宣言(1回目)
令和 2年 5月			厚生労働省が「新しい生活様式」の 実践例を公表
令和 2年 7月			小売業でレジ袋有料化
令和 2年 8月	クロサキメイト閉店	スーパービバホーム 東水巻店オープン	
	黒崎井筒屋閉店		
令和 3年 1月			コロナ緊急事態宣言(2回目)
令和 3年 4月	アイムが名称をセントシティに変更		コロナ緊急事態宣言(3回目)
令和 3年 7月			コロナ緊急事態宣言(4回目)
令和 3年 8月		イムズ閉店	
令和 4年 2月			ロシアがウクライナに軍事侵攻
令和 4年 3月		トリアーダ宗像(第2期)オープン	北九州市「2050まちづくりビジョン」策定 (小倉・黒崎・東田地区)
令和 4年 4月	ジ アウトレット北九州オープン	ららぽーと福岡オープン	民法の改正 成年年齢が18歳に引き下げ
		プラザモールなかまオープン	
令和 4年 5月		スパイシーモール行橋オープン	北九州市「2050まちづくりビジョン」 行動指針策定(小倉・黒崎・東田地区)
令和 4年 9月			西九州新幹線(武雄温泉－長崎間)開業

(2) 商圈調査の目的

本調査では、北九州市の小売業の商圈を明らかにするとともに、市民及び周辺市町村居住者の買物行動とその変化を把握することによって、今後の商業施策を展開していく上での基礎資料とすることを目的としている。

(3) 調査の概要

ア 調査地域と対象者

調査地域は、北九州市圏域(北九州市及び北九州市を中心とした概ね半径 40km 圏内にある30市町村)であり、過去に実施してきた商圈調査範囲に令和 4 年から上毛町を追加した地域である。

居住区分	対象者数	対象の範囲
市内居住者	8,500 名	令和4年8月1日時点の住民基本台帳より無作為に抽出した 18 歳以上の男女
市外居住者	2,800 名	調査対象エリア内に居住する 18 歳以上の男女



イ 調査方法と期間

居住区分	調査方法	調査期間
市内居住者	郵送による配布・回収	令和4年9月16日～10月 7日
市外居住者	調査員の訪問による配布・回収	令和4年9月 1日～ 9月27日

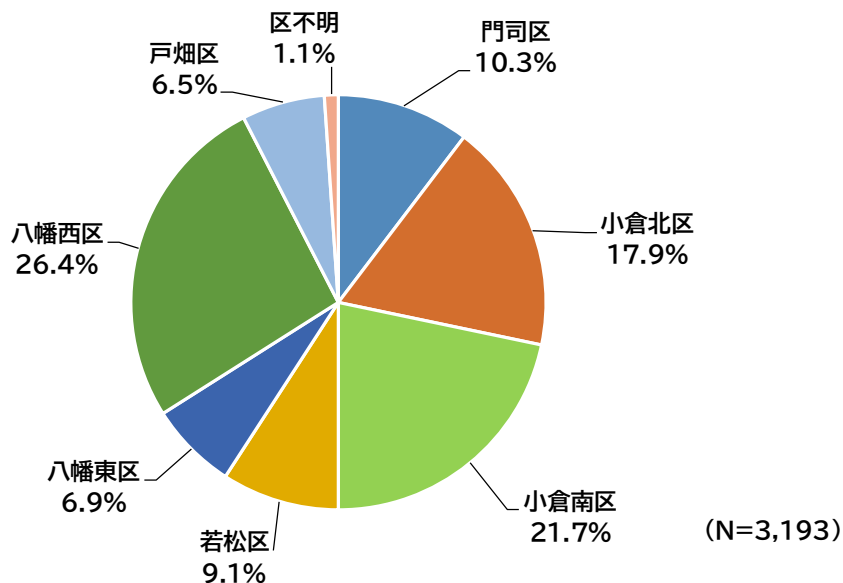
ウ 調査票の回収状況

居住区分	配布数	有効回収数	有効回収率
市内居住者	8,500	3,193	37.6%
市外居住者	2,800	2,673	95.5%
合 計	11,300	5,866	51.9%

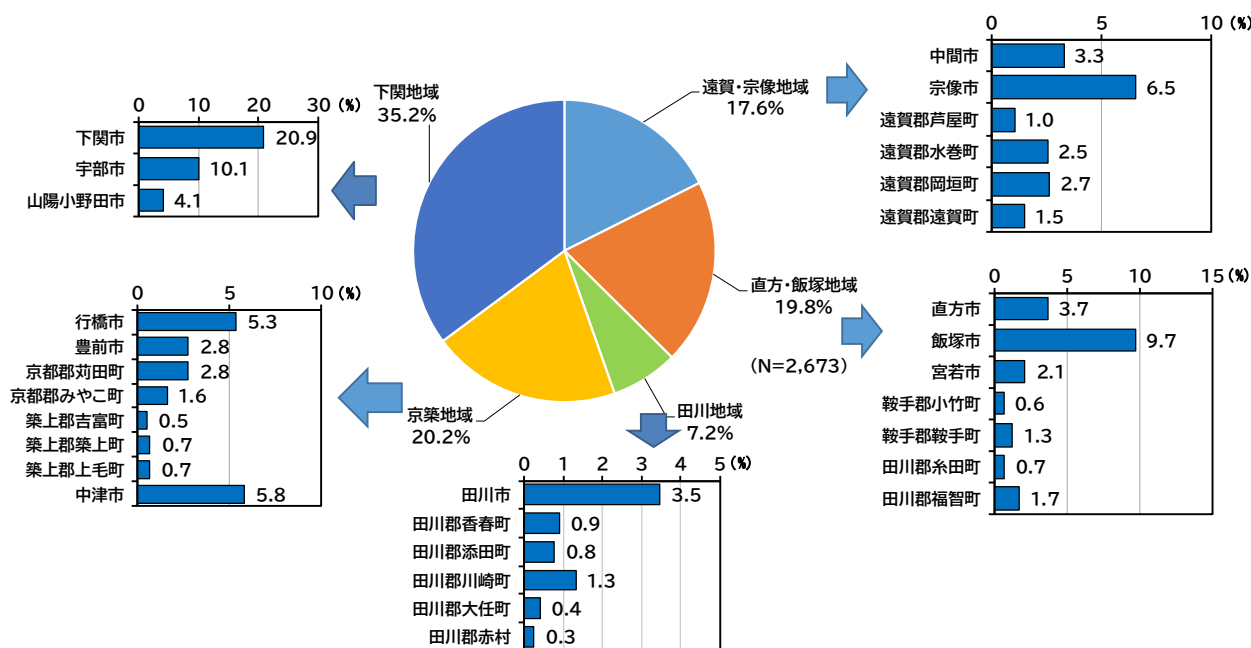
■ 市区町村別配布数及び回収数 ■

	配布数	回収数		配布数	回収数
北九州市内	8,500	3,193	田川地域	199	192
門司区	844	330	田川市	100	93
小倉北区	1,666	573	田川郡香春町	24	24
小倉南区	1,896	694	田川郡添田町	21	21
若松区	724	292	田川郡川崎町	36	36
八幡東区	580	219	田川郡大任町	11	11
八幡西区	2,270	844	田川郡赤村	7	7
戸畑区	520	206	京築地域	539	541
区不明	0	35	行橋市	147	143
北九州市外計	2,800	2,673	豊前市	54	74
遠賀・宗像地域	476	470	京都郡苅田町	73	74
中間市	88	88	京都郡みやこ町	42	44
宗像市	196	175	築上郡吉富町	14	14
遠賀郡芦屋町	29	28	築上郡築上町	21	19
遠賀郡水巻町	59	68	築上郡上毛町	18	18
遠賀郡岡垣町	65	71	中津市	170	155
遠賀郡遠賀町	39	40	下関地域	1,026	940
直方・飯塚地域	560	530	下関市	553	559
直方市	117	98	宇部市	343	271
飯塚市	265	259	山陽小野田市	130	110
宮若市	59	57			
鞍手郡小竹町	17	17			
鞍手郡鞍手町	34	34			
田川郡糸田町	19	19			
田川郡福智町	49	46			
			合計	11,300	5,866

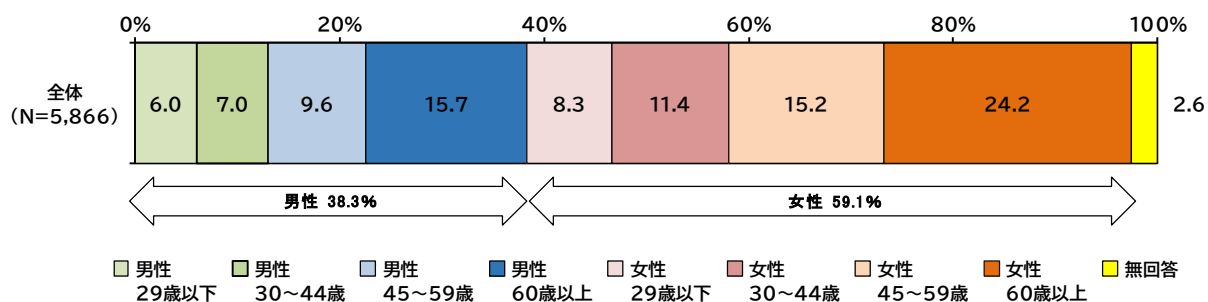
■ 北九州市内回答者構成(行政区別) ■



■ 北九州市外回答者構成(地域別) ■



■ 性別・年代別回答者構成 ■



(4) 報告書記述における注意事項

報告書に掲載した回答のサンプル数は「N」で表記し、図表中の数値は原則として、回答数を母数とした構成比で表示している。この構成比は小数点以下第2位を四捨五入し、端数処理をしているため、合計は必ずしも100%にならない場合がある。

なお、複数回答(2つ以上の選択肢を回答)の場合、構成比は100%を超える。

また、年代別などの図表における左側のサンプル数は性別・年齢・居住地等の属性不明者を除いているため、これを合計しても全体のサンプル数と必ずしも同じになるとは限らない。

2 北九州市の商圈

この章では、北九州市全体・小倉中心市街地・黒崎中心市街地の各商圈とその他の商業地区の特性に関する分析を行う。なお、本文中の人口及び世帯数は、全て千人(世帯)単位とし、千人(世帯)未満の数値は切り捨てて記述する。

(1)人口と世帯の推移

はじめに、有効商圈人口と密接な関係にある人口・世帯数の推移について触れてみる。

令和2年に実施された国勢調査によると、日本の総人口は1億2,614万人で、平成27年の調査と比べて94万9千人減少し、前回(平成27年)の調査に続いての減少となっている。都道府県別にみると、全国39道府県で人口が減少したものの、東京都をはじめとする8都県で人口が増加し、福岡県は513万5千人で平成27年の調査と比べて3万2千人増加している。

次に、北九州市圏域の人口をみると、減少傾向にあり、令和2年の人口は226万人で、前回調査の平成27年と比べて6万5千人の減少(増加率▲2.9%)、平成22年と比べると12万4千人減少している(増加率▲5.2%)。

地域別にみると、北九州市は減少傾向にあり、前回調査の平成27年と比べて2万2千人の減少(増加率▲2.4%)、平成22年と比べると3万7千人減少している(増加率▲3.9%)。

また、北九州市外も減少傾向にあり、前回調査の平成27年と比べて約4万3千人の減少(増加率▲3.2%)、平成22年と比べると8万6千人減少している(増加率▲6.2%)。

一方、北九州市圏域の世帯数をみると、人口の減少傾向とは逆に増加傾向にあり、令和2年の世帯数は101万2千世帯で、前回調査の平成27年と比べて1万6千世帯の増加(増加率1.7%)、平成22年と比べると2万4千世帯増加している(増加率2.5%)。

地域別にみると、北九州市内・市外ともに増加しているが、田川地域は平成17年以降、減少傾向が続いており、下関地域も前回調査から引き続き減少となっている。

■ 人口(地域別)の推移 ■

	国勢調査人口(人)				国勢調査人口増加率(%)		
	平成17年 (a)	平成22年 (b)	平成27年 (c)	令和2年 (d)	H17→H22 (b)/(a)-1	H22→H27 (c)/(b)-1	H27→R2 (d)/(c)-1
北九州市	993,525	976,846	961,815	939,029	▲1.7	▲1.5	▲2.4
北九州市外計	1,439,720	1,408,722	1,365,754	1,322,021	▲2.2	▲3.1	▲3.2
遠賀・宗像地域	238,245	236,380	232,008	228,846	▲0.8	▲1.8	▲1.4
直方・飯塚地域	284,700	279,280	270,286	260,910	▲1.9	▲3.2	▲3.5
田川地域	104,977	100,217	94,262	88,153	▲4.5	▲5.9	▲6.5
京築地域	275,889	273,576	268,465	266,165	▲0.8	▲1.9	▲0.9
下関地域	535,909	519,269	500,733	477,947	▲3.1	▲3.6	▲4.6
合計	2,433,245	2,385,568	2,327,569	2,261,050	▲2.0	▲2.4	▲2.9

注)令和4年調査から上毛町を調査範囲に加えたことから、平成27年以前にも上毛町の人口を追加。

※出典:「国勢調査」(総務省)

■ 世帯数(地域別)の推移 ■

	国勢調査世帯数(世帯)				国勢調査世帯数増加率(%)		
	平成17年 (a)	平成22年 (b)	平成27年 (c)	令和2年 (d)	H17→H22 (b)/(a)-1	H22→H27 (c)/(b)-1	H27→R2 (d)/(c)-1
北九州市	413,510	420,702	426,277	436,245	1.7	1.3	2.3
北九州市外計	554,263	567,301	569,321	576,280	2.4	0.4	1.2
遠賀・宗像地域	88,028	91,568	93,271	96,002	4.0	1.9	2.9
直方・飯塚地域	107,950	110,133	110,882	111,625	2.0	0.7	0.7
田川地域	40,983	40,941	39,884	38,682	▲0.1	▲2.6	▲3.0
京築地域	103,242	108,498	110,022	115,453	5.1	1.4	4.9
下関地域	214,060	216,161	215,262	214,518	1.0	▲0.4	▲0.3
合計	967,773	988,003	995,598	1,012,525	2.1	0.8	1.7

注)令和4年調査から上毛町を調査範囲に加えたことから、平成27年以前にも上毛町の世帯数を追加。

※出典:「国勢調査」(総務省)

(2)北九州市全体の商圈

今回調査での北九州市の有効商圈人口は、186 万人となっている。有効商圈人口の推移をみると、平成 22 年までは減少傾向にあったが、平成 27 年から増加に転じている。今回調査では、平成 27 年と比べて、北九州市内は減少しているものの(増加率▲2.4%)、市外が増えた結果(増加率 10.0%)、全体では 6 万 1 千人の増加となっている(増加率 3.4%)。

地域別にみると、増加している地域は、直方・飯塚地域 2 万 2 千人ともっとも多く(増加率 15.8%)、次いで遠賀・宗像地域 2 万 1 千人(増加率 13.4%)、下関地域が 2 万 8 千人(増加率 9.6%)の順となっている。

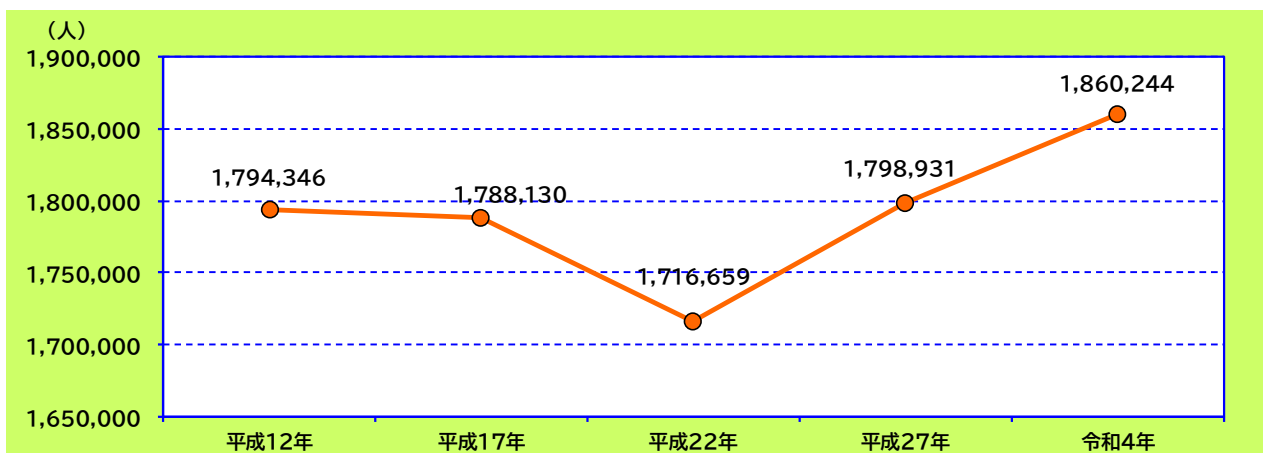
今回、有効商圈人口が増加に転じたのは、北九州市圏域の人口は減少しているものの、北九州市外の居住者の買物出向率(北九州市内のいずれかの商業地区に年 1 回以上の頻度で買物に出向く比率)が平成 27 年と比べて 8.1 ポイント上昇したことによるものである。

買物出向率の変化を地域別にみると、すべての地域で上昇しており、直方・飯塚地域の 10.7 ポイント上昇が最も高く、次いで遠賀・宗像地域が 10.3 ポイント、下関地域が 8.9 ポイント、田川地域が 7.8 ポイント、京築地域が 1.5 ポイント上昇している。

また、有効商圈人口が増加している地域の居住者が訪れている商業地区をみると、前回から引き続き、東田地区(八幡東区)、小倉中心市街地などへの買物出向率が上昇している。

東田地区については、令和4年4月にジ アウトレット北九州がオープンしたことにより、同地区への広域からの集客が進んだことなどが要因として考えられる。

■ 北九州市有効商圈人口の推移 ■



【参考：商圈の定義と有効商圈人口】

北九州市圏域の居住者に対する調査結果をもとに、市区町村ごとに、居住者が北九州市内のいずれかの商業地区に年 1 回以上の頻度で買物に出向く比率(買物出向率)を算出し、買物出向率に応じて以下の3区分で商圈ランクを設定した。なお、北九州市の各行政区は、北九州市全体の商圈としては 1 次商圈に分類した。

1次商圈	買物出向率 70%以上の市区町村
2次商圈	買物出向率 50%以上 70%未満の市区町村
3次商圈	買物出向率 30%以上 50%未満の市区町村

有効商圈人口は、北九州市圏域の市区町村ごとに、当該市区町村の人口に当該市区町村の買物出向率を乗じて得た数値とした。なお、令和 4 年調査から調査範囲に上毛町を追加したことから、平成 27 年以前の有効商圈人口には、上毛町は含まれていない。

■ 北九州市有効商圏人口(市町村別)の推移 ■

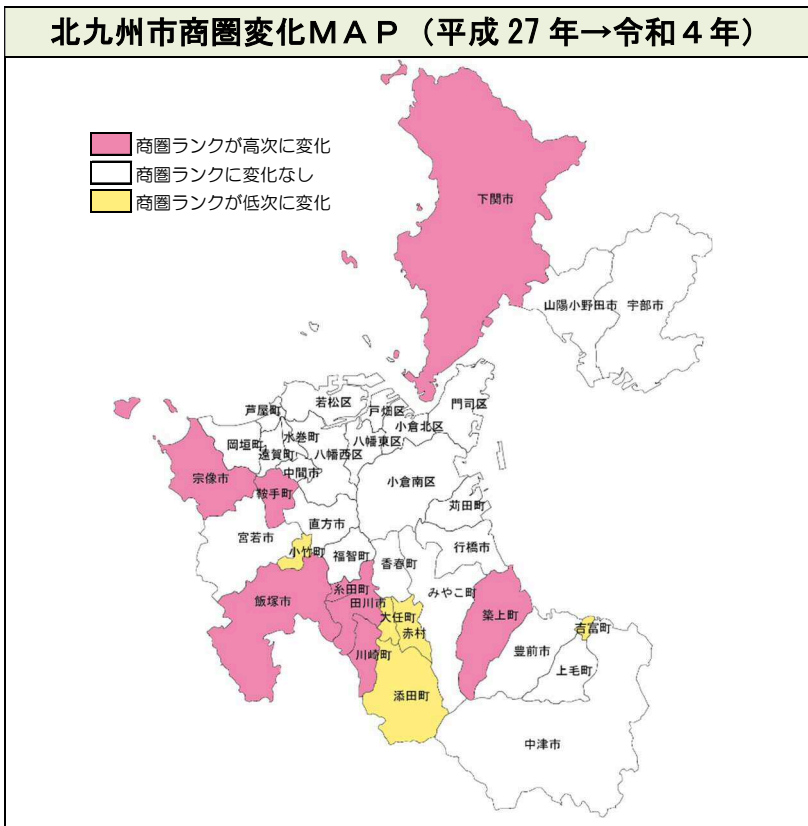
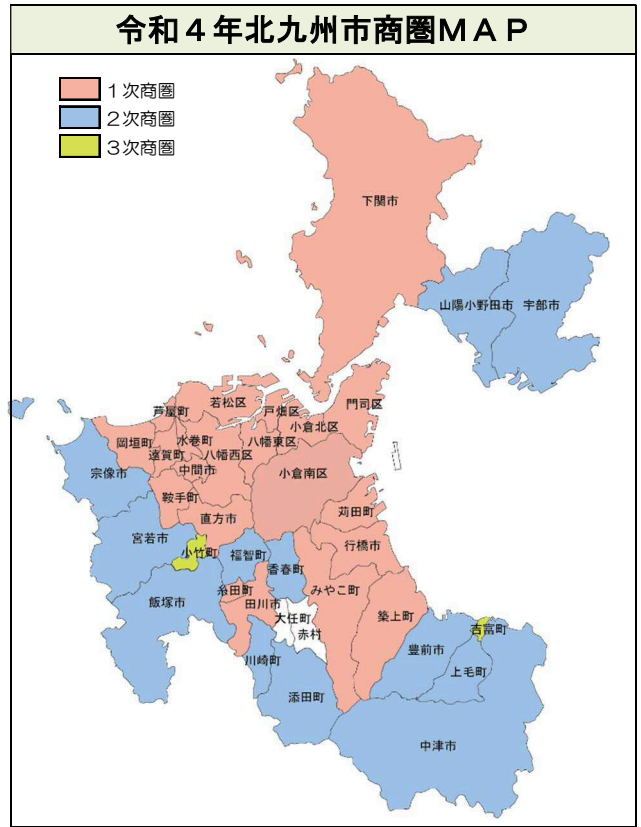
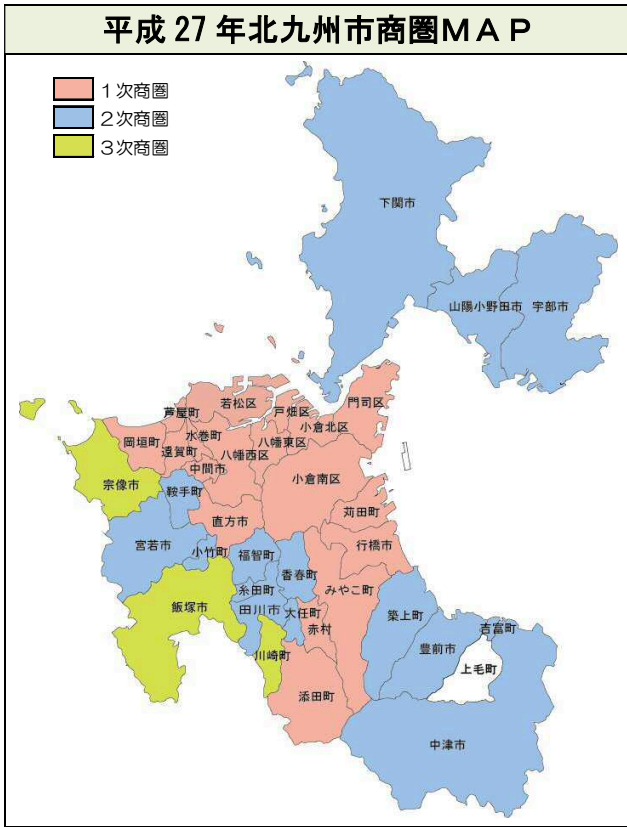
	北九州市の有効商圏人口(人)							買物出向率(%)		
	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年 (a)	令和4年 (b)	増減 (b)-(a)	増加率(%) (b)/(a)-1	平成27年 (c)	令和4年 (d)	増減 (d)-(c)
北九州市	1,011,471	993,525	976,846	961,815	939,029	▲ 22,786	▲ 2.4%	100.0%	100.0%	0.0
北九州市外計	782,875	794,605	739,813	837,116	921,215	84,099	10.0%	61.6%	69.7%	8.1
遠賀・宗像地域	166,849	175,298	167,473	158,965	180,332	21,367	13.4%	68.5%	78.8%	10.3
中間市	43,957	42,782	37,269	33,363	34,388	1,025	3.1%	79.8%	85.2%	5.4
宗像市	38,441	46,052	42,975	42,392	67,093	24,701	58.3%	43.9%	69.1%	25.2
遠賀郡芦屋町	11,549	16,249	15,369	10,649	10,159	▲ 490	▲ 4.6%	75.0%	75.0%	0.0
遠賀郡水巻町	31,154	29,350	28,970	26,942	25,640	▲ 1,302	▲ 4.8%	92.9%	91.2%	▲ 1.7
遠賀郡岡垣町	22,439	22,602	28,233	28,807	26,201	▲ 2,606	▲ 9.0%	91.2%	84.5%	▲ 6.7
遠賀郡遠賀町	19,309	18,263	14,657	16,812	16,851	39	0.2%	89.2%	90.0%	0.8
直方・飯塚地域	127,026	116,457	115,313	144,697	167,494	22,797	15.8%	53.5%	64.2%	10.7
直方市	52,606	42,368	40,611	51,576	47,049	▲ 4,527	▲ 8.8%	90.2%	83.7%	▲ 6.5
飯塚市	28,398	21,925	33,662	43,039	69,247	26,208	60.9%	33.3%	54.8%	21.5
宮若市	15,108	14,578	7,911	16,244	15,227	▲ 1,017	▲ 6.3%	57.8%	57.9%	0.1
鞍手郡小竹町	1,622	5,552	3,871	4,165	2,524	▲ 1,641	▲ 39.4%	53.3%	35.3%	▲ 18.0
鞍手郡鞍手町	13,847	13,654	11,757	9,617	12,863	3,246	33.8%	60.0%	85.3%	25.3
田川郡糸田町	2,326	4,427	4,328	6,210	6,633	423	6.8%	68.8%	78.9%	10.1
田川郡福智町	13,119	13,953	13,173	13,846	13,951	105	0.8%	60.5%	65.2%	4.7
田川地域	53,354	56,642	37,740	52,966	56,421	3,455	6.5%	56.2%	64.0%	7.8
田川市	29,597	28,312	18,521	26,750	35,253	8,503	31.8%	55.2%	76.3%	21.1
田川郡香春町	3,978	7,694	4,919	7,248	6,797	▲ 451	▲ 6.2%	66.7%	66.7%	0.0
田川郡添田町	5,250	5,906	4,244	7,085	4,612	▲ 2,473	▲ 34.9%	71.4%	52.4%	▲ 19.0
田川郡川崎町	9,254	9,283	5,370	6,065	8,848	2,783	45.9%	36.1%	58.3%	22.2
田川郡大任町	2,972	3,061	3,060	3,296	911	▲ 2,385	▲ 72.4%	63.6%	18.2%	▲ 45.4
田川郡赤村	2,303	2,386	1,626	2,522	0	▲ 2,522	▲ 100.0%	83.3%	0.0%	▲ 83.3
京築地域	161,631	183,009	178,670	181,587	189,313	7,726	4.3%	69.6%	71.1%	1.5
行橋市	30,744	55,895	63,914	51,609	62,426	10,817	21.0%	73.1%	87.4%	14.3
豊前市	15,200	16,476	19,300	16,278	15,171	▲ 1,107	▲ 6.8%	62.7%	62.2%	▲ 0.5
京都郡苅田町	32,986	31,354	30,424	28,337	31,052	2,715	9.6%	81.0%	82.4%	1.4
京都郡みやこ町	12,532	18,699	14,755	14,793	16,265	1,472	10.0%	73.0%	86.4%	13.4
築上郡吉富町	4,792	4,704	1,888	4,587	2,333	▲ 2,254	▲ 49.1%	69.2%	35.7%	▲ 33.5
築上郡築上町	15,698	15,101	8,678	10,397	14,473	4,076	39.2%	55.9%	84.2%	28.3
築上郡上毛町					4,836	4,836	-		66.7%	66.7
中津市	49,679	40,780	39,711	55,586	42,757	▲ 12,829	▲ 23.1%	66.2%	51.6%	▲ 14.6
下関地域	274,015	263,199	240,617	298,901	327,655	28,754	9.6%	59.7%	68.6%	8.9
下関市	175,248	158,653	152,835	160,633	194,349	33,716	21.0%	59.8%	76.2%	16.4
宇部市	68,799	73,750	60,994	105,034	96,567	▲ 8,467	▲ 8.1%	62.0%	59.4%	▲ 2.6
山陽小野田市	29,968	30,796	26,788	33,234	36,739	3,505	10.5%	53.0%	60.9%	7.9
合計	1,794,346	1,788,130	1,716,659	1,798,931	1,860,244	61,313	3.4%	77.5%	82.3%	4.8

注)有効商圏人口算出に使用した人口は、国勢調査人口。令和4年は令和2年の国勢調査人口。
注)合併した市町村については、平成27年10月1日時点での行政区域における商圏人口に組み替えた。
注)令和4年調査から上毛町を調査範囲に追加した。

次に、北九州市の商圏ランクを市外の市町村別にみると、全 30 市町村のうち、1次商圏は 14 市町村(中間市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町、直方市、鞍手町、糸田町、田川市、行橋市、苅田町、みやこ町、築上町、下関市)、2次商圏は 12 市町村(宗像市、飯塚市、宮若市、福智町、香春町、添田町、川崎町、豊前市、上毛町、中津市、宇部市、山陽小野田市)、3次商圏は 2 町(小竹町、吉富町)となっている。

平成 27 年と比べると、1次商圏は 3 市町村増加し、2次商圏は 3 市町村減少、3 次商圏が 1 市町村減少し、赤村(前回 1 次商圏)と大任町(前回 2 次商圏)が商圏ランク外となっている。

■ 北九州市商圏ランク ■

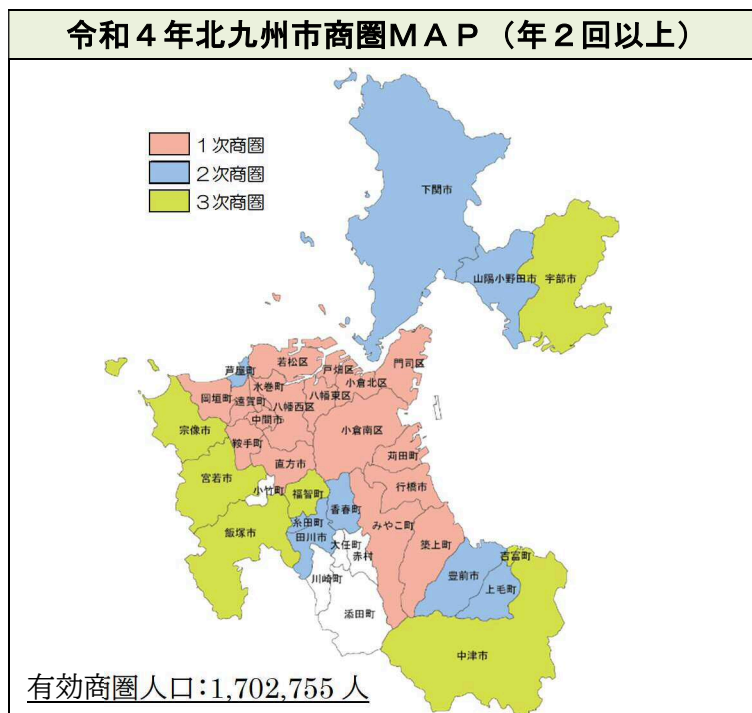


【参考:年2回以上の買物出向率による北九州市の商圈】

買物出向率を年2回以上の基準で見ると、全体の有効商圈人口は170万2千人となっている。

市外の商圈ランクをみると、1次商圈は全30市町村のうち10市町村(中間市、水巻町、岡垣町、遠賀町、直方市、鞍手町、行橋市、苅田町、みやこ町、築上町)で、北九州市の西側と南側に隣接している地域で占められている。また、2次商圈は8市町村(芦屋町、糸田町、田川市、香春町、豊前市、上毛町、下関市、山陽小野田市)、3次商圈は7市町村(宗像市、飯塚市、宮若市、福智町、吉富町、中津市、宇部市)となっている。

年1回以上の買物出向率での商圈と比べると、13市町村で商圈ランクが低くなっており、小竹町、添田町、川崎町は商圈から外れる形となっている。



(3)小倉中心市街地の商圏

今回調査での小倉中心市街地の有効商圏人口は、140万4千人となっている。

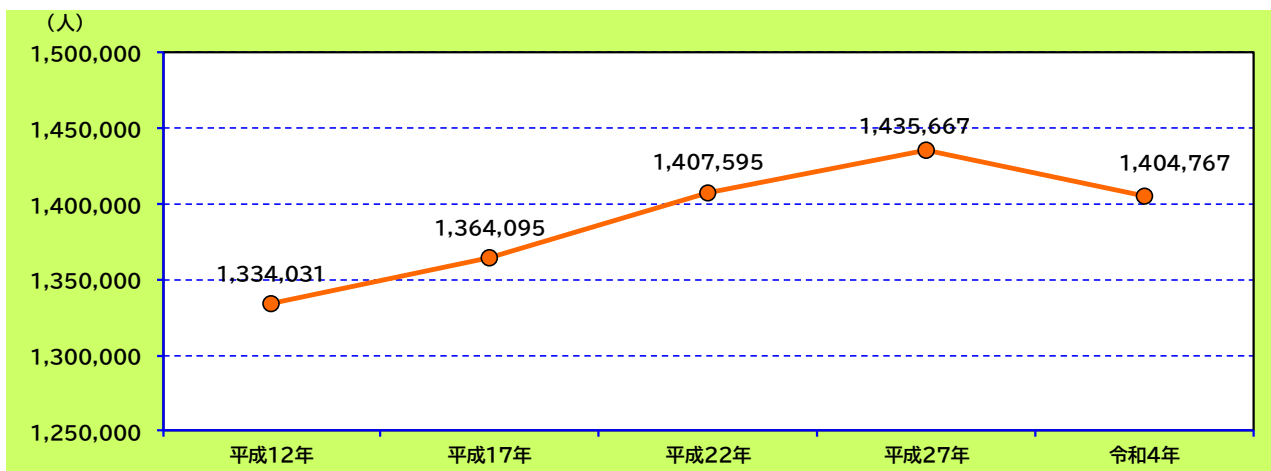
有効商圏人口の推移をみると、平成12年以降、増加傾向にあったが、今回調査では、平成27年と比べて、市外が3万1千人(増加率4.4%)増加しているものの、市内では6万2千人(増加率▲8.7%)減少しているため、全体では3万人(増加率▲2.2%)の減少となっている。

市外を地域別にみると、遠賀・宗像地域2万8千人(増加率28.8%)、直方・飯塚地域1万5千人(増加率13.9%)、田川地域25人(増加率0.1%)で増加し、京築地域1万人(増加率▲6.5%)、下関地域2千人(増加率▲0.8%)減少している。

今回、有効商圏人口が減少したのは、買物出向率が平成27年と比べて、市外居住者では3.9ポイント上昇したものの、市内居住者で4.9ポイント減少したことによるものである。

買物出向率の変化を地域別にみると、遠賀・宗像地域が13.2ポイント、直方・飯塚地域が7.5ポイント、田川地域が3.6ポイント上昇し、京築地域が5.2ポイント減少している。また、下関地域は買物出向率が2.3ポイント上昇したものの、人口が減少したことにより有効商圏人口は減少している。

■ 小倉中心市街地有効商圏人口の推移 ■



■ 小倉中心市街地有効商圏人口(地域別)の推移 ■

	小倉中心市街地の有効商圏人口(人)						買物出向率(%)		
	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年 (a)	令和4年 (b)	増加率(%) (b)/(a)-1	平成27年 (c)	令和4年 (d)	増減 (d)-(c)
北九州市	761,398	787,825	830,879	718,128	655,566	▲ 8.7%	74.7%	69.8%	▲ 4.9
北九州市外計	572,633	576,270	576,716	717,539	749,201	4.4%	52.8%	56.7%	3.9
遠賀・宗像地域	61,464	72,542	95,093	100,640	129,608	28.8%	43.4%	56.6%	13.2
直方・飯塚地域	73,704	65,357	73,413	113,478	129,253	13.9%	42.0%	49.5%	7.5
田川地域	44,670	46,666	33,076	48,331	48,356	0.1%	51.3%	54.9%	3.6
京築地域	138,845	141,966	149,946	166,115	155,332	▲ 6.5%	63.6%	58.4%	▲ 5.2
下関地域	253,950	249,739	225,188	288,975	286,652	▲ 0.8%	57.7%	60.0%	2.3
合計	1,334,031	1,364,095	1,407,595	1,435,667	1,404,767	▲ 2.2%	61.9%	62.1%	0.2

注)有効商圏人口算出に使用した人口は、国勢調査人口。

注)令和4年には上毛町を含む有効商圏人口、平成27年以前は上毛町は含まれていない。

■ 小倉中心市街地有効商圏人口(市区町村別)の推移 ■

	小倉中心市街地の有効商圏人口(人)							買物出向率(%)		
	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年 (a)	令和4年 (b)	増減 (b)-(a)	増加率(%) (b)/(a)-1	平成27年 (c)	令和4年 (d)	増減 (d)-(c)
北九州市	761,398	787,825	830,879	718,128	655,566	▲ 62,562	▲ 8.7%	74.7%	69.8%	▲ 4.9
門司区	104,358	101,190	97,574	81,735	68,223	▲ 13,512	▲ 16.5%	82.0%	72.7%	▲ 9.3
小倉北区	177,593	169,753	176,114	169,813	141,040	▲ 28,773	▲ 16.9%	93.3%	76.9%	▲ 16.4
小倉南区	190,043	189,206	192,455	175,670	148,828	▲ 26,842	▲ 15.3%	82.5%	71.2%	▲ 11.3
若松区	56,818	57,735	68,219	52,629	51,863	▲ 766	▲ 1.5%	63.5%	64.4%	0.9
八幡東区	57,972	61,764	61,821	51,530	47,428	▲ 4,102	▲ 8.0%	74.8%	73.2%	▲ 1.6
八幡西区	118,001	152,747	180,996	141,984	157,708	15,724	11.1%	55.4%	63.1%	7.7
戸畑区	56,613	55,430	53,700	44,767	40,476	▲ 4,291	▲ 9.6%	75.7%	70.4%	▲ 5.3
北九州市外計	572,633	576,270	576,716	717,539	749,201	31,662	4.4%	52.8%	56.7%	3.9
遠賀・宗像地域	61,464	72,542	95,093	100,640	129,608	28,968	28.8%	43.4%	56.6%	13.2
中間市	20,846	19,294	27,145	23,412	26,921	3,509	15.0%	56.0%	66.7%	10.7
宗像市	16,691	20,468	25,117	18,734	49,907	31,173	166.4%	19.4%	51.4%	32.0
遠賀郡芦屋町	0	5,709	4,933	7,611	8,709	1,098	14.4%	53.6%	64.3%	10.7
遠賀郡水巻町	15,810	10,228	15,011	15,284	16,615	1,331	8.7%	52.7%	59.1%	6.4
遠賀郡岡垣町	4,986	8,219	12,751	24,385	15,286	▲ 9,099	▲ 37.3%	77.2%	49.3%	▲ 27.9
遠賀郡遠賀町	3,131	8,624	10,136	11,214	12,170	956	8.5%	59.5%	65.0%	5.5
直方・飯塚地域	73,704	65,357	73,413	113,478	129,253	15,775	13.9%	42.0%	49.5%	7.5
直方市	29,591	22,697	20,825	40,026	36,313	▲ 3,713	▲ 9.3%	70.0%	64.6%	▲ 5.4
飯塚市	20,428	14,020	24,326	27,012	50,040	23,028	85.3%	20.9%	39.6%	18.7
宮若市	7,722	7,158	5,806	15,626	13,386	▲ 2,240	▲ 14.3%	55.6%	50.9%	▲ 4.7
鞍手郡小竹町	973	3,084	3,441	2,790	2,524	▲ 266	▲ 9.5%	35.7%	35.3%	▲ 0.4
鞍手郡鞍手町	4,817	5,563	6,938	8,015	10,058	2,043	25.5%	50.0%	66.7%	16.7
田川郡糸田町	1,551	3,406	3,847	6,941	5,313	▲ 1,628	▲ 23.5%	76.9%	63.2%	▲ 13.7
田川郡福智町	8,622	9,429	8,230	13,068	11,619	▲ 1,449	▲ 11.1%	57.1%	54.3%	▲ 2.8
田川地域	44,670	46,666	33,076	48,331	48,356	25	0.1%	51.3%	54.9%	3.6
田川市	26,074	21,676	16,345	23,746	28,877	5,131	21.6%	49.0%	62.5%	13.5
田川郡香春町	3,510	7,307	3,692	7,248	5,941	▲ 1,307	▲ 18.0%	66.7%	58.3%	▲ 8.4
田川郡添田町	4,250	5,250	4,244	7,085	4,189	▲ 2,896	▲ 40.9%	71.4%	47.6%	▲ 23.8
田川郡川崎町	6,520	7,478	4,292	4,200	8,438	4,238	100.9%	25.0%	55.6%	30.6
田川郡大任町	2,377	2,487	3,060	4,032	911	▲ 3,121	▲ 77.4%	77.8%	18.2%	▲ 59.6
田川郡赤村	1,939	2,468	1,443	2,020	0	▲ 2,020	▲ 100.0%	66.7%	0.0%	▲ 66.7
京築地域	138,845	141,966	149,946	166,115	155,332	▲ 10,783	▲ 6.5%	63.6%	58.4%	▲ 5.2
行橋市	26,995	41,735	57,361	47,585	50,141	2,556	5.4%	67.4%	70.2%	2.8
豊前市	12,033	13,568	17,111	15,265	14,366	▲ 899	▲ 5.9%	58.8%	58.9%	0.1
京都郡苅田町	29,321	23,262	24,843	25,433	24,947	▲ 486	▲ 1.9%	72.7%	66.2%	▲ 6.5
京都郡みやこ町	8,519	16,503	12,490	13,698	11,013	▲ 2,685	▲ 19.6%	67.6%	58.5%	▲ 9.1
築上郡吉富町	4,313	4,469	1,134	4,587	1,869	▲ 2,718	▲ 59.3%	69.2%	28.6%	▲ 40.6
築上郡築上町	13,270	12,196	5,980	9,839	10,863	1,024	10.4%	52.9%	63.2%	10.3
築上郡上毛町					4,430	4,430	-		61.1%	61.1
中津市	44,394	30,233	31,027	49,708	37,703	▲ 12,005	▲ 24.2%	59.2%	45.5%	▲ 13.7
下関地域	253,950	249,739	225,188	288,975	286,652	▲ 2,323	▲ 0.8%	57.7%	60.0%	2.3
下関市	164,662	150,464	142,440	159,827	163,233	3,406	2.1%	59.5%	64.0%	4.5
宇部市	63,066	69,412	56,476	101,307	89,576	▲ 11,731	▲ 11.6%	59.8%	55.1%	▲ 4.7
山陽小野田市	26,222	29,863	26,272	27,841	33,843	6,002	21.6%	44.4%	56.1%	11.7
合計	1,334,031	1,364,095	1,407,595	1,435,667	1,404,767	▲ 30,900	▲ 2.2%	61.9%	62.1%	0.2

注) 有効商圏人口算出に使用した人口は、国勢調査人口。令和4年は令和2年の国勢調査人口。

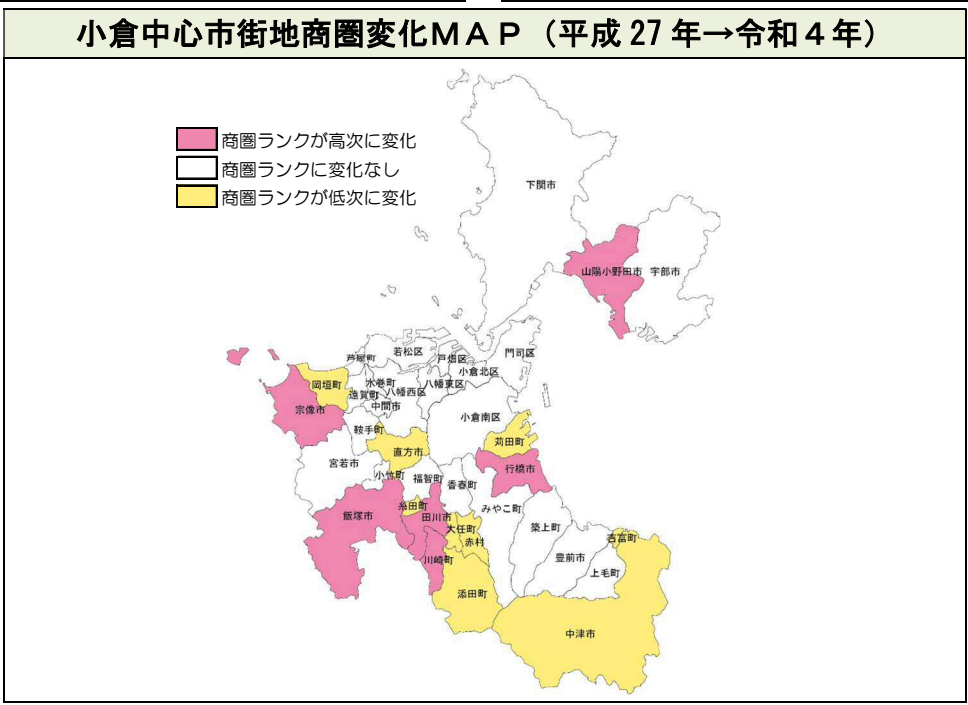
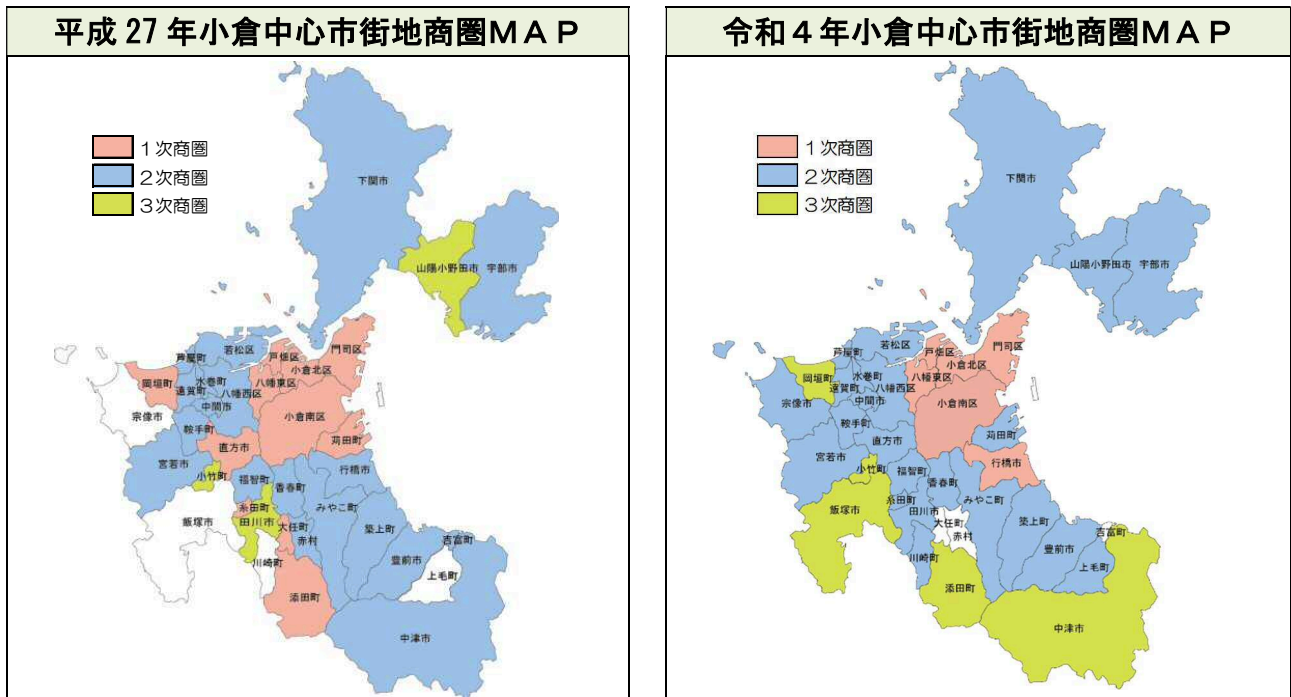
注) 合併した市町村については、平成27年10月1日時点での行政区画における商圏人口に組み替えた。

注) 令和4年調査から上毛町を調査範囲に追加した。

次に、小倉中心市街地の商圈ランクをみると、1次商圈は全 37 市区町村のうち6市区町村（門司区、小倉北区、小倉南区、八幡東区、戸畑区、行橋市）、2次商圈は23市区町村（若松区、八幡西区、中間市、宗像市、芦屋町、水巻町、遠賀町、直方市、宮若市、鞍手町、糸田町、福智町、田川市、香春町、川崎町、豊前市、苅田町、みやこ町、築上町、上毛町、下関市、宇部市、山陽小野田市）、3次商圈は 5 市区町村（岡垣町、飯塚市、小竹町、添田町、中津市）、商圈のランク外は大任町、赤村、吉富町となっている。

平成 27 年と比べると、1次商圈は5市区町村減少し、2次商圈は4市区町村増加し、3次商圈は 2 市区町村増加している。また、平成 27 年に比べて、宗像市と川崎町は商圈外から 2 次商圈、飯塚市は商圈外から 3 次商圈へアップするなど、6 市区町村がランクアップする一方、9 市区町村がランクダウンしている。

■ 小倉中心市街地商圈ランク ■

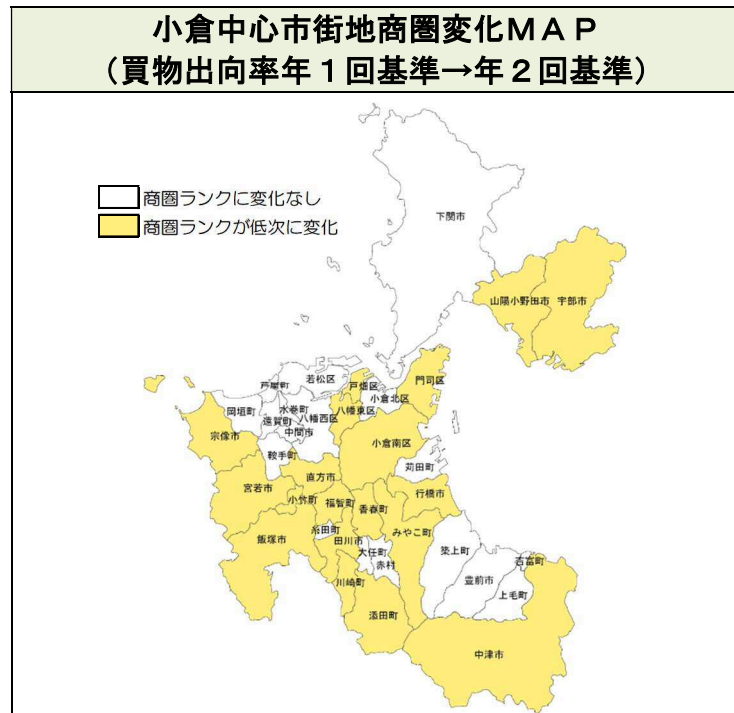
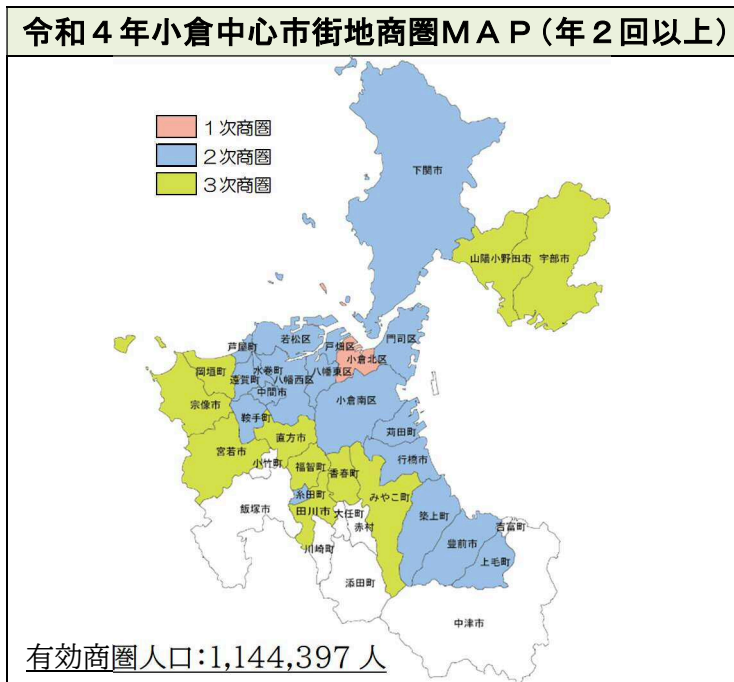


【参考:年2回以上の買物出向率による小倉中心市街地商圏】

買物出向率を年2回以上の基準で見ると、全体の有効商圏人口は114万4千人となっている。

1次商圏は全37市区町村のうち小倉北区のみ、2次商圏は18市区町村(門司区、小倉南区、若松区、八幡東区、八幡西区、戸畑区、中間市、芦屋町、水巻町、遠賀町、鞍手町、糸田町、行橋市、豊前市、苅田町、築上町、上毛町、下関市)、3次商圏は10市区町村(宗像市、岡垣町、直方市、宮若市、福智町、田川市、香春町、みやこ町、宇部市、山陽小野田市)となっている。

年1回以上の買物出向率での商圏と比べると、19市区町村で商圏ランクが低くなっている。



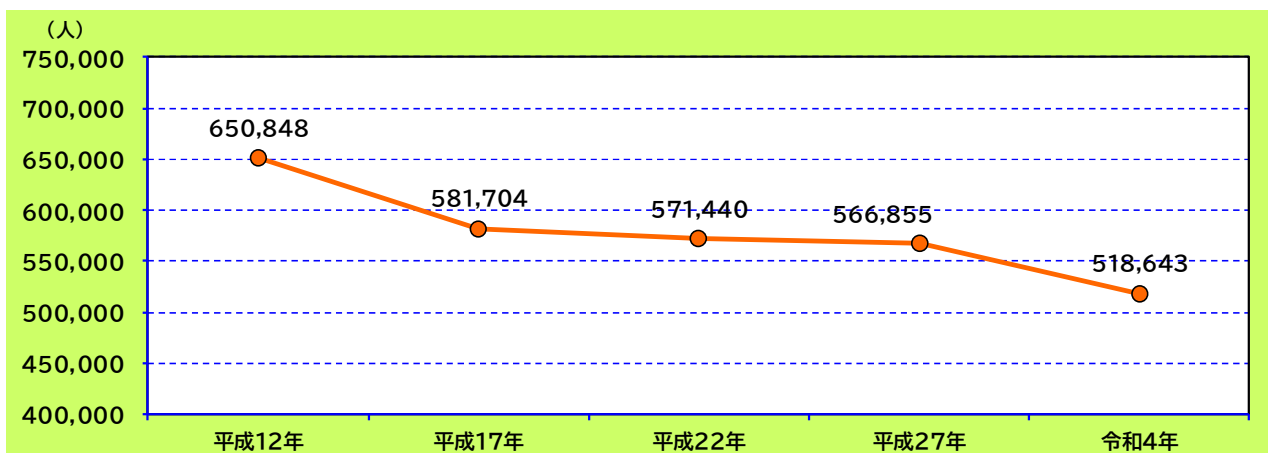
(4)黒崎中心市街地の商圈

今回調査での黒崎中心市街地の有効商圈人口は51万8千人となっている。有効商圈人口の推移をみると、平成12年以降、減少傾向で推移しており、今回の調査では、平成27年と比べて、市外では9千人(増加率4.0%)増加したが、北九州市内で5万7千人(増加率▲17.0%)減少した結果、全体で4万8千人(増加率▲8.5%)の減少となっている。

市外を地域別にみると、遠賀・宗像地域で1万6千人(増加率▲19.4%)、直方・飯塚地域で1千人(増加率▲1.9%)、京築地域で6千人(増加率▲15.2%)減少しているものの、下関地域で2万3千人(増加率75.8%)、田川地域で1万人(増加率297.1%)増加しているため、市外全体としては9千人(増加率4.0%)の増加となっている。

これは、令和2年8月のクロサキメイト閉店、黒崎井筒屋閉店により、まちの誘引力が低下し、今まで黒崎中心市街地で買い物をしていた市内居住者が減少したことなどが要因として考えられる。

■ 黒崎中心市街地有効商圈人口の推移 ■



■ 黒崎中心市街地有効商圈人口(地域別)の推移 ■

	黒崎中心市街地の有効商圈人口(人)						買物出向率(%)		
	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年 (a)	令和4年 (b)	増加率(%) (b)/(a)-1	(c)	平成27年 (d)	令和4年 増減 (d)-(c)
北九州市	412,810	373,129	371,902	338,705	281,278	▲ 17.0%	35.2%	30.0%	▲ 5.2
北九州市外計	238,038	208,575	199,538	228,150	237,365	4.0%	16.8%	18.0%	1.2
遠賀・宗像地域	135,687	114,300	110,884	86,993	70,144	▲ 19.4%	37.5%	30.7%	▲ 6.8
直方・飯塚地域	67,628	65,303	57,432	67,515	66,256	▲ 1.9%	25.0%	25.4%	0.4
田川地域	5,039	5,487	6,292	3,456	13,724	297.1%	3.7%	15.6%	11.9
京築地域	19,026	11,231	10,181	39,717	33,681	▲ 15.2%	15.2%	12.7%	▲ 2.5
下関地域	10,658	12,254	14,749	30,469	53,560	75.8%	6.1%	11.2%	5.1
合計	650,848	581,704	571,440	566,855	518,643	▲ 8.5%	24.4%	22.9%	▲ 1.5

注)有効商圈人口算出に使用した人口は、国勢調査人口。

注)令和4年には上毛町を含む有効商圈人口、平成27年以前は上毛町は含まれていない。

■ 黒崎中心市街地有効商圏人口(市区町村別)の推移 ■

	黒崎中心市街地の有効商圏人口(人)							買物出向率(%)		
	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年 (a)	令和4年 (b)	増減 (b)-(a)	増加率(%) (b)/(a)-1	平成27年 (c)	令和4年 (d)	増減 (d)-(c)
北九州市	412,810	373,129	371,902	338,705	281,278	▲ 57,427	▲ 17.0%	35.2%	30.0%	▲ 5.2
門司区	11,678	6,677	7,208	7,476	13,419	5,943	79.5%	7.5%	14.3%	6.8
小倉北区	21,518	23,025	26,199	22,751	37,598	14,847	65.3%	12.5%	20.5%	8.0
小倉南区	16,174	13,950	18,043	17,886	30,309	12,423	69.5%	8.4%	14.5%	6.1
若松区	53,736	44,112	46,075	40,114	31,649	▲ 8,465	▲ 21.1%	48.4%	39.3%	▲ 9.1
八幡東区	57,063	54,362	45,235	39,888	27,148	▲ 12,740	▲ 31.9%	57.9%	41.9%	▲ 16.0
八幡西区	232,565	209,457	211,591	197,343	123,217	▲ 74,126	▲ 37.6%	77.0%	49.3%	▲ 27.7
戸畑区	20,076	21,546	17,551	13,247	17,938	4,691	35.4%	22.4%	31.2%	8.8
北九州市外計	238,038	208,575	199,538	228,150	237,365	9,215	4.0%	16.8%	18.0%	1.2
遠賀・宗像地域	135,687	114,300	110,884	86,993	70,144	▲ 16,849	▲ 19.4%	37.5%	30.7%	▲ 6.8
中間市	40,785	29,627	27,720	24,792	12,795	▲ 11,997	▲ 48.4%	59.3%	31.7%	▲ 27.6
宗像市	27,313	25,073	24,544	9,560	30,294	20,734	216.9%	9.9%	31.2%	21.3
遠賀郡芦屋町	5,561	9,222	8,238	6,091	2,005	▲ 4,086	▲ 67.1%	42.9%	14.8%	▲ 28.1
遠賀郡水巻町	27,899	21,790	23,056	18,445	8,940	▲ 9,505	▲ 51.5%	63.6%	31.8%	▲ 31.8
遠賀郡岡垣町	17,951	14,383	16,060	19,963	9,426	▲ 10,537	▲ 52.8%	63.2%	30.4%	▲ 32.8
遠賀郡遠賀町	16,178	14,205	11,266	8,142	6,684	▲ 1,458	▲ 17.9%	43.2%	35.7%	▲ 7.5
直方・飯塚地域	67,628	65,303	57,432	67,515	66,256	▲ 1,259	▲ 1.9%	25.0%	25.4%	0.4
直方市	38,633	28,750	29,362	31,163	21,529	▲ 9,634	▲ 30.9%	54.5%	38.3%	▲ 16.2
飯塚市	7,050	10,442	11,045	9,435	25,778	16,343	173.2%	7.3%	20.4%	13.1
宮若市	7,051	7,419	3,700	12,478	6,127	▲ 6,351	▲ 50.9%	44.4%	23.3%	▲ 21.1
鞍手郡小竹町	649	2,974	2,581	1,563	1,259	▲ 304	▲ 19.4%	20.0%	17.6%	▲ 2.4
鞍手郡鞍手町	9,633	10,114	8,544	7,213	6,786	▲ 427	▲ 5.9%	45.0%	45.0%	0.0
田川郡糸田町	1,163	1,022	0	1,200	883	▲ 317	▲ 26.4%	13.3%	10.5%	▲ 2.8
田川郡福智町	3,449	4,582	2,200	4,463	3,894	▲ 569	▲ 12.7%	19.5%	18.2%	▲ 1.3
田川地域	5,039	5,487	6,292	3,456	13,724	10,268	297.1%	3.7%	15.6%	11.9
田川市	3,758	2,654	2,733	1,018	9,518	8,500	835.0%	2.1%	20.6%	18.5
田川郡香春町	0	275	0	0	1,274	1,274	-	0.0%	12.5%	12.5
田川郡添田町	0	437	611	943	1,672	729	77.3%	9.5%	19.0%	9.5
田川郡川崎町	841	1,547	2,155	487	1,260	773	158.7%	2.9%	8.3%	5.4
田川郡大任町	198	574	611	0	0	0	-	0.0%	0.0%	0.0
田川郡赤村	242	0	182	1,008	0	▲ 1,008	▲ 100.0%	33.3%	0.0%	▲ 33.3
京築地域	19,026	11,231	10,181	39,717	33,681	▲ 6,036	▲ 15.2%	15.2%	12.7%	▲ 2.5
行橋市	10,498	3,726	1,127	5,860	10,142	4,282	73.1%	8.3%	14.2%	5.9
豊前市	0	969	1,108	2,596	3,171	575	22.1%	10.0%	13.0%	3.0
京都郡苅田町	2,618	3,034	1,872	2,484	7,386	4,902	197.3%	7.1%	19.6%	12.5
京都郡みやこ町	1,785	1,380	1,143	5,471	602	▲ 4,869	▲ 89.0%	27.0%	3.2%	▲ 23.8
築上郡吉富町	958	0	0	0	0	0	-	0.0%	0.0%	0.0
築上郡築上町	1,053	716	547	2,734	1,805	▲ 929	▲ 34.0%	14.7%	10.5%	▲ 4.2
築上郡上毛町					1,211	1,211	-		16.7%	16.7
中津市	2,114	1,406	4,384	20,572	9,364	▲ 11,208	▲ 54.5%	24.5%	11.3%	▲ 13.2
下関地域	10,658	12,254	14,749	30,469	53,560	23,091	75.8%	6.1%	11.2%	5.1
下関市	9,409	10,236	9,833	12,625	29,841	17,216	136.4%	4.7%	11.7%	7.0
宇部市	0	1,085	3,302	17,280	16,420	▲ 860	▲ 5.0%	10.2%	10.1%	▲ 0.1
山陽小野田市	1,249	933	1,614	564	7,299	6,735	1194.1%	0.9%	12.1%	11.2
合 計	650,848	581,704	571,440	566,855	518,643	▲ 48,212	▲ 8.5%	24.4%	22.9%	▲ 1.5

注) 有効商圏人口算出に使用した人口は、国勢調査人口。令和4年は令和2年の国勢調査人口。

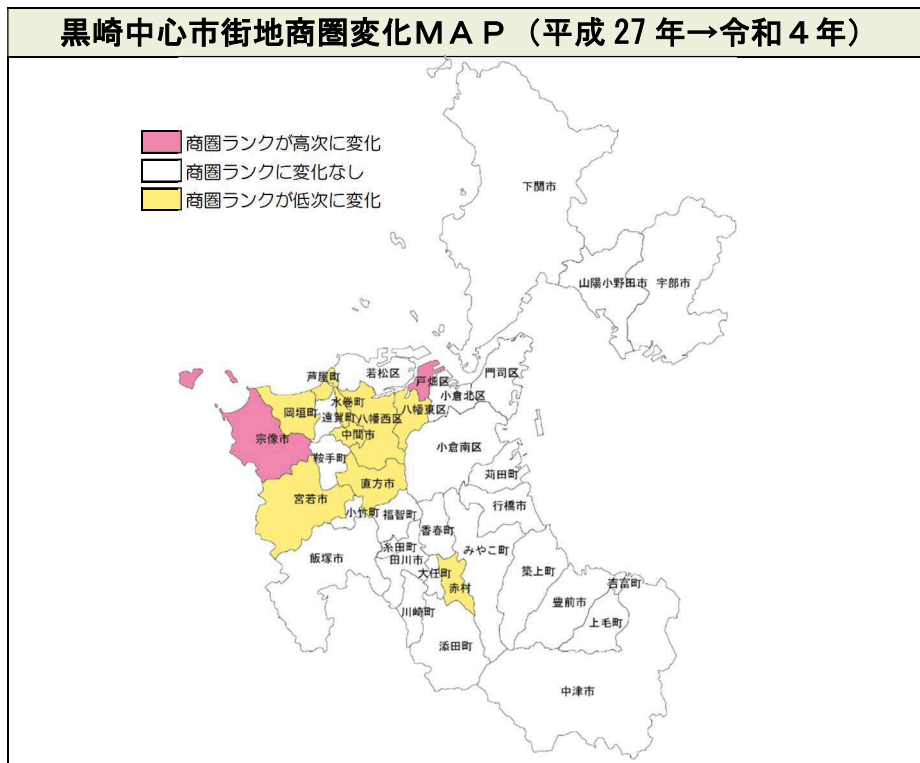
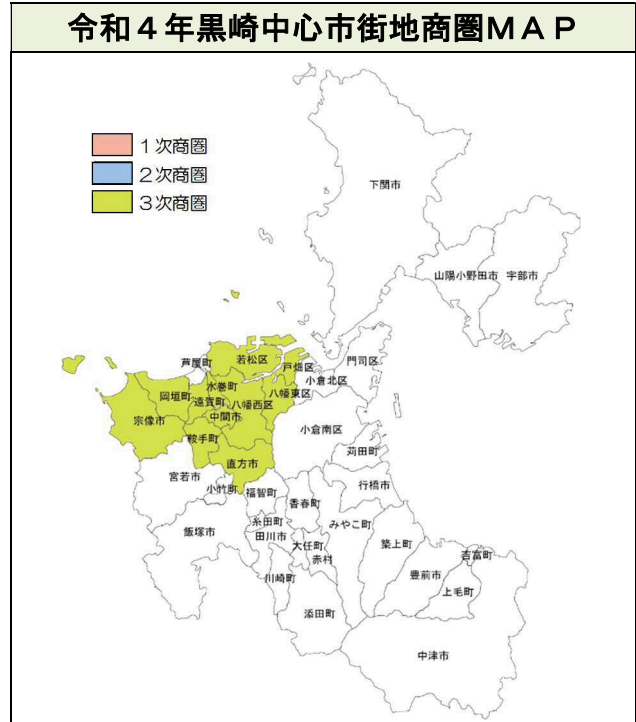
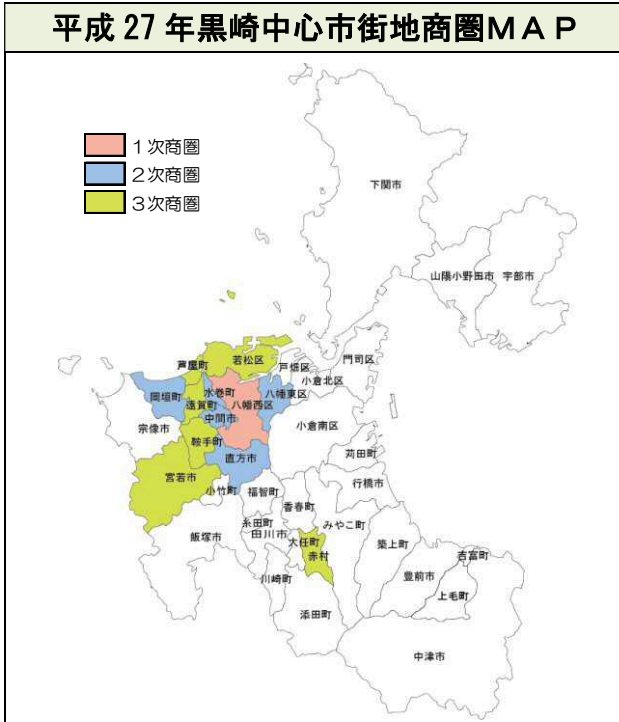
注) 合併した市町村については、平成27年10月1日時点での行政区域における商圏人口に組み替えた。

注) 令和4年調査から上毛町を調査範囲に追加した。

次に、黒崎中心市街地の商圈ランクをみると、1次・2次商圈に該当する市区町村はなく、3次商圈が11市区町村(若松区、八幡東区、八幡西区、戸畑区、中間市、宗像市、水巻町、岡垣町、遠賀町、直方市、鞍手町)となっており、商圈はかなり限定的なものとなっている。

平成27年と比べると、戸畑区と宗像市が商圈外から3次商圈にランクアップしているものの、八幡西区は1次商圈から3次商圈に、八幡東区、中間市、水巻町、岡垣町、直方市は2次商圈から3次商圈、芦屋町、宮若市、赤村が3次商圈から商圈外にランクダウンしている。

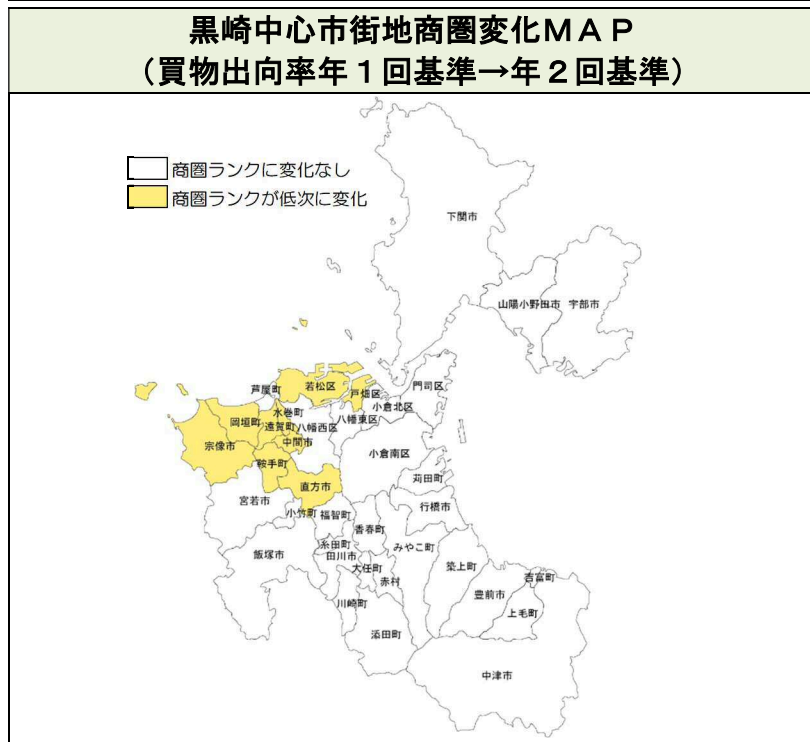
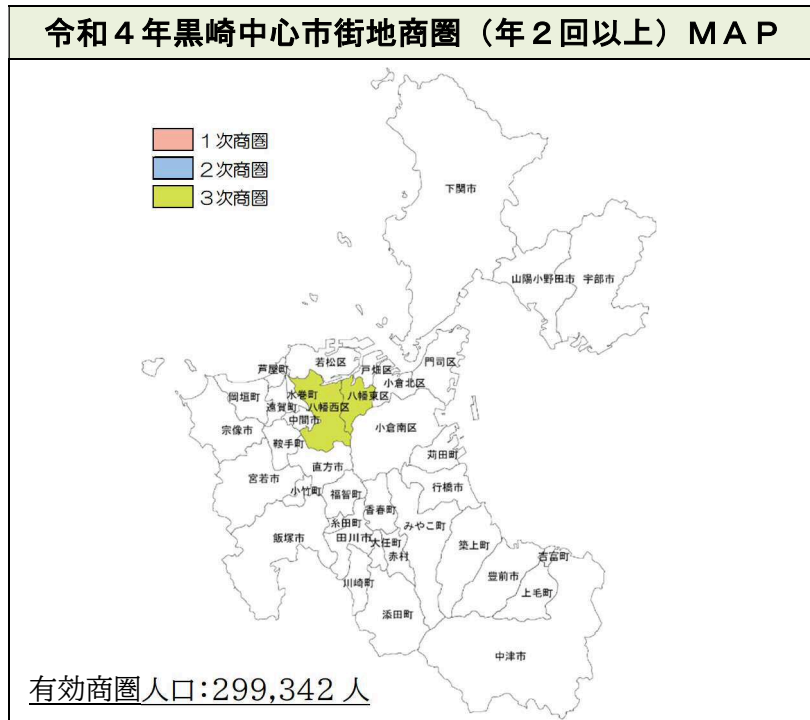
■ 黒崎中心市街地商圈ランク ■



【参考:年2回以上の買物出向率による黒崎中心市街地商圏】

買物出向率を年2回以上の基準で見ると、全体の有効商圏人口は29万9千人となっている。1次商圏、2次商圏はなく、3次商圏が八幡東区、八幡西区の2区となっている。

年1回以上の買物出向率での商圏と比べると、市内では若松区と戸畑区、市外では中間市、宗像市、水巻町、岡垣町、遠賀町、直方市、鞍手町が商圏外にランクダウンしている。



(5) 主な商業地区への買物出向率

北九州市内居住者の主な商業地区への年1回以上の買物出向率をみると、大型店の集積が進んでいる東田地区への出向率が49.9%と他の地区と比べてかなり高くなっている。次いで葛原・下曾根地区35.3%、折尾・本城地区29.8%、戸畑駅周辺27.7%となっている。また、今回調査から加えた高須・学研都市地区へは24.1%、12商業地区の中で5番目に高くなっている。

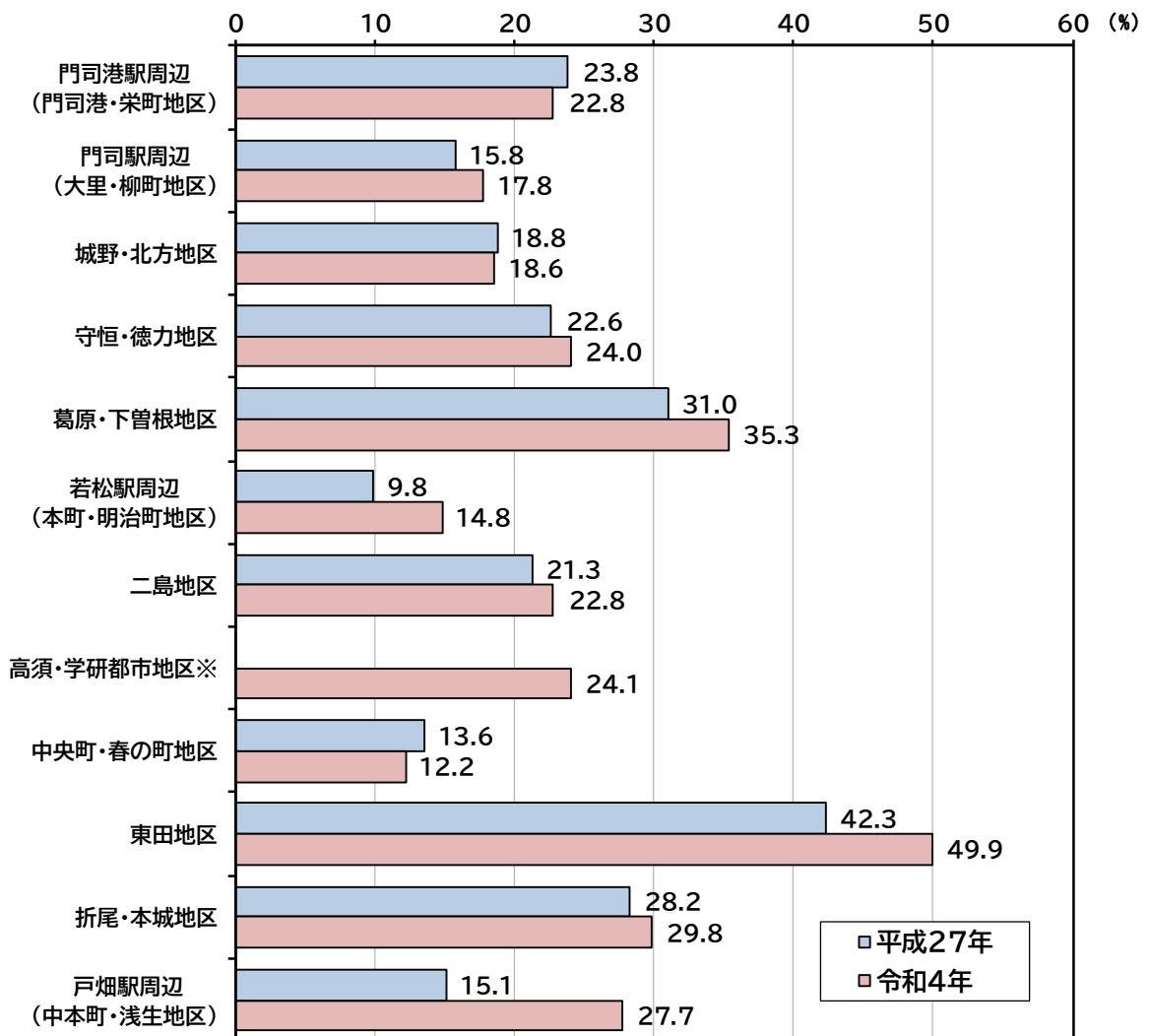
平成27年の買物出向率と比べると、最も上昇しているのは、戸畑駅周辺で15.1%から27.7%、12.6ポイントの上昇となっている。次いで東田地区が42.3%から49.9%に、7.6ポイントの上昇となっている。

12商業地区のうち8地区が前回よりも上昇し、3地区はほぼ現状維持で、大きく減少した地区はみられない。

■ 主な商業集積地区の位置図 ■



■ 買物出向率(市内居住者) ■

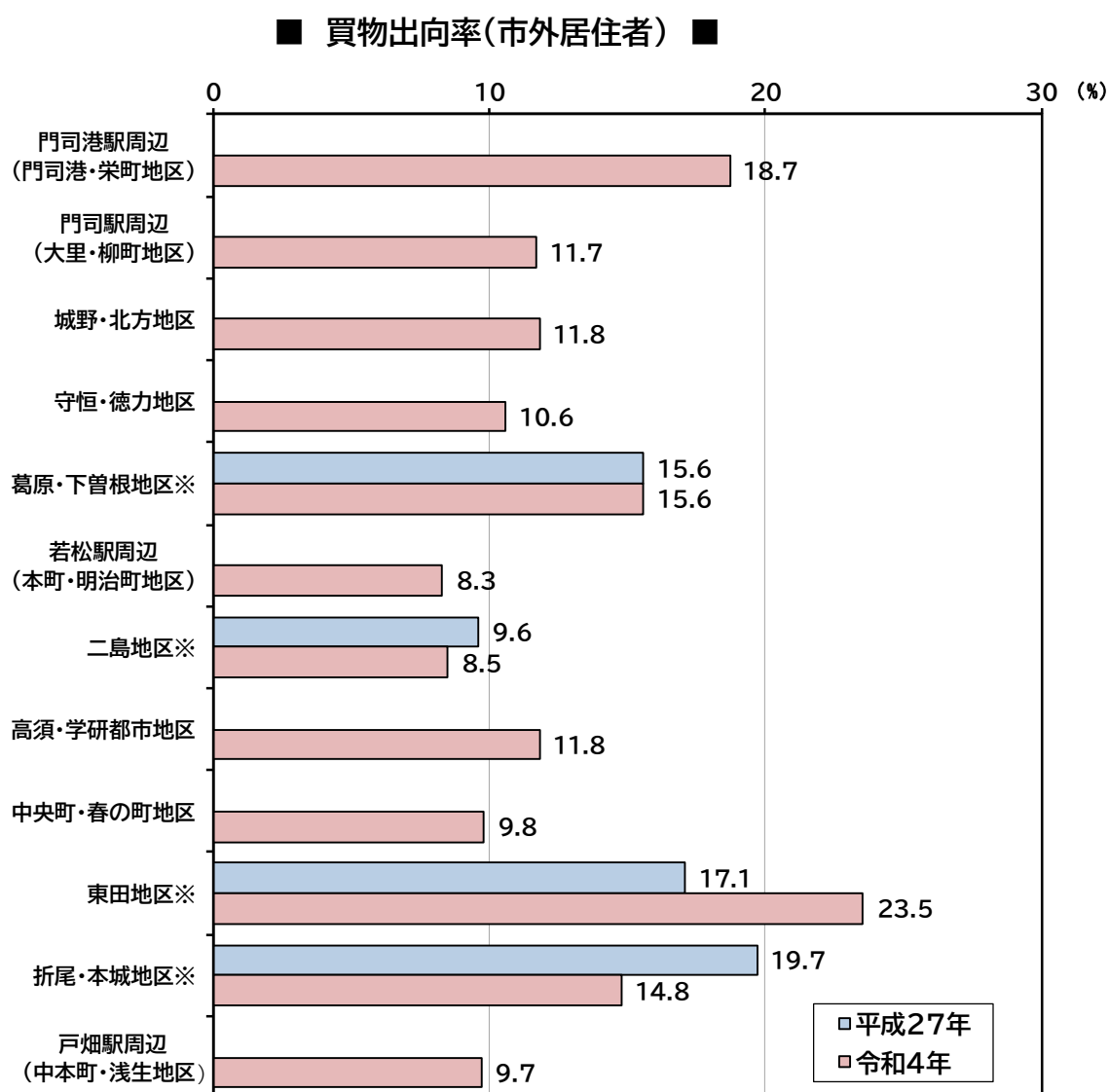


※高須・学研都市地区は今回調査より追加。

北九州市外居住者については、今回調査から市内居住者と同一の商業地区設定としたため、正確な比較はできないが、前回と比較できる葛原・下曾根地区、二島地区、東田地区、折尾・本城地区のみ比較して、下図に示した。

市外居住者の主な商業地区への年1回以上の買物出向率をみると、東田地区が23.5%と最も多い。次いで門司港駅周辺18.7%、葛原・下曾根地区15.6%、折尾・本城地区14.8%となっている。

平成27年の買物出向率と比べると、東田地区への出向が17.1%から23.5%に、6.4ポイント上昇している。葛原・下曾根地区は前回と同率、折尾・本城地区へは19.7%から14.8%に、4.9ポイント減少、二島地区は9.6%から8.5%に、1.1ポイント減少している。

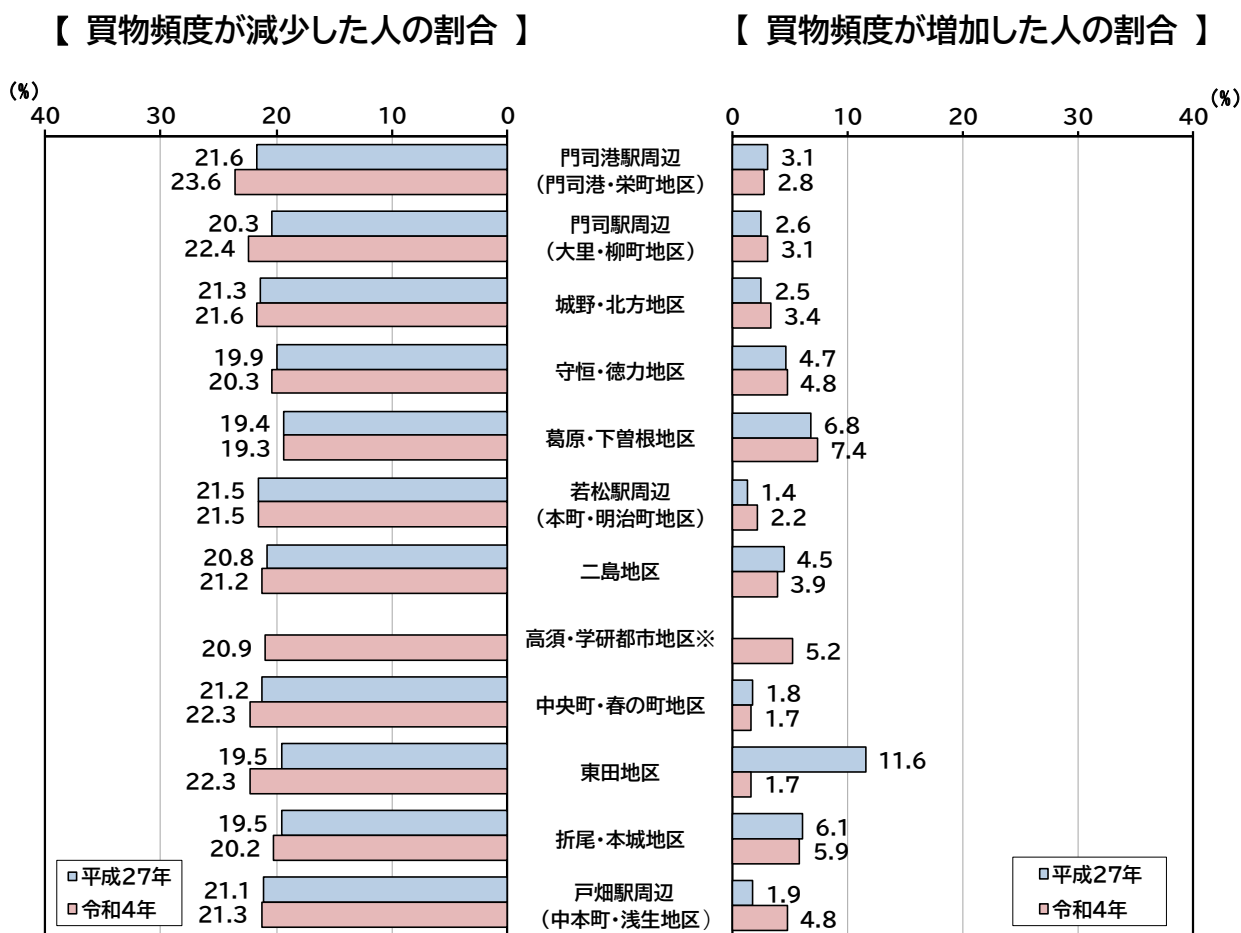


※前回調査では、市外居住者には「葛原・下曾根地区」、「二島地区」、「東田地区」、「折尾・本城地区」のみ質問。

次に、市内居住者の買物頻度の変化を地区別にみると、コロナ禍の影響も大きいと思われるが、全ての地区において買物頻度が増加した人の割合よりも、買物頻度が減少した人の割合が大きくなっている。買物頻度が増加した人の割合は、葛原・下曽根地区の7.4%が最も高くなっている。次いで折尾・本城地区が5.9%、高須・学研都市地区が5.2%、守恒・徳力地区が4.8%となっており、その他の地区は2～3%程度にとどまっている。

平成27年と比べると、東田地区では前は11.6%と増加していたが、今回は1.7%にとどまっている以外は、前回とほぼ同様の増減傾向であり、大きな変化はみられない。

■ 買物頻度の増減(市内居住者) ■



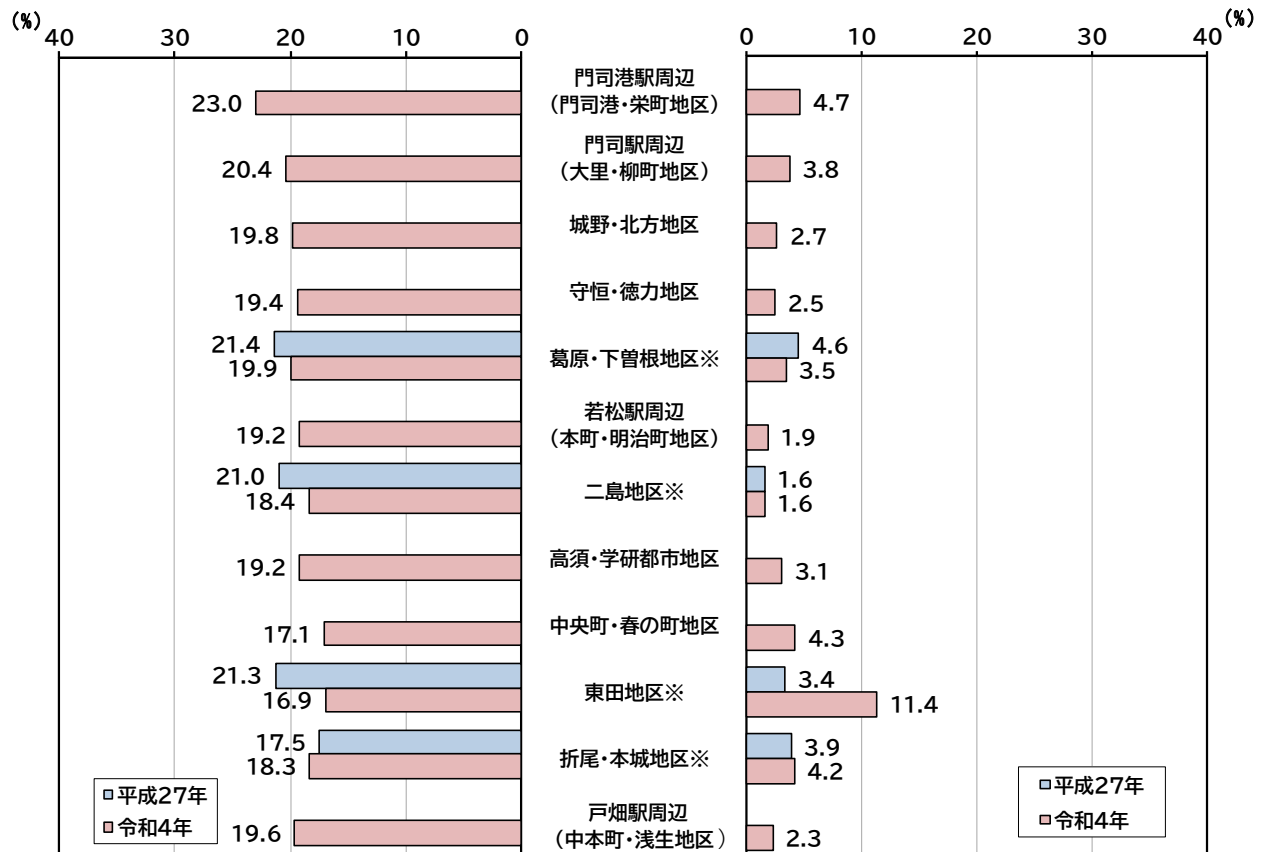
※高須・学研都市地区は今回調査より追加。

続いて、市外居住者の買物頻度の変化を地区別にみると、市内居住者と同様に、全ての地区において買物頻度が増加した人の割合よりも、買物頻度が減少した人の割合が大きくなっている。その中で、東田地区では、増加した人の割合が11.4%と、前回の3.4%を大幅に上回っており、減少が21.3%から16.9%に低下しており、市内居住者と反対の傾向を示している。

■ 買物頻度の増減(市外居住者) ■

【 買物頻度が減少した人の割合 】

【 買物頻度が増加した人の割合 】



※前回調査では、市外居住者には「葛原・下曽根地区」、「二島地区」、「東田地区」、「折尾・本城地区」のみ質問。

(6) 主な商業地区の特性

① 門司港駅周辺(門司港・栄町地区(門司区))

門司港・栄町地区は、国際貿易港であった門司港の中心商業地として戦前より発展した地区で、近隣住民の台所として生鮮食品を取り扱う小売店舗が立ち並んでいる。北九州市最古の百貨店である山城屋百貨店が平成13年(2001年)までこの地区で営業をしていた。また、門司港レトロの最寄り商店街であることから、名物焼きカレーのお店など、観光客向けの店舗も増えつつある。

平成31年(2019年)3月には、大正時代に甦った門司港駅がグランドオープンし、観光地としてさらなる飛躍が期待されている。

門司港・栄町地区への年1回以上の買物出向率をみると、全体では20.8%となっている。

市内居住者でみると、市内全体では22.8%となっており、行政区別では門司区が68.8%で最も高く、次いで、小倉南区21.8%、小倉北区21.3%となっている。

市外居住者でみると、市外全体では18.7%となっており、地域別では下関地域の30.4%が最も高くなっている。

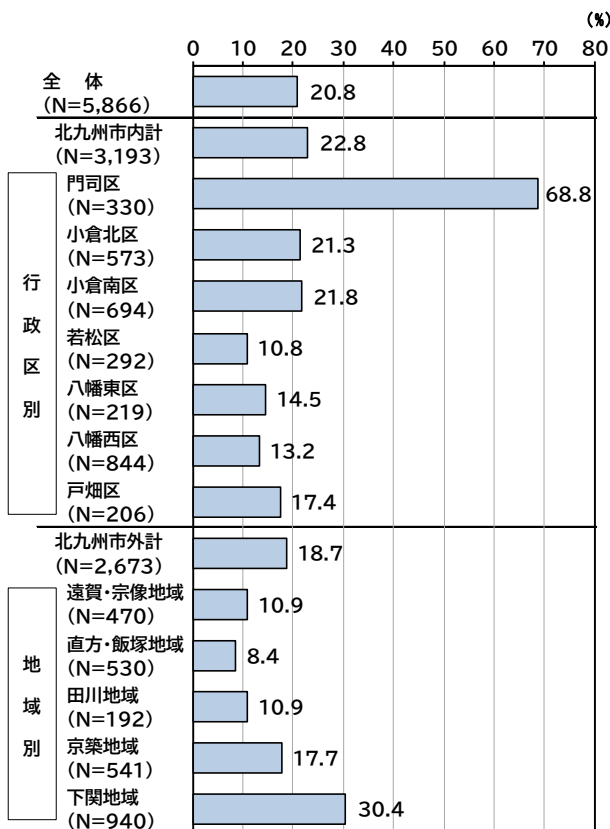
次に、買物頻度の増減をみると、全体では「減少」が23.4%と、「増加」の3.7%を大きく上回っている。

市内居住者でみても「減少」が「増加」を大きく上回っているが、門司区では「増加」が10.0%と高くなっている。

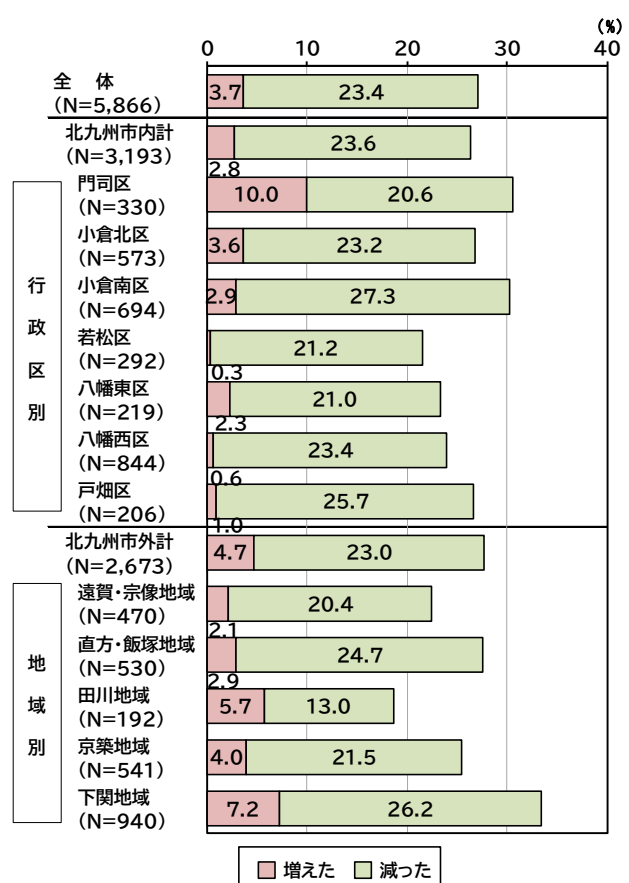
市外居住者でみても、「減少」が「増加」を大きく上回っている。

【門司港駅周辺(門司港・栄町地区)】

■ 年1回以上の買物出向率 ■



■ 買物頻度の増減状況 ■



② 門司駅周辺(大里・柳町地区(門司区))

大里・柳町地区は、JR 門司駅に隣接する商店街である。駅を挟んで西側の臨海エリアでは、大里土地区画整理事業により、旧ビール工場の建造物群を保存活用した「門司赤煉瓦プレイス」をはじめ、商業施設、住宅地、公園などの整備も進み、「大里赤煉瓦タウン」の愛称で親しまれている。

大里・柳町地区への年1回以上の買物出向率をみると、全体では14.9%となっている。

市内居住者でみると、市内全体では17.8%となっており、行政区別では門司区が90.2%と圧倒的に高く、小倉北区と小倉南区以外は10%に満たない結果となっている。

市外居住者でみると、市外全体では11.7%となっており、地域別では下関地域からの19.0%が最も高くなっている。

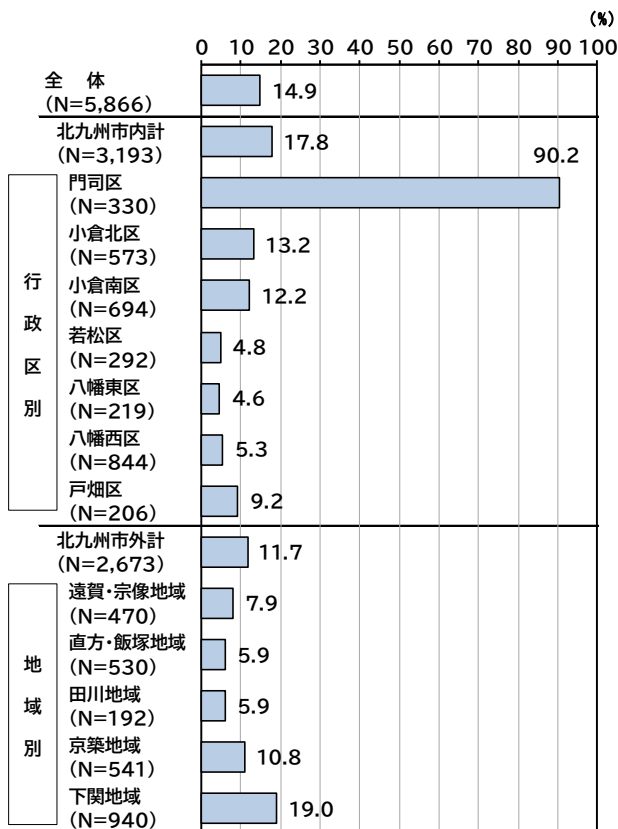
次に、買物頻度の増減をみると、全体では「減少」が21.4%と、「増加」の3.4%を大きく上回っている。

市内居住者でみても「減少」が「増加」を大きく上回っているが、門司区では「増加」が17.0%と高くなっている。

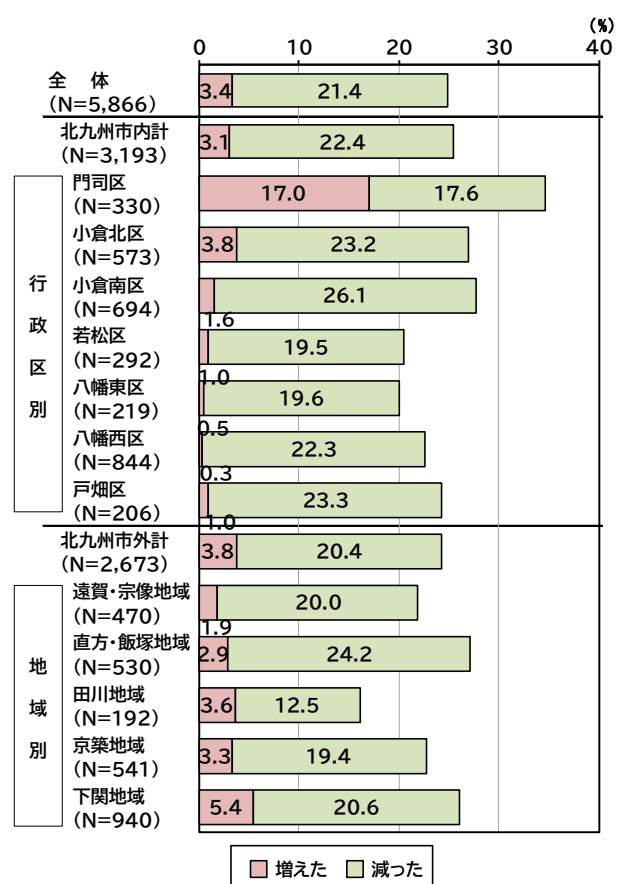
市外居住者でみても、「減少」が「増加」を大きく上回っている。

【門司駅周辺(大里・柳町地区)】

■ 年1回以上の買物出向率 ■



■ 買物頻度の増減状況 ■



③ 城野・北方地区(小倉南区)

城野・北方地区は、JR城野駅からモノレール北方駅周辺にかけての地区で、昭和56年(1981年)にJR城野駅近くにオープンしたダイエー城野店(イオン城野店)が立地していたが、平成29年(2017年)に閉店。イオン城野店の跡地には、令和5年(2023年)にマックスバリュが出店を予定している。また、平成30年(2018年)にはJR城野駅南口近くに、ゆめマート城野がオープンした。国道322号沿線(旧・西鉄北方線沿線)には、スーパーや小規模店舗が立ち並ぶものの、大きな商業集積エリアはみられない。近くには「城野ゼロ・カーボン先進街区」の区域があり、低炭素化の先進モデルの取組が進められている。

城野・北方地区への年1回以上の買物出向率をみると、全体では15.3%となっている。

市内居住者でみると、市内全体では18.6%となっており、行政区別では小倉南区が44.0%と最も高く、次いで、小倉北区28.2%、門司区14.1%となっている。

市外居住者でみると、市外全体では11.8%となっており、地域別では京築地域の18.8%が最も高くなっている。

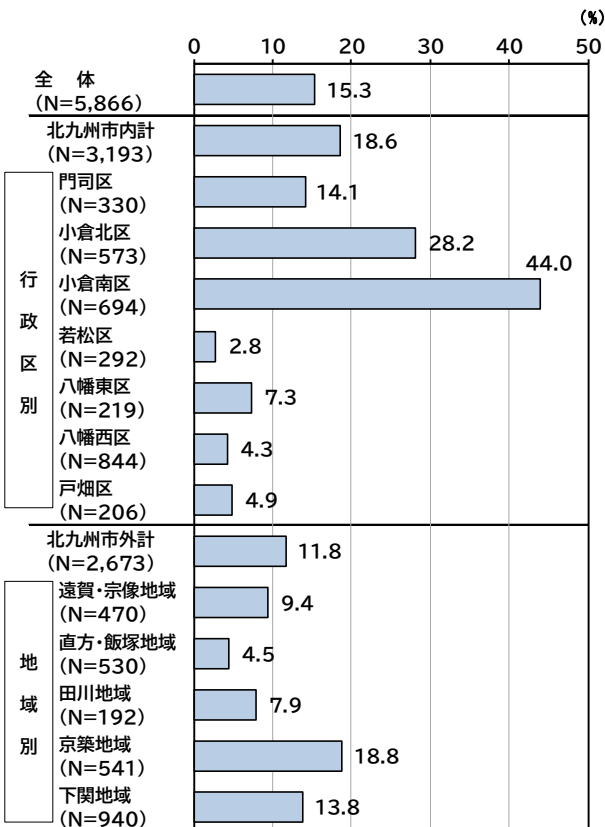
次に、買物頻度の増減をみると、全体では「減少」が20.8%と、「増加」の3.1%を大きく上回っている。

市内居住者でみても「減少」が「増加」を大きく上回っているが、「増加」は小倉南区で7.9%、小倉北区で6.3%と高くなっている。

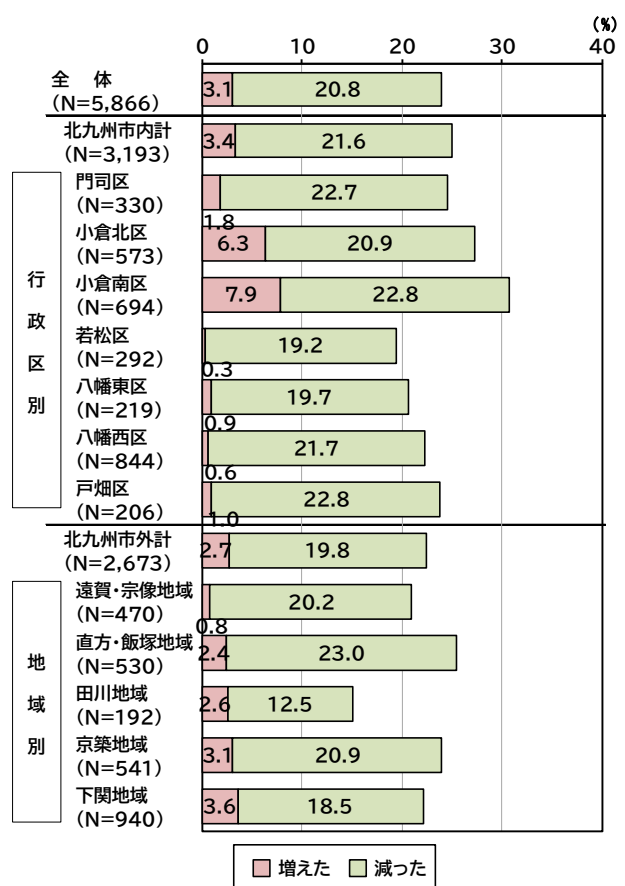
市外居住者でみても「減少」が「増加」を大きく上回っている。

【 城野・北方地区 】

■ 年1回以上の買物出向率 ■



■ 買物頻度の増減状況 ■



④ 守恒・徳力地区(小倉南区)

守恒・徳力地区は、北九州モノレール沿線の郊外地区であるが、丘陵地の守恒地区は民間ディベロッパーによってスプロール的に分譲戸建て住宅の開発が進んだ地区であるのに対し、平地の徳力地区は土地区画整理事業によって計画的に市街地が形成された地区である。守恒地区では徳力サティ(イオン徳力店)、徳力アピロスが立地していたがそれぞれ平成 29 年(2017 年)、平成 21 年(2009 年)に閉店した。一方で平成 24 年(2012 年)にサンリブもりつね、2019 年(平成 31 年)にはマルショク新守恒がオープンし、近隣のナフコも含めて、郊外型ショッピングセンターが集積した地区である。

守恒・徳力地区への年 1 回以上の買物出向率をみると、全体では 17.6%となっている。

市内居住者でみると、市内全体では 24.0%となっており、行政区別では小倉南区が 63.6%と最も高く、次いで、小倉北区 30.2%となっている。

市外居住者でみると、市外全体では 10.6%となっており、地域別では京築地域の 15.7%が最も高くなっている。

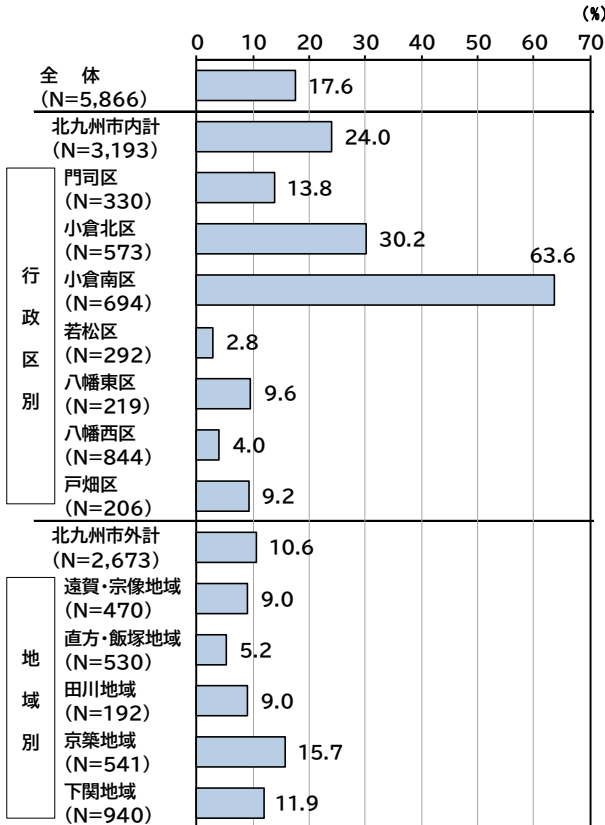
次に、買物頻度の増減をみると、全体では「減少」が 19.9%と、「増加」の 3.7%を大きく上回っている。

市内居住者でみても「減少」が「増加」を大きく上回っているが、小倉南区では「増加」が 14.1%と高くなっている。

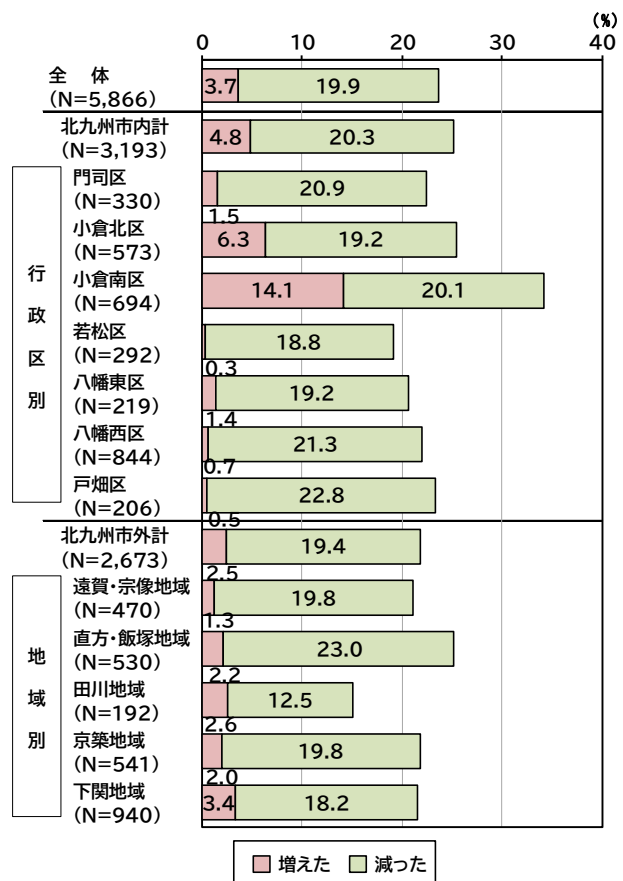
市外居住者でみても、「減少」が「増加」を大きく上回っている。

【 守恒・徳力地区 】

■ 年1回以上の買物出向率 ■



■ 買物頻度の増減状況 ■



⑤ 葛原・下曾根地区(小倉南区)

葛原・下曾根地区は、九州自動車道小倉東インター近くに位置しており、他の商業集積地と比べると郊外型の地区である。下曾根地区は、下曾根駅南口土地区画整理事業によって開発された地区で、平成7年(1995年)に中心施設であるザ・モール小倉(現・サニーサイドモール小倉)がオープンした。JR下曾根駅南口から国道10号バイパスにかけての沿道地区には、郊外型の店舗が立ち並んでいる。葛原地区は、葛原土地区画整理事業によって開発が進んだ地区で、平成17年(2005年)に中心施設であるサンリブシティ小倉がオープンし、現在では、コジマ、ナフコ、ニトリなどの郊外型店舗が集積している。

葛原・下曾根地区への年1回以上の買物出向率をみると、全体では25.9%となっている。

市内居住者でみると、市内全体では35.3%となっており、行政区別では小倉南区が88.0%と最も高く、次いで、門司区46.0%、小倉北区37.1%となっている。

市外居住者でみると、市外全体では15.6%となっており、地域別では京築地域の32.7%が最も高くなっている。

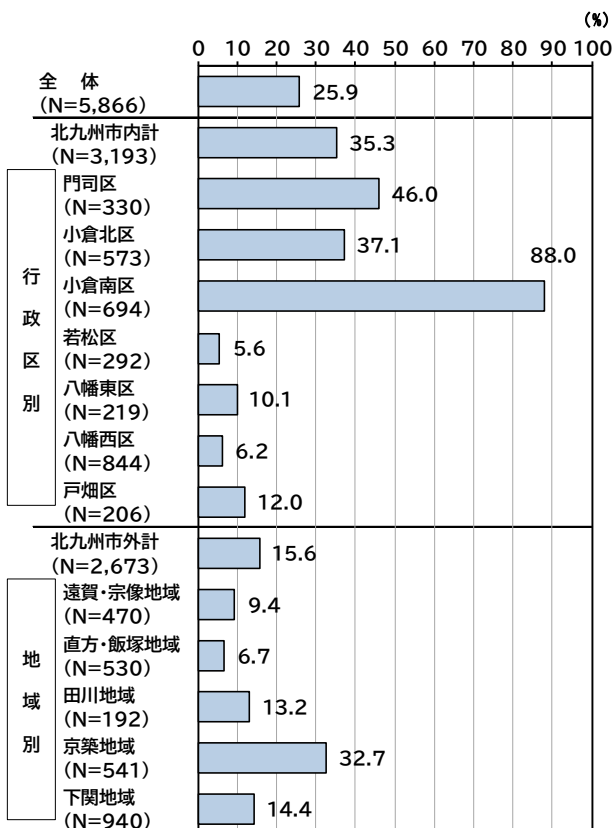
次に、買物頻度の増減をみると、全体では「減少」が19.6%と、「増加」の5.6%を大きく上回っている。

市内居住者でみても「減少」が「増加」を大きく上回っているが、小倉南区では「増加」が22.7%と高くなっている。

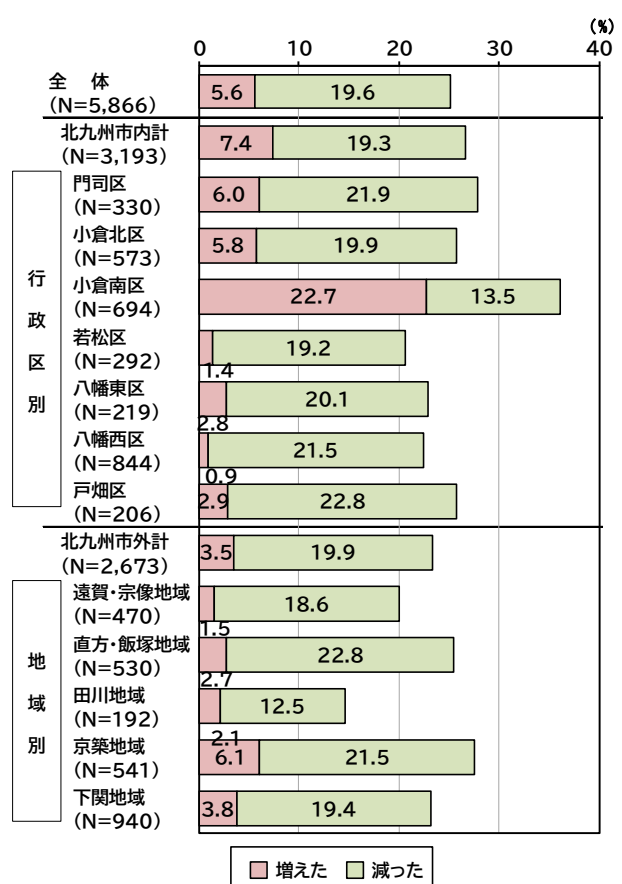
市外居住者でみても、「減少」が「増加」を大きく上回っている。

【 葛原・下曾根地区 】

■ 年1回以上の買物出向率 ■



■ 買物頻度の増減状況 ■



⑥ 若松駅周辺(本町・明治町地区(若松区))

本町・明治町地区は、明治期より筑豊炭田で産出する石炭の積み出し港としてにぎわった若松港を背景に栄えた中心市街地であったが、石炭産業の衰退とともに、商業機能が低下した地区である。同地区内で戦前より営業していた丸柏百貨店は、その後若松井筒屋として営業を続けたものの平成7年(1995年)に閉店した。その後、平成12年(2000年)にJR若松駅近くにサンリブ若松がオープンし、本町商店街(ウェル商店街)や明治町商店街などの地元商店街とともに、この地区の商業の核となっている。

本町・明治町地区への年1回以上の買物出向率をみると、全体では11.6%となっている。

市内居住者でみると、市内全体では14.8%となっており、行政区別では若松区が64.8%と最も高くなっている。

市外居住者でみると、市外全体では8.3%となっており、地域別では下関地域の11.4%と遠賀・宗像地域の10.2%が高くなっている。

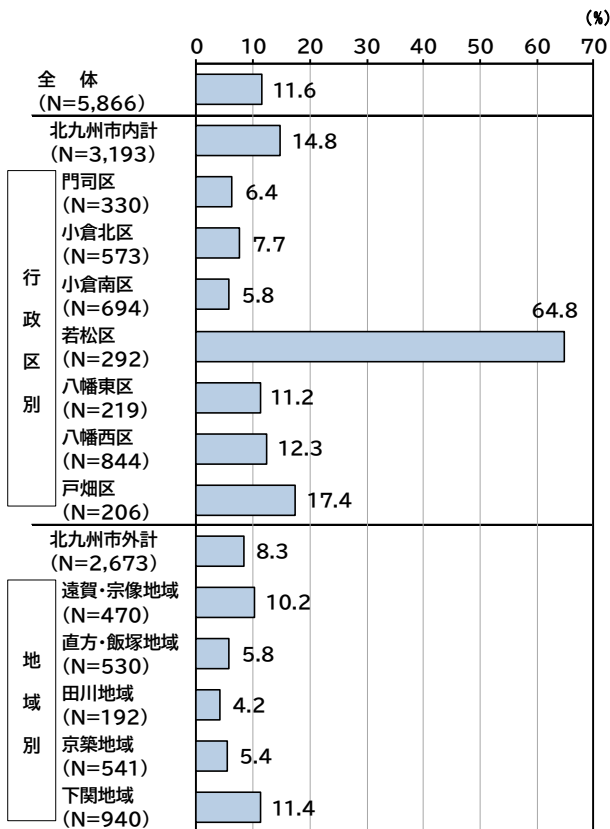
次に、買物頻度の増減をみると、全体では「減少」が20.5%と、「増加」の2.0%を大きく上回っている。

市内居住者でみても「減少」が「増加」を大きく上回っているが、若松区では「増加」が8.9%と高くなっている。

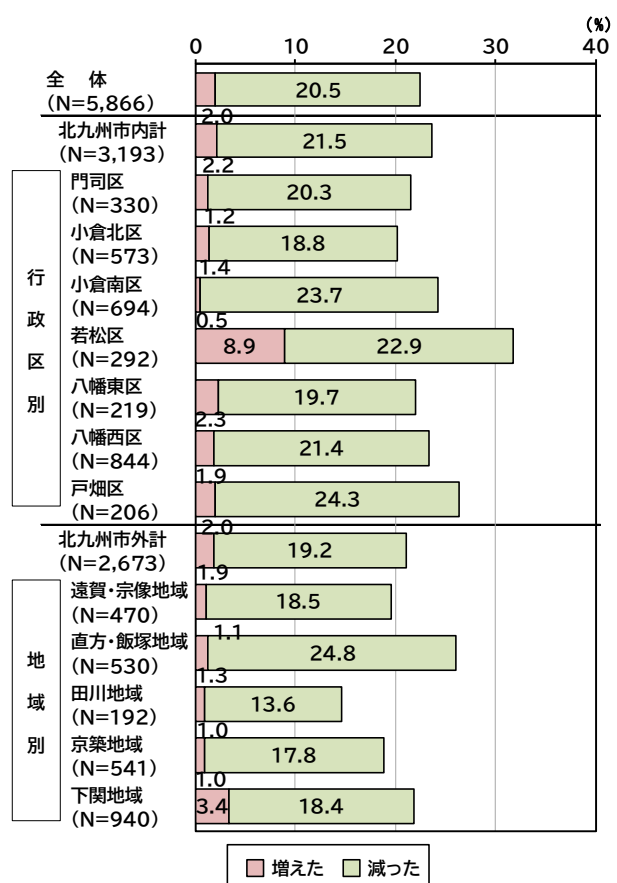
市外居住者でみても、「減少」が「増加」を大きく上回っている。

【 若松駅周辺(本町・明治町地区) 】

■ 年1回以上の買物出向率 ■



■ 買物頻度の増減状況 ■



⑦ 二島地区(若松区)

二島地区は、東西に長い若松区の中ほどに位置しており、主要幹線道路が交差する地点に隣接する地区である。同地区内には、平成9年(1997年)に閉鎖された日本板硝子若松工場跡地の開発によって、平成14年(2002年)にイオン若松ショッピングセンターがオープンした。

二島地区への年1回以上の買物出向率をみると、全体では15.9%となっている。

市内居住者でみると、市内全体では22.8%となっており、行政区別では若松区が85.9%と最も高く、次いで八幡西区36.6%となっている。

市外居住者でみると、市外全体では8.5%となっており、地域別では遠賀・宗像地域の16.3%が最も高くなっている。

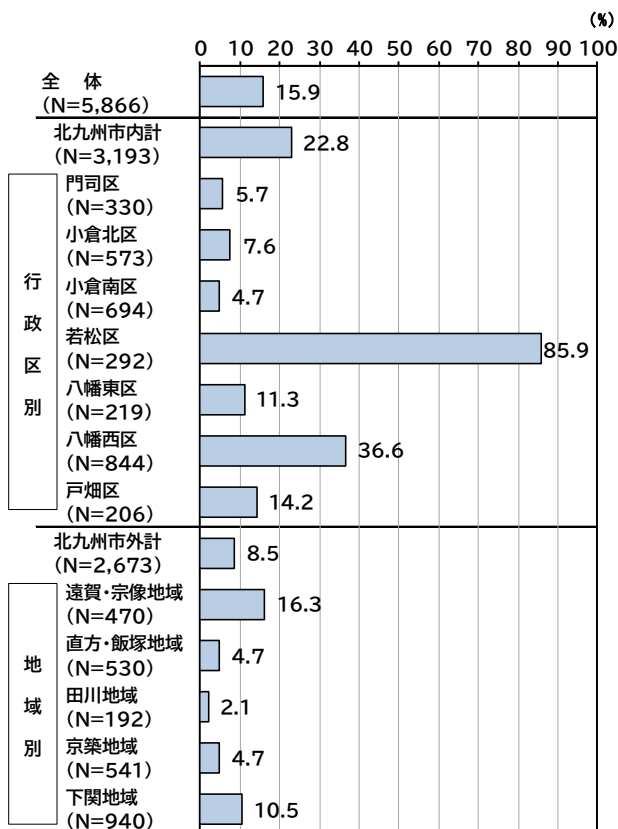
次に、買物頻度の増減をみると、全体では「減少」が19.9%と、「増加」の2.9%を大きく上回っている。

市内居住者でも「減少」が「増加」を大きく上回っているが、若松区では「増加」が13.0%と高くなっている。

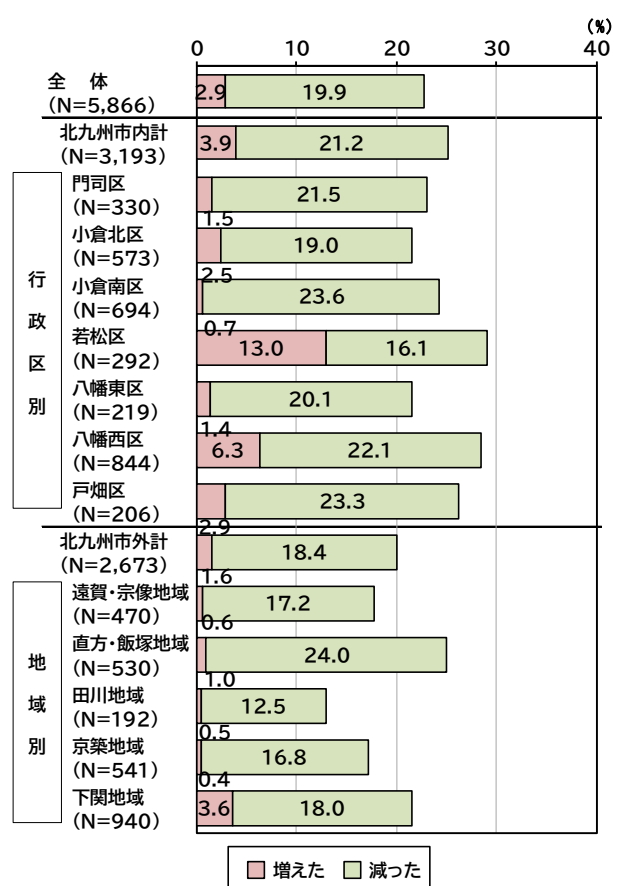
市外居住者でも、「減少」が「増加」を大きく上回っている。

【二島地区】

■ 年1回以上の買物出向率 ■



■ 買物頻度の増減状況 ■



⑧ 高須・学研都市地区(若松区)

高須・学研都市地区は、若松区の西に位置し、教育・研究機関の集積と良好な住宅地の供給を同時に行うなど、学術研究都市として総合的なまちづくりが進んでいる地区である。昭和59年(1984年)にオープンしたサンリブ高須や、平成30年(2018年)にオープンしたフォレオひびきのが立地している。

高須・学研都市地区への年1回以上の買物出向率をみると、全体では18.2%となっている。

市内居住者でみると、市内全体では24.1%となっており、行政区別では若松区が70.9%と最も高く、次いで八幡西区38.2%となっている。

市外居住者でみると、市外全体では11.8%となっており、地域別では遠賀・宗像地域の24.5%が高くなっている。

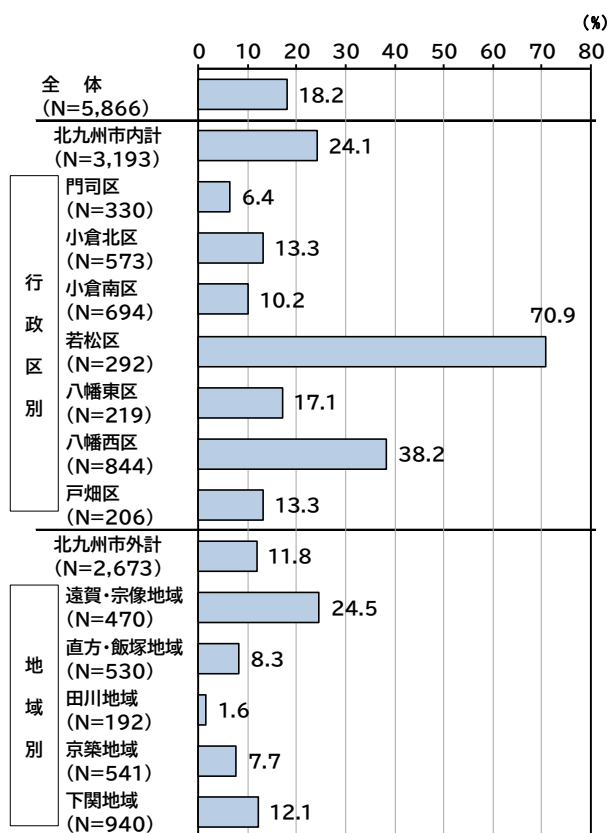
次に、買物頻度の増減をみると、全体では「減少」が20.1%と、「増加」の4.2%を大きく上回っている。

市内居住者でみても「減少」が「増加」を大きく上回っているが、若松区では「増加」が13.1%と高くなっている。

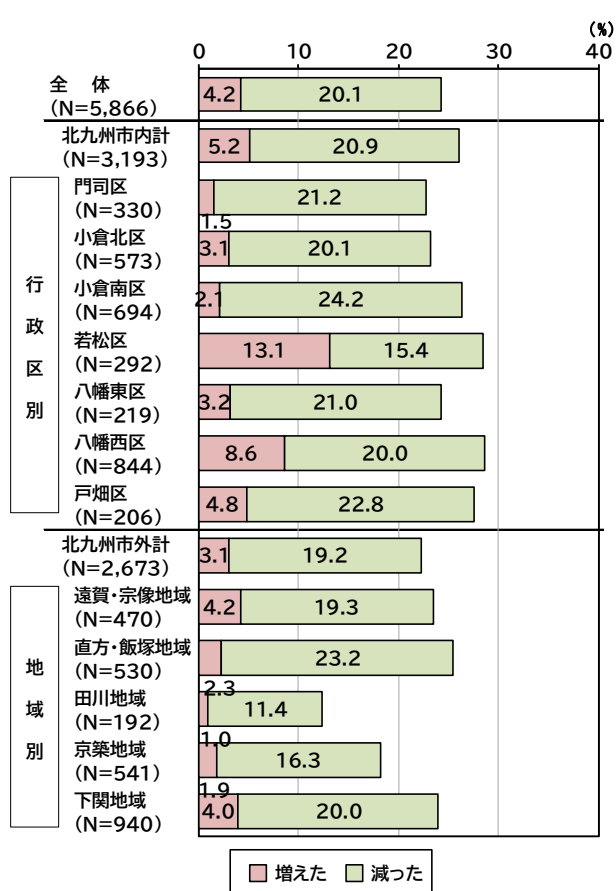
市外居住者でみても、「減少」が「増加」を大きく上回っている。

【 高須・学研都市地区 】

■ 年1回以上の買物出向率 ■



■ 買物頻度の増減状況 ■



⑨ 中央町・春の町地区(八幡東区)

中央町・春の町地区は、明治34年(1901年)に創業した官営八幡製鐵所のお膝元として栄えた商業地区であり、八幡東区役所や八幡東警察署などの官公庁をはじめ、製鉄記念八幡病院や市立八幡病院などの総合病院の集積もみられる地区である。昭和7年(1932年)には九州百貨店(後の八幡丸物)がオープンしたが、鉄鋼業にかげりが見え始めた昭和46年(1971年)に閉店し、平成21年(2009年)には核となっていたグルメシティ八幡店も閉店した。現在、この地区の商業の核となっているのは中央町商店街で、アーケードは南北に2本、東西に1本延べ440mにわたっている。

中央町・春の町地区への年1回以上の買物出向率をみると、全体では11.1%となっている。

市内居住者でみると、市内全体では12.2%となっており、行政区別では八幡東区が62.2%と最も高くなっている。

市外居住者でみると、市外全体では9.8%となっており、地域別では遠賀・宗像地域16.7%や直方・飯塚地域11.8%と高くなっている。

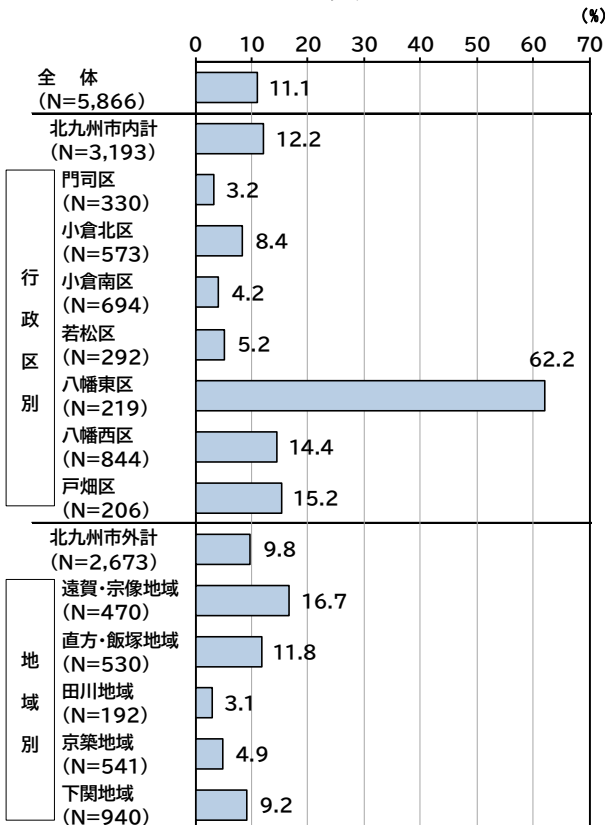
次に、買物頻度の増減をみると、全体では「減少」が19.9%と、「増加」の2.9%を大きく上回っている。

市内居住者でみても「減少」が「増加」を大きく上回っているが、八幡東区では「増加」が6.9%と高くなっている。

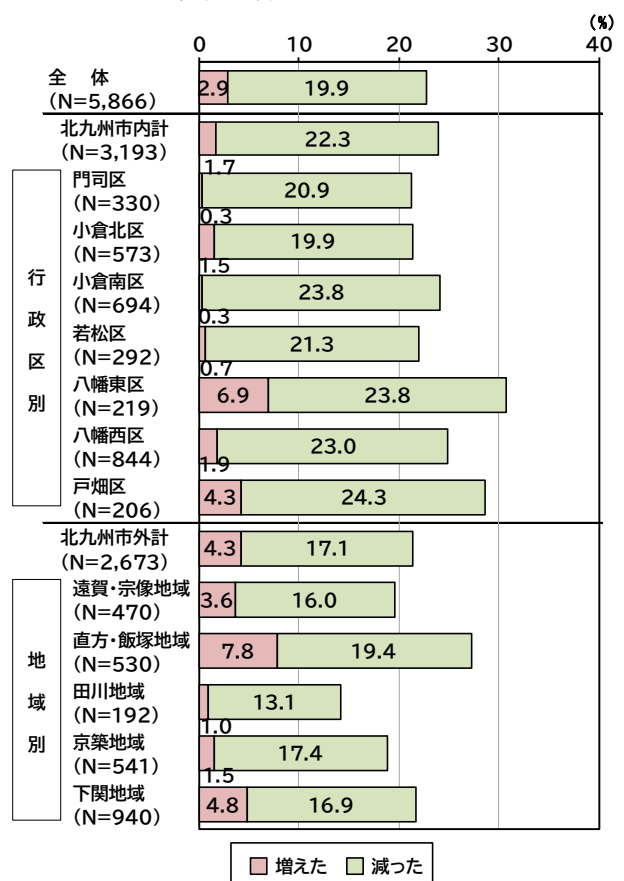
市外居住者でみても、「減少」が「増加」を大きく上回っているが、直方・飯塚地域では「増加」が7.8%と高くなっている。

【 中央町・春の町地区 】

■ 年1回以上の買物出向率 ■



■ 買物頻度の増減状況 ■



⑩ 東田地区(八幡東区)

東田地区は、明治34年(1901年)に創業した官営八幡製鐵所発祥の地であり、新日鐵八幡製鐵所の工場跡地の開発(八幡東田総合開発)により計画的に開発された市街地である。国道3号を挟んで中央町・春の町地区に隣接するこの地区において商業機能の中核を担うのが、平成18年(2006年)にオープンしたイオン八幡東ショッピングセンター(現・イオンモール八幡東)である。同施設に隣接するスペースワールドの跡地には、令和4年(2022年)春にジ アウトレット北九州がオープンしており、イオンモール八幡東と併せ、広域からの集客やにぎわいの創出を図っている。

また、地区内にはや、スポーツ用品や家電、日用雑貨などを扱う大型店が集積しており、いのちのたび博物館やイノベーションギャラリー、スペースラボなどの文化施設も立地している。

東田地区への年1回以上の買物出向率をみると、全体では37.3%となっている。

市内居住者でみると、市内全体では49.9%で、行政区別では八幡東区が94.6%と最も高く、次いで戸畑区78.0%、八幡西区59.9%と高く、12商業地区の中では群を抜いている。

市外居住者でみると、市外全体では23.5%となっており、地域別では遠賀・宗像地域の44.7%が高くなっている。それ以外の地域でも1~2割と他の商業地区よりも高い。

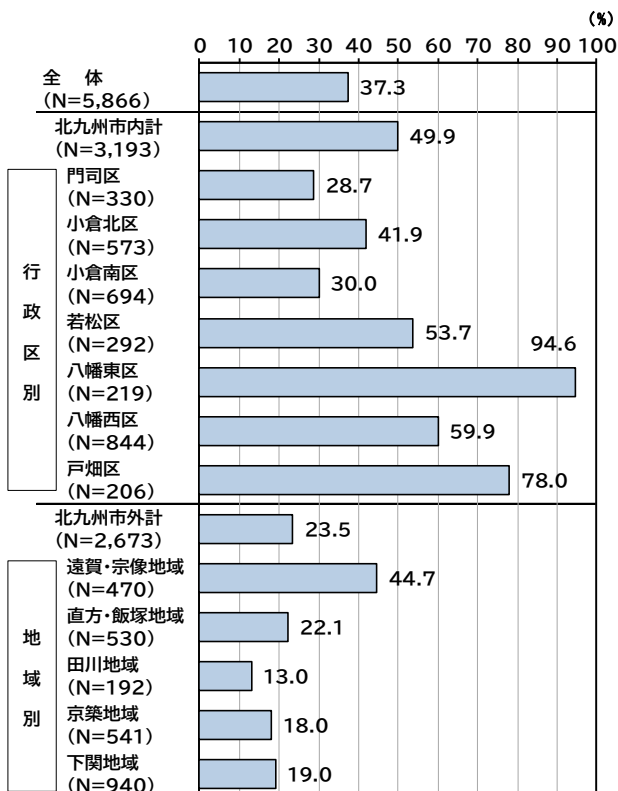
次に、買物頻度の増減をみると、全体では「減少」が19.6%と、「増加」の12.5%を上回るものの、12商業地区中で唯一「増加」が10%を上回っている。

市内居住者でみても「減少」が「増加」を上回っているが、八幡東区と戸畑区では「増加」が「減少」を上回っている。

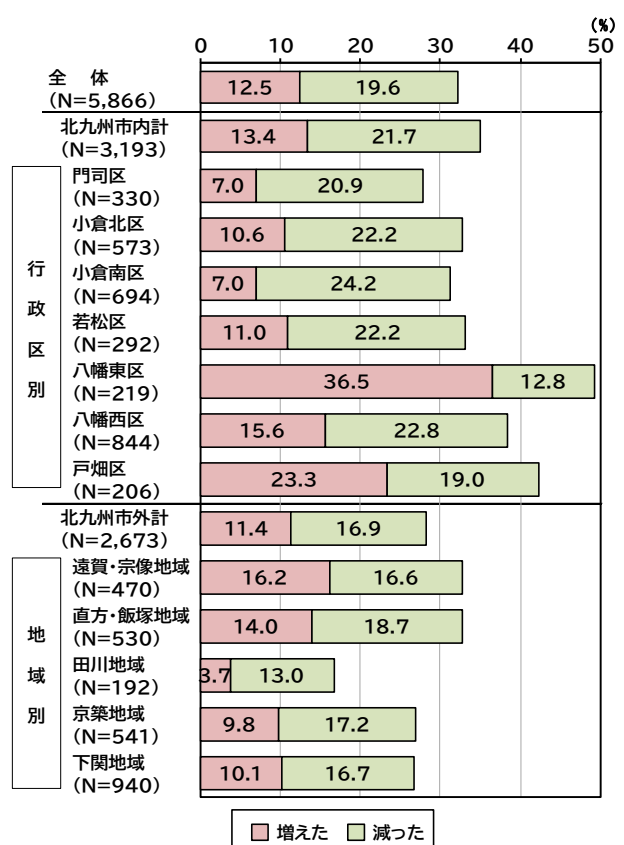
市外居住者でみても、「減少」が「増加」を上回っているが、「増加」が遠賀・宗像地域で16.2%、直方・田川地域で14.0%と高くなっている。

【東田地区】

■ 年1回以上の買物出向率 ■



■ 買物頻度の増減状況 ■



⑪ 折尾・本城地区(八幡西区)

折尾・本城地区は、JR折尾駅周辺から北側に広がるエリアで、付近には九州共立大学、産業医科大学をはじめとした多くの教育施設が立地する文教地区である。近年は北九州学術・研究都市の開発が進み、人口が増加している地区である。令和3年(2021年)に新駅舎がオープンしたJR折尾駅周辺には古くからの市場や飲食店が立ち並んでおり、令和5年(2023年)には駅高架下にスーパーを含む商業施設がオープンする予定である。折尾駅から北側の地区にはサンリブ折尾が立地している。また、北九州学術・研究都市の開発に伴い、国道199号や県道有毛・引野線の交通量が増加し、沿線には多くの沿道型店舗が進出している。平成25年(2013年)には、本城学研台にコストコ北九州倉庫店もオープンしている。

折尾・本城地区への年1回以上の買物出向率をみると、全体では22.6%となっている。

市内居住者でみると、市内全体では29.8%となっており、行政区別では若松区が69.9%と最も高く、次いで八幡西区60.9%となっている。

市外居住者でみると、市外全体では14.8%となっており、地域別では遠賀・宗像地域の32.1%が最も高くなっている。

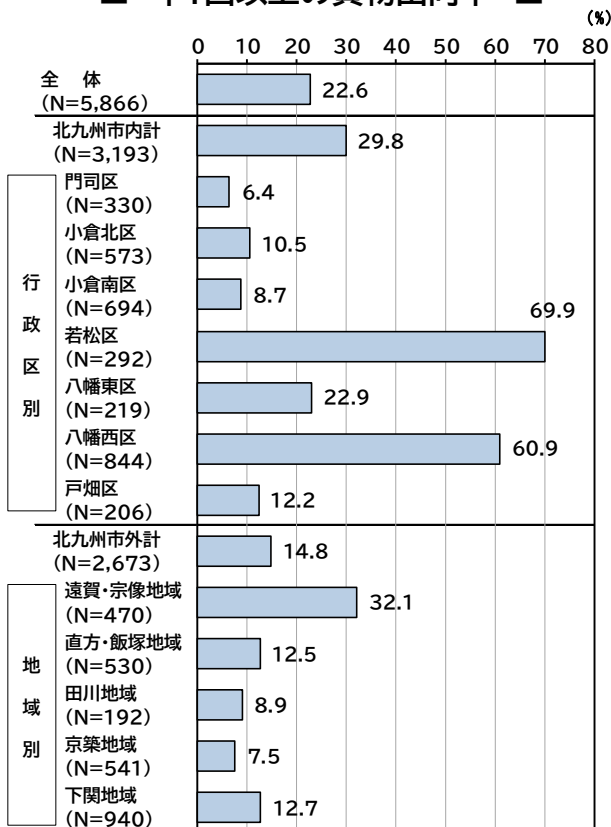
次に、買物頻度の増減をみると、全体では「減少」が19.4%と、「増加」の5.2%を大きく上回っている。

市内居住者でも「減少」が「増加」を大きく上回っているが、「増加」が八幡西区で12.3%、若松区で11.3%と高くなっている。

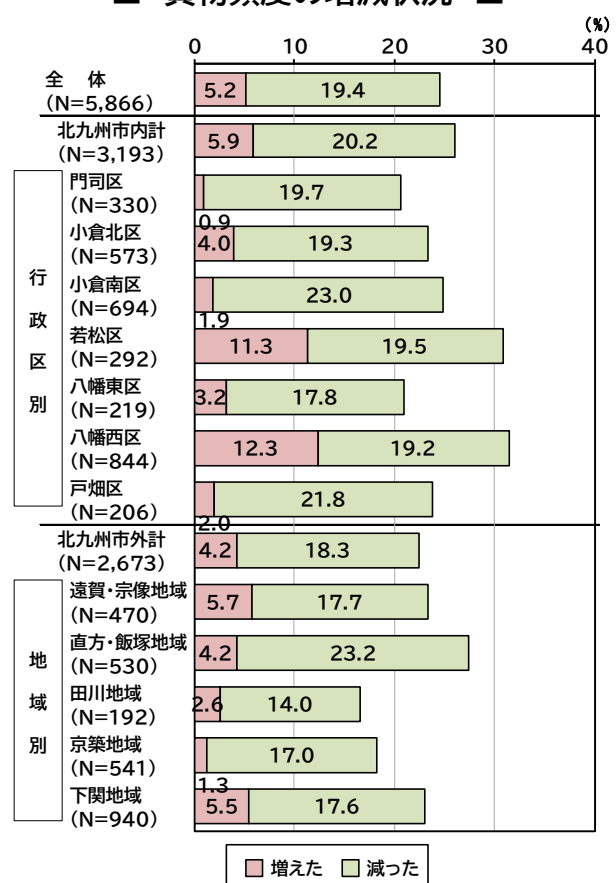
市外居住者でも、「減少」が「増加」を大きく上回っている。

【折尾・本城地区】

■ 年1回以上の買物出向率 ■



■ 買物頻度の増減状況 ■



⑫ 戸畑駅周辺(中本町・浅生地区(戸畑区))

中本町・浅生地区は、工業都市として発展した旧戸畑市の中心市街地である。同地区では、昭和40年(1965年)に戸畑岩田屋がオープンしたものの、小倉と黒崎の間に位置することから、両地区の発展の影響もあり、昭和57年(1982年)に閉店した。隣接するエリアには、戸畑駅周辺の再開発に伴い平成11年(1999年)に戸畑サティ(現・イオン戸畑ショッピングセンター)がオープンし、現在も複合型施設として同エリアの中核的施設となっている。

中本町・浅生地区への年1回以上の買物出向率をみると、全体では19.0%となっている。

市内居住者でみると、市内全体では27.7%となっており、行政区別では戸畑区が97.1%と最も高く、次いで、八幡東区56.5%、若松区38.2%となっている。

市外居住者でみると、市外全体では9.7%となっており、地域別では遠賀・宗像地域の15.4%が最も高くなっている。

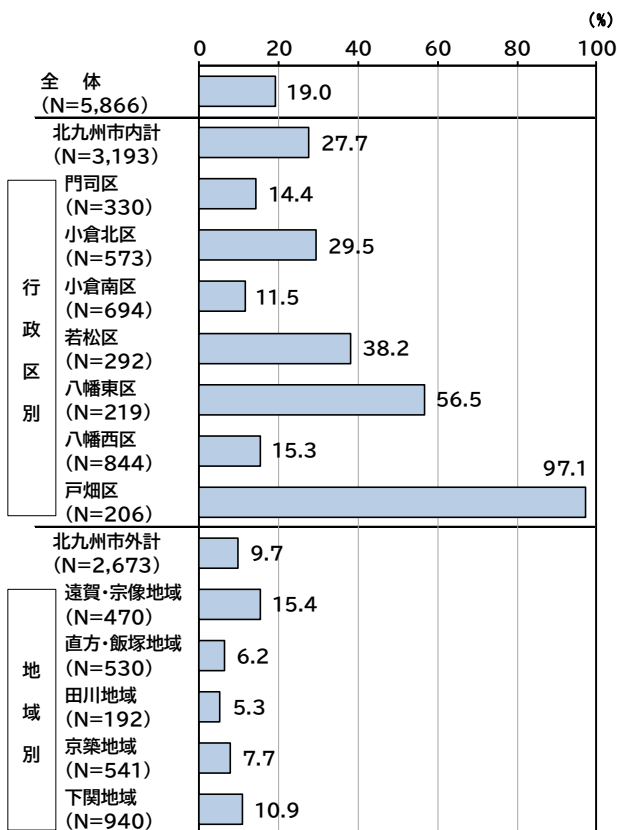
次に、買物頻度の増減をみると、全体では「減少」が20.5%と、「増加」の3.7%を大きく上回っている。

市内居住者でみても「減少」が「増加」を大きく上回っているが、戸畑区では「増加」が28.1%と高くなっている。

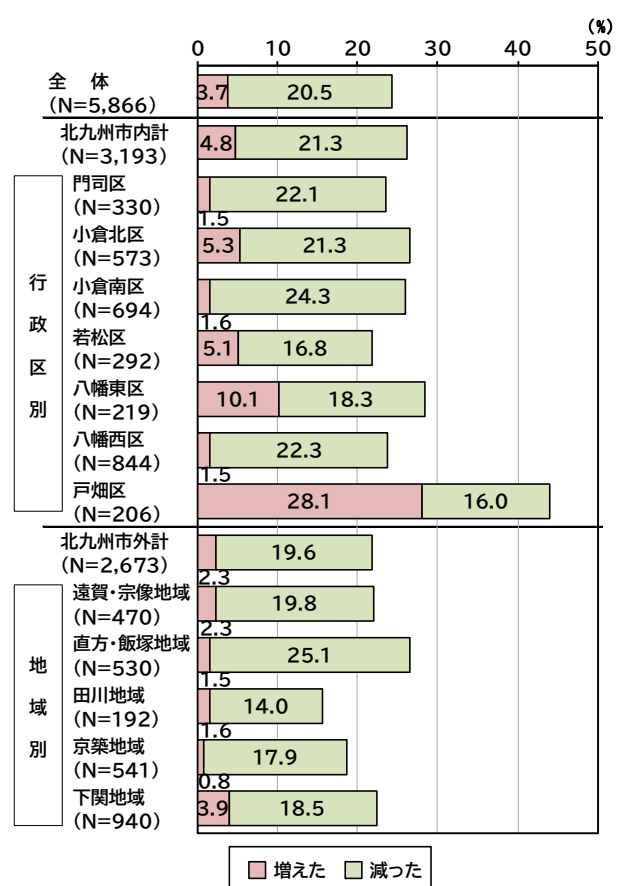
市外居住者でみても、「減少」が「増加」を大きく上回っている。

【 戸畑駅周辺(中本町・浅生地区) 】

■ 年1回以上の買物出向率 ■



■ 買物頻度の増減状況 ■



3 小倉中心市街地の利用状況

(1) 来街頻度と来街目的

小倉中心市街地を買物目的に限らず月1回以上訪れる人の割合は、全体では31.5%となっている。

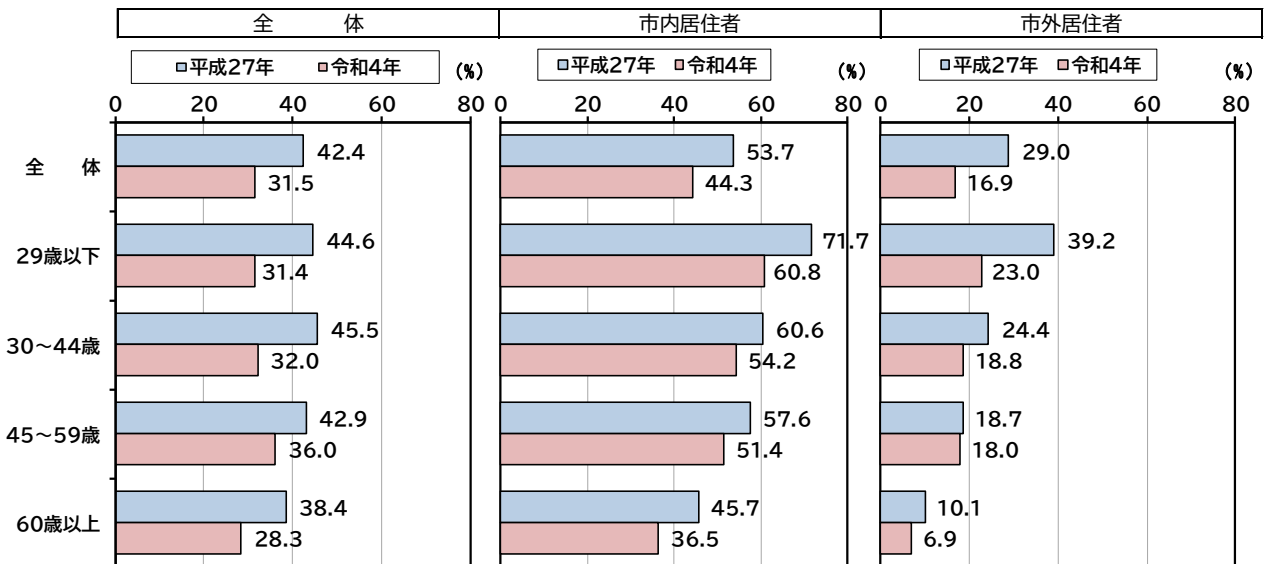
居住地別にみると、市内居住者は44.3%であるが、市外居住者は16.9%にとどまっている。

年代別にみると、市内居住者では、29歳以下が60.8%と最も高く、年代が上がるにつれて来街頻度が低くなっているが、60歳以上でも36.5%あり、高い水準となっている。市外居住者についても29歳以下が23.0%と最も高く、年代が上がるにつれて来街頻度が低くなり、60歳以上は6.9%となっている。

平成27年と比べると、全体では42.4%から31.5%に10.9ポイント、市内居住者では53.7%から44.3%に9.4ポイント、市外居住者では29.0%から16.9%に12.1ポイント減少している。

年代別にみると、全年代で平成27年よりも減少している。

■ 小倉中心市街地を月1回以上訪れる人の割合 ■



次に、小倉中心市街地を訪れる目的をみると、全体では「食事・喫茶・飲食など」が43.9%で最も高く、次いで、「日常の買物」34.4%、「ちょっと高級な買物」30.3%「ウィンドウショッピング」29.6%の順となっている。

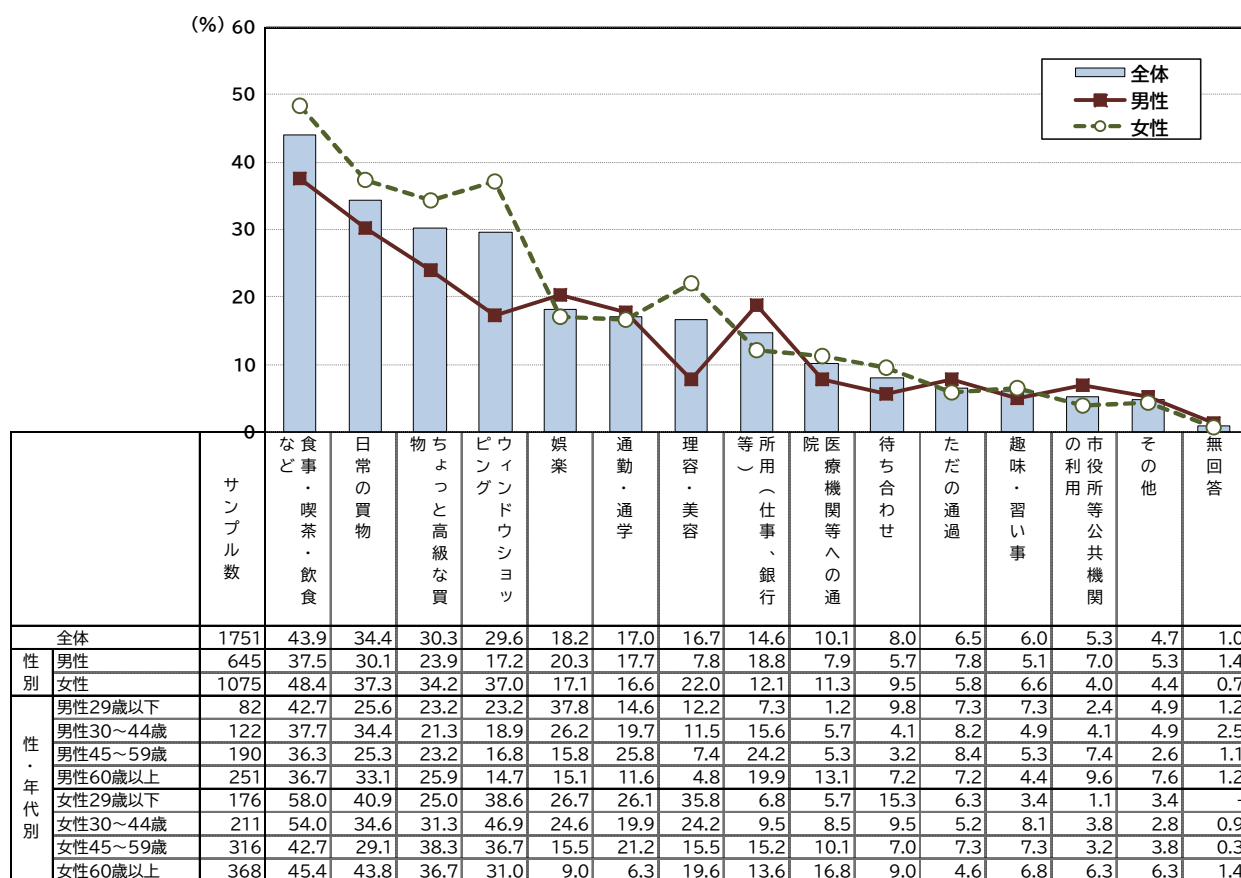
性別にみると、全般的に女性の方が男性よりも上回っているが、中でも「ウィンドウショッピング」「理容・美容」「食事・喫茶・飲食など」「ちょっと高級な買物」は女性の方が男性を大きく上回っている。逆に、男性が女性を上回るものとしては、「所用(仕事、銀行等)」「娯楽」「市役所等公共機関の利用」などがある。

女性の年代別にみると、全ての年代で「食事・喫茶・飲食など」が最も高く、次いで29歳以下は「日常の買物」「ウィンドウショッピング」「理容・美容」、30~44歳は「ウィンドウショッピング」「日常の買物」「ちょっと高級な買物」、45~59歳は「ちょっと高級な買物」「ウィンドウショッピング」「日常の買物」、60歳以上は「日常の買物」「ちょっと高級な買物」「ウィンドウショッピング」の

順となっている。また、年代が下がるにつれて「娯楽」や「理容・美容」の割合が高くなり、年代が上がるにつれて「ちょっと高級な買物」「医療機関等への通院」の割合が高くなる傾向がみられる。

男性の年代別にみると、女性と同様に全ての年代で「食事・喫茶・飲食など」が最も高く、次いで29歳以下は「娯楽」「日常の買物」「ちょっと高級な買物」「ウィンドウショッピング」、30～44歳は「日常の買物」「娯楽」「ちょっと高級な買物」、45～59歳は「通勤・通学」「日常の買物」「所用(仕事、銀行等)」「ちょっと高級な買物」、60歳以上は「日常の買物」「ちょっと高級な買物」「所用(仕事、銀行等)」の順となっている。また、年代が下がるにつれて「ウィンドウショッピング」や「娯楽」「理容・美容」の割合が高くなる傾向がみられる。

■ 小倉中心市街地を訪れる目的 ■(全体/性・年代別)



(2) 滞在時間と消費金額

小倉中心市街地での平均滞在時間をみると、全体では3.22時間となっている。

居住地別にみると、市内居住者の2.98時間に対し、市外居住者は3.93時間となっており、市内居住者よりも約1時間長く滞在している。

性別・年代別にみると、男性29歳以下の4.03時間が最も長く、次いで女性29歳以下3.98時間、女性30～44歳3.44時間の順となっており、男女ともに年代が上がるにつれて、滞在時間が短くなっている。

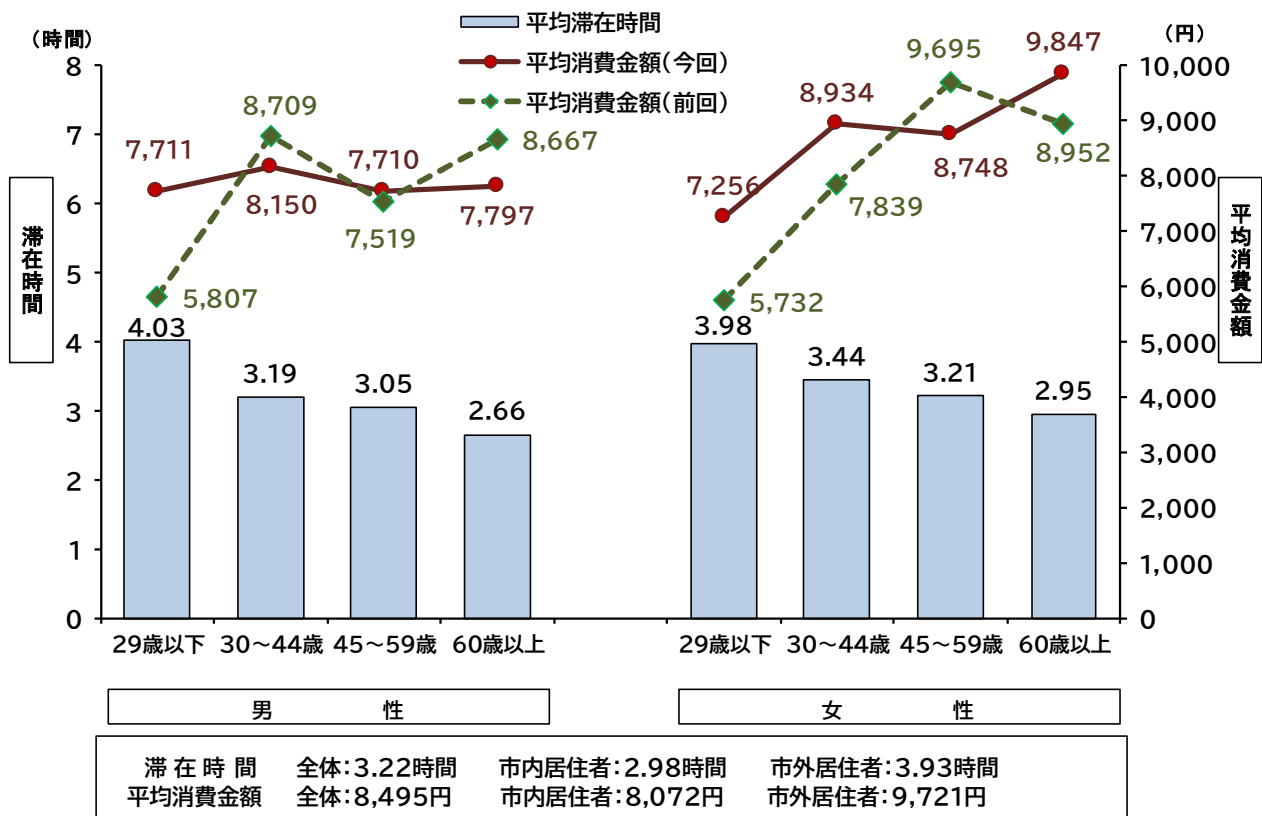
次に、小倉中心市街地での平均消費金額をみると、全体では8,495円となっている。

居住地別にみると、市内居住者の8,072円に対し、市外居住者は9,721円となっており、市内居住者よりも1,700円程度多く消費している。

性別・年代別にみると、女性60歳以上の9,847円が最も多く、次いで、女性30～44歳8,934円、女性45～59歳8,748円の順となっており、いずれも来街目的に「ちょっと高級な買物」との回答が多かった年代となっている。

滞在時間は男女ともに29歳以下が最も長いが、消費金額は男性が7,711円、女性が7,256円と少ない結果となっている。また、消費金額は男性では年代間の差は小さいが、女性では年代間の差が大きくなっている。

■ 小倉中心市街地での滞在時間と消費金額 ■



(3)来街頻度の変化とその理由

小倉中心市街地を訪れる頻度が2～3年前と比べて、「非常に増えた」「やや増えた」と回答した人を『増加層』、「やや減った」「非常に減った」と回答した人を『減少層』とした場合、全体では、『増加層』16.3%に対し『減少層』43.0%となっており、大幅に減少している。

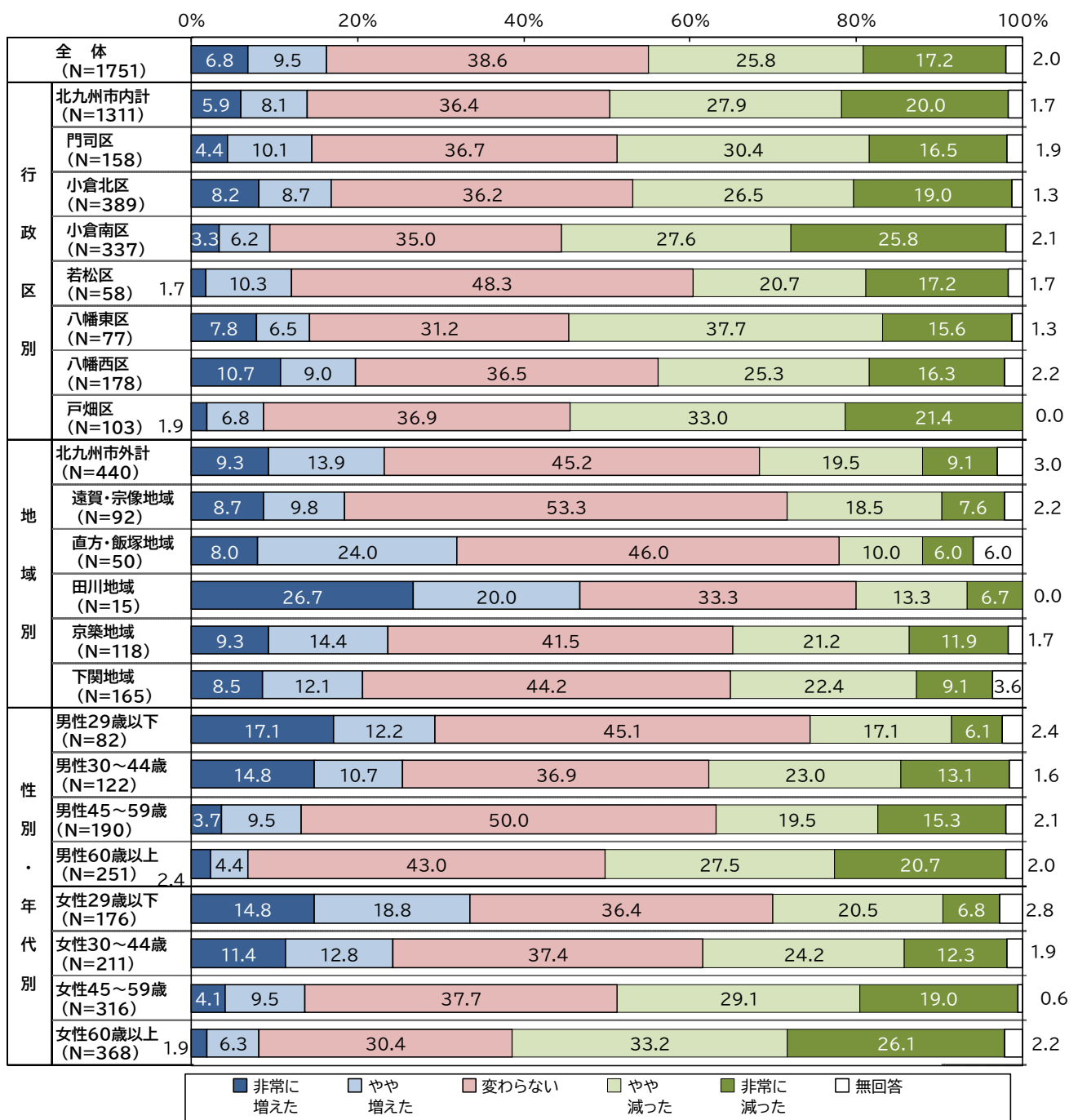
居住地別にみると、市内居住者は『増加層』14.0%に対し『減少層』47.9%で大幅な減少となっているが、市外居住者は『増加層』23.2%に対し『減少層』28.6%と、増減の差は小さくなっている。

北九州市内の行政区別にみると、全ての行政区で減少傾向にあり、特に、隣接している小倉南区は『増加層』9.5%に対し『減少層』53.4%、戸畑区は『増加層』8.7%に対し『減少層』54.4%で減少超過が著しくなっている。また、小倉中心市街地のある小倉北区でも『増加層』16.9%に対し『減少層』45.5%と減少超過が著しくなっている。

市外を地域別にみると、直方・飯塚地域、田川地域では『増加層』が『減少層』を上回っており、増加傾向にある。

性別・年代別にみると、男女ともに29歳以下は増加傾向にあるが、その他の年代では減少傾向にあり、概ね年代が上がるにつれて減少超過が拡大していく傾向がみられ、男女とも60歳以上で減少超過が最も大きくなっている。

■ 小倉中心市街地を訪れる頻度の変化 ■



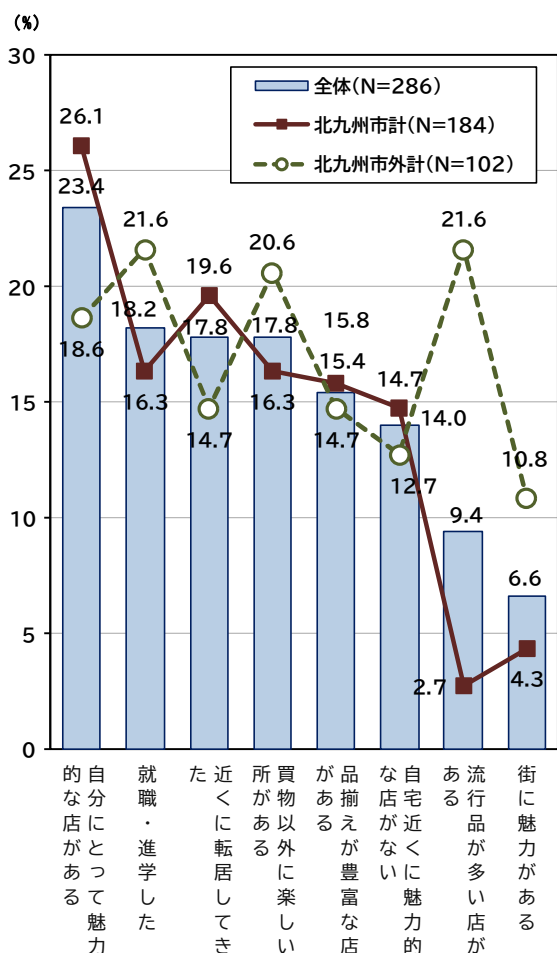
次に、小倉中心市街地を訪れる頻度が増えた理由をみると、全体では「自分にとって魅力的な店がある」が23.4%と最も高く、次いで「就職・進学した」18.2%、「近くに転居してきた」「買い物以外に楽しい所がある」17.8%、「品揃えが豊富な店がある」15.4%の順となっている。

居住地別にみると、市内居住者は「自分にとって魅力的な店がある」が26.1%、市外居住者では「就職・進学した」と「流行品が多い店がある」が各21.6%と最も高くなっている。その他、市内居住者では「近くに転居してきた」19.6%、市外居住者では「買い物以外に楽しい所がある」が高くなっている。

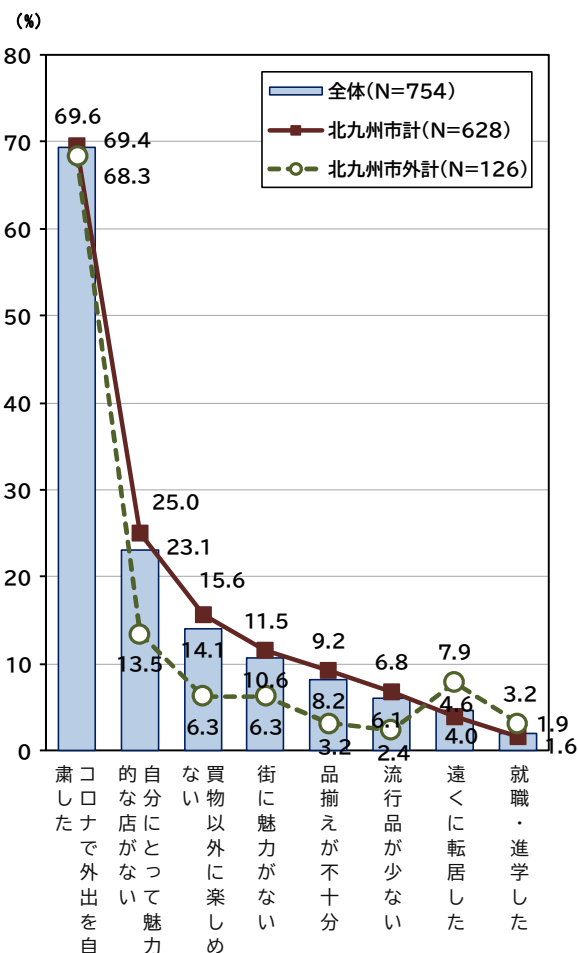
また、小倉中心市街地を訪れる頻度が減った理由をみると、市内居住者、市外居住者とも「コロナ禍で外出を自粛した」が圧倒的に高くなっている。

■ 小倉中心市街地を訪れる頻度が増えた理由・減った理由 ■

<増えた理由>



<減った理由>



(4)小倉中心市街地に対するイメージ

小倉中心市街地の総合イメージを5段階で評価すると、全体では3.53となっている。

居住地別にみると、市内居住者3.45、市外居住者3.77となっており、市外居住者の方が良いイメージを持っている。

項目別にみると、市内居住者と市外居住者とも、「電車やバスなど公共交通機関が充実している」「公共施設や金融機関などが充実しているまち」というイメージが上位となっている。その一方で、市内居住者では「医療機関の充実」「歴史・文化のあるまち」「住むのに便利で快適なまち」、市外居住者では「飲食店や映画館など娯楽施設が充実している」「広域から人が集まる魅力的なまち」「ぶらぶら歩いて楽しいまち」というイメージが強いなど、異なる点もみられる。

また、「ワクワク、ドキドキ感のあるお店が多い」は、市内居住者と市外居住者とのイメージの差が0.79と大きく乖離しており、「街並みがおしゃれだ」「長時間滞在しても飽きのこないまちだ」「子どもから大人まで全ての世代が楽しめるまちだ」「お店の人の威勢がよく、活気があるまちだ」についてもイメージに差がみられ、市内居住者よりも市外居住者の方が高い評価をしている。

【イメージ上位5項目】

市内居住者		評点	
①電車やバスなど公共交通機関が充実していると思う	3.99	そう思う	5
②医療機関が充実しているまちだと思う	3.97	ややそう思う	4
③名所、旧跡などがあり歴史・文化のあるまちだと思う	3.79	どちらともいえない	3
④公共施設や金融機関などが充実しているまちだと思う	3.77	あまりそう思わない	2
⑤住むのに便利で快適なまちだと思う	3.55	そう思わない	1
市外居住者			
①飲食店や映画館など娯楽施設が充実していると思う	4.00		
②広域から人が集まる魅力的なまちだと思う	3.95		
③電車やバスなど公共交通機関が充実していると思う	3.94		
④ぶらぶら歩いて楽しいまちだと思う	3.88		
⑤公共施設や金融機関などが充実しているまちだと思う	3.85		

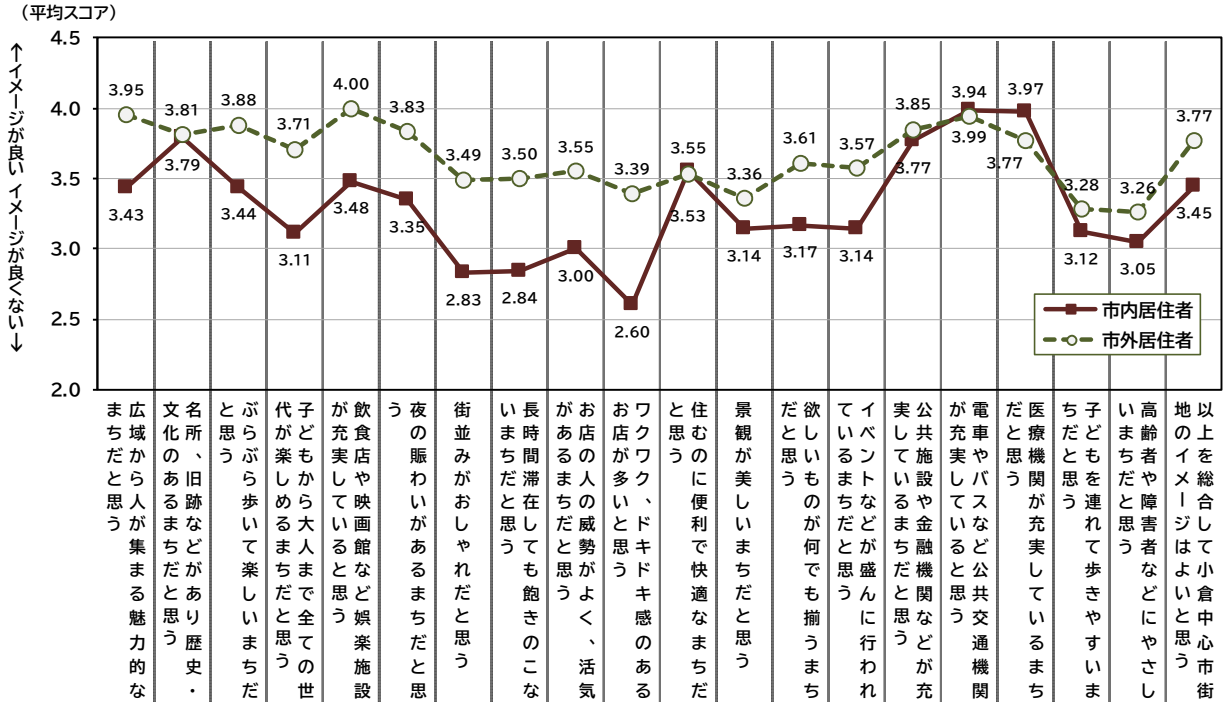
【小倉中心市街地の全体イメージ評価】

総合して小倉中心市街地のイメージはよいと思う	3.53
------------------------	------

【イメージに差のある上位5項目】

	市内	市外
① 子どもから大人まで全ての世代が楽しめるまちだと思う	3.11	3.71
② お店の人の威勢がよく、活気があるまちだと思う	3.00	3.55
③ 長時間滞在しても飽きのこないまちだと思う	2.84	3.50
④ 街並みがおしゃれだと思う	2.83	3.49
⑤ ワクワク、ドキドキ感のあるお店が多いと思う	2.60	3.39

■ 小倉中心市街地に対するイメージ ■



(5) 利用交通手段

小倉中心市街地を訪れる際の交通手段をみると、全体では「自家用車」が55.3%と最も高く、次いで「バス」19.6%、「JR」18.2%の順となっている。

居住地別にみると、市内居住者は「自家用車」50.8%、「バス」25.2%、「JR」15.2%、市外居住者では「自家用車」が68.9%と高く、次いで「JR」が27.3%となっている。

北九州市内の行政区別にみると、「自家用車」は若松区63.8%、門司区60.8%、「JR」は八幡西区32.0%、戸畑区24.3%、「バス」は小倉北区36.0%、八幡東区35.1%、戸畑35.0%が高くなっている。

■ 小倉中心市街地までの利用交通手段 ■

単位:%	サンプル数	徒歩	自転車	バイク	自家用車	バス	JR	モノレール	その他	無回答
全体	1,751	5.5	3.1	0.5	55.3	19.6	18.2	6.2	1.0	1.0
北九州市	1,311	6.3	3.5	0.6	50.8	25.2	15.2	7.9	1.3	0.9
門司区	158	-	1.3	-	60.8	25.3	20.9	1.3	-	2.5
小倉北区	389	20.1	8.5	0.8	39.8	36.0	2.1	5.9	1.3	0.3
小倉南区	337	0.6	0.9	0.6	54.6	15.1	16.6	22.0	1.8	0.9
若松区	58	-	3.4	-	63.8	20.7	17.2	-	1.7	-
八幡東区	77	-	2.6	-	53.2	35.1	13.0	-	1.3	1.3
八幡西区	178	0.6	1.1	-	54.5	12.9	32.0	1.1	1.7	1.1
戸畑区	103	-	1.9	2.9	48.5	35.0	24.3	-	-	-
北九州市外計	440	3.4	1.8	0.2	68.9	3.0	27.3	0.9	0.2	1.1

(6)同行者

小倉中心市街地を訪れる際の同行者をみると、全体では「一人」が55.1%と最も高く、次いで「子供・親などの家族」28.3%、「友人・知人」27.2%、「配偶者」26.7%の順となっている。

居住地別にみると、市内居住者は「一人」58.2%、「配偶者」29.1%、「子供・親などの家族」27.0%となっているが、市外居住者は市内居住者と同じく「一人」45.7%が最も高いが、次いで「友人・知人」44.1%となっており、市内居住者に比べ、「配偶者」「子供・親などの親族」より、「友人・知人」と訪れる傾向がうかがえる。

性別・年代別にみると、男女ともに概ね年代が上がるにつれて「一人」の割合が高くなり、「友人・知人」の割合が低くなる傾向にある。また、「子供・親などの家族」と行く人は、どちらかというとなりよりも女性に多くみられ、逆に、「配偶者」と行く人は、どちらかというとなりよりも男性に多くみられる。

■ 同行者 ■

		サ ン プ ル 数	一 人	配 偶 者	の 子 供 族 ・ 親 な ど	友 人 ・ 知 人	そ の 他	無 回 答
単位:%								
全体		1,751	55.1	26.7	28.3	27.2	1.5	1.7
居 住 地 区	北九州市	1,311	58.2	29.1	27.0	21.5	1.5	1.4
	門司区	158	52.5	31.0	31.0	24.1	1.9	2.5
	小倉北区	389	66.6	27.8	28.5	17.2	1.0	1.0
	小倉南区	337	55.5	28.5	22.8	20.8	1.2	2.1
	若松区	58	51.7	32.8	27.6	22.4	3.4	-
	八幡東区	77	61.0	33.8	24.7	18.2	1.3	1.3
	八幡西区	178	51.1	27.0	29.8	24.7	3.4	1.1
	戸畑区	103	59.2	31.1	23.3	32.0	-	-
	北九州市外計	440	45.7	19.8	32.0	44.1	1.6	2.3
性 ・ 年 代	男性29歳以下	82	47.6	7.3	25.6	48.8	1.2	3.7
	男性30～44歳	122	54.9	24.6	25.4	23.0	3.3	0.8
	男性45～59歳	190	57.4	31.6	22.6	12.6	1.6	1.1
	男性60歳以上	251	54.6	44.2	6.0	12.0	2.4	2.0
	女性29歳以下	176	44.9	9.7	29.0	68.2	0.6	0.6
	女性30～44歳	211	48.8	25.1	52.1	32.7	0.9	0.9
	女性45～59歳	316	59.2	25.3	42.7	25.0	1.3	0.9
	女性60歳以上	368	60.3	27.4	21.5	20.7	1.4	3.3

4 黒崎中心市街地の利用状況

(1) 来街頻度と来街目的

黒崎中心市街地を買い物目的に限らず月1回以上訪れる人の割合は、全体では12.4%となっている。

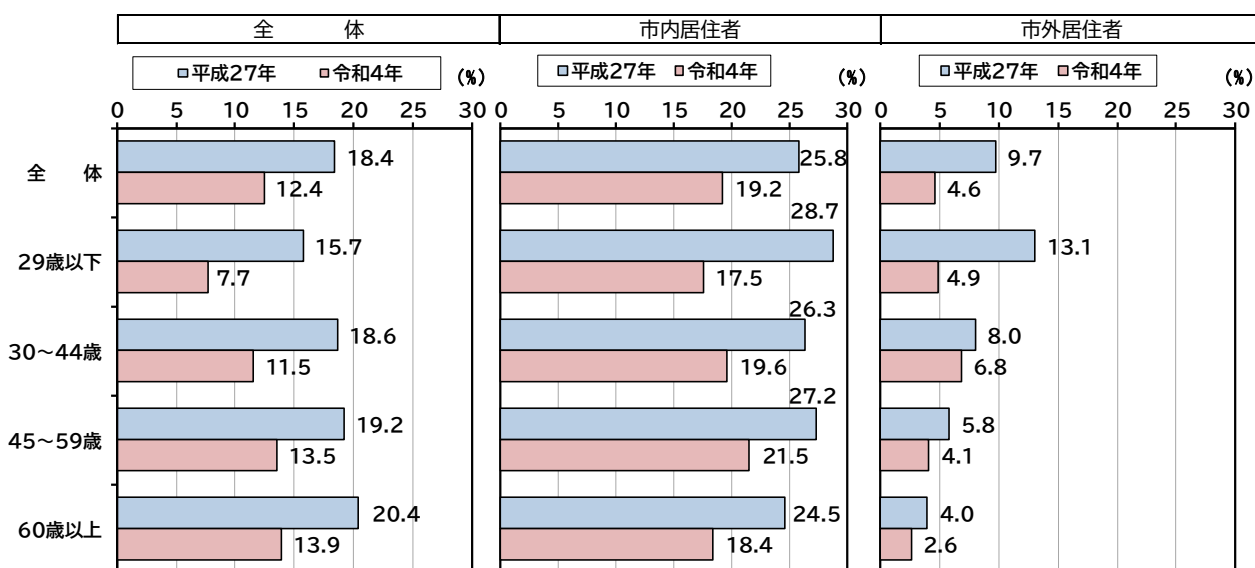
居住地別にみると、市内居住者は19.2%、市外居住者は4.6%となっており、市外居住者の来街頻度が非常に低い結果となっている。

年代別にみると、全体では年代が上がるにつれて来街頻度が高くなる傾向にあるが、市内居住者では60歳以上になると来街頻度が下がり、市外居住者では、30～44歳で6.8%と最も高く、それ以上の年代では、年代が上がるにつれて来街頻度が低くなる傾向にある。

平成27年と比べると、全体では18.4%から12.4%に6.0ポイント、市内居住者では25.8%から19.2%に6.6ポイント、市外居住者では9.7%から4.6%に5.1ポイント減少している。

年代別にみると、全年代で平成27年よりも減少している。

■ 黒崎中心市街地を月1回以上訪れる人の割合 ■



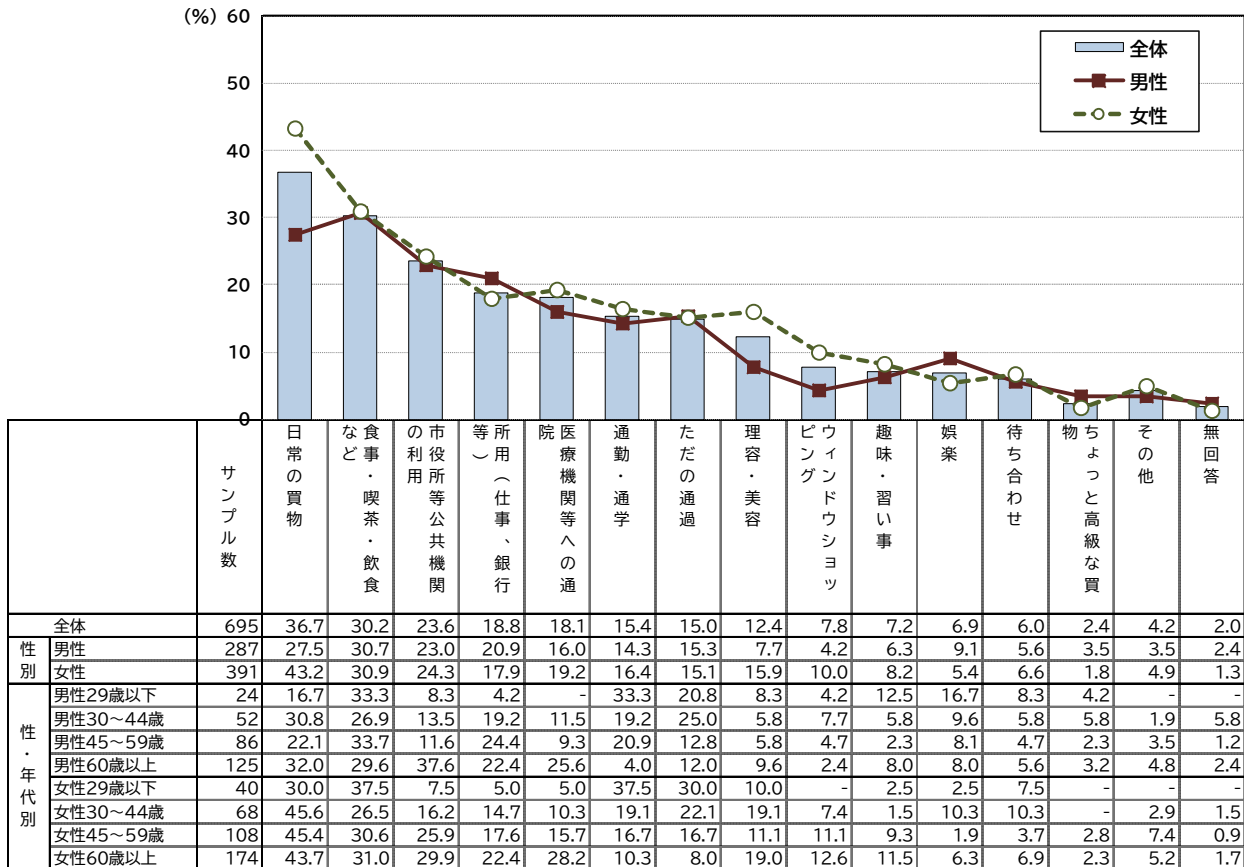
次に、黒崎中心市街地を訪れる目的をみると、全体では、「日常の買い物」が36.7%と最も高く、次いで「食事・喫茶・飲食など」30.2%、「市役所等公共機関の利用」23.6%の順となっている。

性別にみると、全般的に女性の方が男性よりも上回っており、中でも「日常の買い物」「理容・美容」「ウィンドウショッピング」は女性の方が男性を大きく上回っている。

女性の年代別にみると、全ての年代で上位2つは「日常の買い物」「食事・喫茶・飲食など」となっている。また、年代が上がるほど高くなる傾向があるのは、「市役所等公共機関の利用」「所用（仕事、銀行等）」「医療機関等への通院」、年代が下がるほど高くなる傾向があるのは、「通勤・通学」「ただの通過」などとなっており、年代にかかわらず共通する部分もあれば、年代間で違いがみられるものもある。

男性の年代別にみると、29歳以下では「食事・喫茶・飲食など」「通勤・通学」、30～44歳では「日常の買い物」、45～59歳では「食事・喫茶・飲食など」、60歳以上では「市役所等公共機関の利用」「日常の買い物」が3割を超えており、年代間で違いがみられる。

■ 黒崎中心市街地を訪れる理由 ■(全体/性・年代別)



(2)滞在時間と消費金額

黒崎中心市街地での平均滞在時間をみると、全体では 2.07 時間となっている。

居住地別にみると、市内居住者の 2.03 時間に対し、市外居住者 2.27 時間となっており、市外居住者の方が若干長くなっている。

性別・年代別にみると、男性では年代が上がるほど滞在時間が短くなる傾向にある。一方、女性では 30~44 歳の 2.47 時間が最も長く、次いで 60 歳以上が 2.19 時間となっており、29 歳以下、45~59 歳では 2 時間を下回っている。

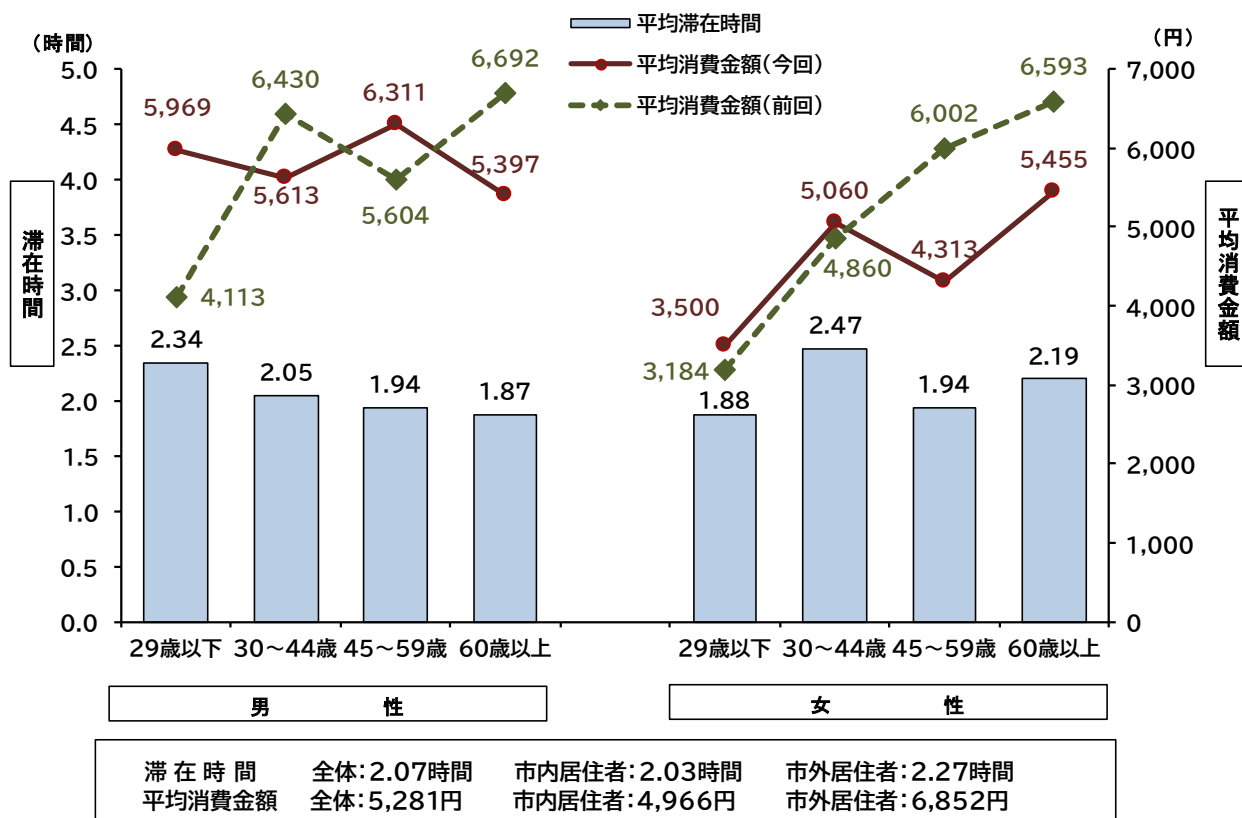
黒崎中心市街地での平均消費金額をみると、全体では 5,281 円となっている。

居住地別にみると、市外居住者の 6,852 円に対し、市内居住者は 4,966 円となっており、市外居住者の方が 2,000 円弱多く消費している。

性別・年代別にみると、男性 45~59 歳が 6,311 円と最も多く、次いで、男性 29 歳以下 5,969 円、男性 30~44 歳 5,613 円の順となっている。女性では、60 歳以上の 5,455 円が最も多く、29 歳以下の 3,500 円が最も少なくなっている。

滞在時間では、男性は 29 歳以下、女性は 30~44 歳が最も長く、消費金額は男性は 45~59 歳、女性は 60 歳以上が最も多くなっており、男女とも滞在時間の長さが消費金額の多さにつながっていない。また、消費金額の最高と最低の差は、男性では 914 円、女性では 1,955 円となっており、女性の方が差が大きくなっている。

■ 黒崎中心市街地での滞在時間と消費金額 ■



(3) 来街頻度の変化とその理由

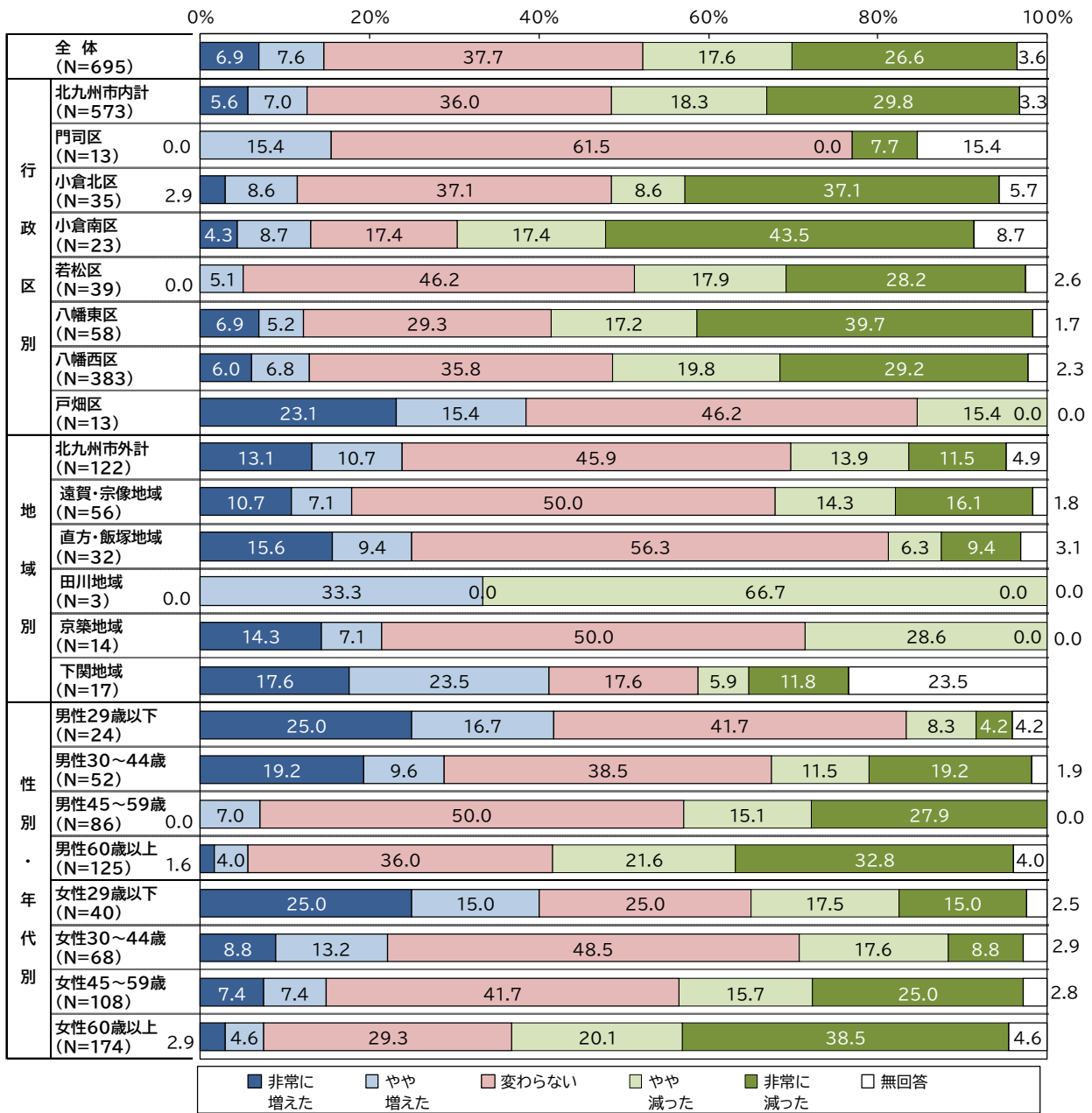
黒崎中心市街地を訪れる頻度が2~3年前と比べて、「非常に増えた」「やや増えた」と回答した人を『増加層』、「やや減った」「非常に減った」と回答した人を『減少層』とした場合、全体では『増加層』14.5%に対し『減少層』44.2%で減少超過が著しくなっている。

居住地別にみると、市内居住者は『増加層』12.6%に対し『減少層』48.1%で減少傾向にあるが、市外居住者は『増加層』23.8%に対し『減少層』25.4%とほぼ拮抗している。

北九州市内の行政区別にみると、減少傾向にある中で、戸畑区は『増加層』38.5%に対し『減少層』15.4%、門司区は『増加層』15.4%に対し『減少層』7.7%で増加傾向にある。一方、小倉南区、八幡東区では『減少層』が半数を超えている。

性別・年代別にみると、男女ともに29歳以下は『増加層』が『減少層』を上回り、増加傾向にあるが、年代が上がるにつれて減少傾向が強まっており、男女とも60歳以上で減少超過が最も大きくなっている。

■ 黒崎中心市街地を訪れる頻度の変化 ■



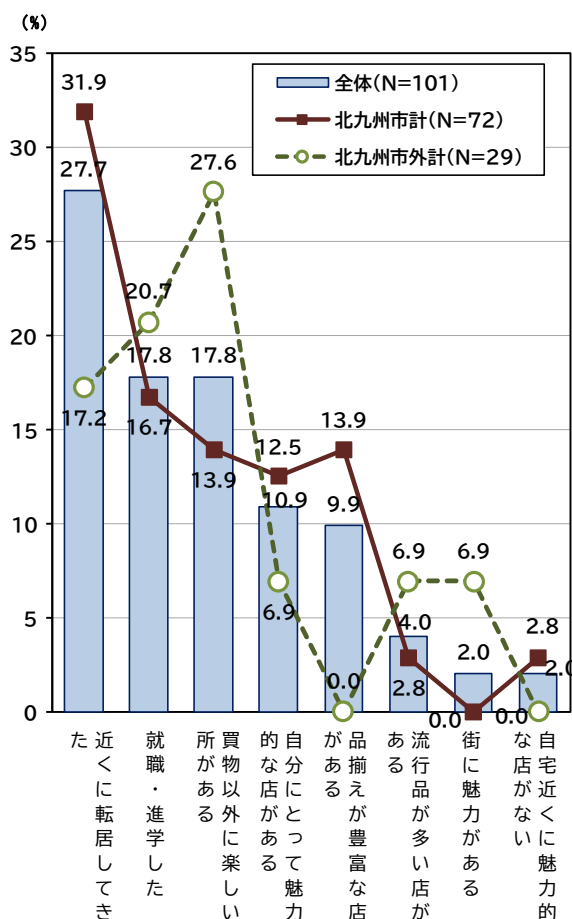
次に、黒崎中心市街地を訪れる頻度が増えた理由をみると、全体では「近くに転居してきた」が27.7%と最も高く、次いで「就職・進学した」と「買物以外に楽しいところがある」が各17.8%となっている。

居住地別にみると、市内居住者では「近くに転居してきた」31.9%が最も高いが、市外居住者では「買物以外に楽しいところがある」27.6%が最も高くなっていることから、黒崎中心市街地の買物以外での魅力を評価している様子もうかがえる。

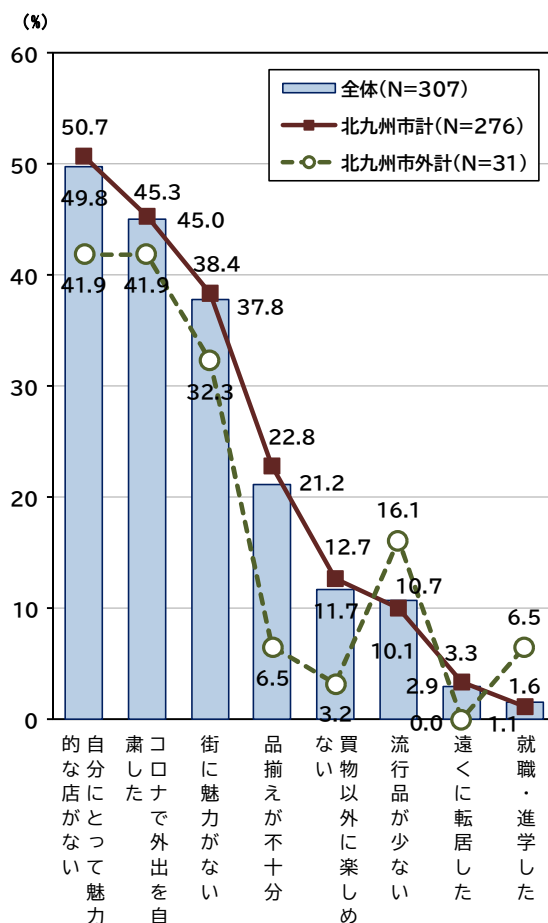
小倉中心市街地へ訪れる頻度が減った理由は「コロナ禍で外出を自粛した」が圧倒的に高くなっていたが、黒崎中心市街地を訪れる頻度が減った理由をみると、全体では「自分にとって魅力的な店がない」が49.8%と最も高く、次いで「コロナで外出を自粛した」45.0%、「街に魅力がない」37.8%、「品揃えが不十分」21.2%の順となっており、コロナ禍にあっても、より魅力的な店舗づくりの必要性がうかがえる。

■ 黒崎中心市街地を訪れる頻度が増えた理由・減った理由 ■

<増えた理由>



<減った理由>



(4)黒崎中心市街地に対するイメージ

黒崎中心市街地のイメージを5段階で評価すると、全体では2.77となっている。

居住地別にみると、市内居住者が2.72で中間値の3.0を下回っている一方、市外居住者は3.03となっており、市外居住者は黒崎中心市街地に対して良いイメージを持っていることがうかがえる。

項目別にみると、市内居住者と市外居住者とも、「電車やバスなど公共交通機関が充実している」「医療機関が充実しているまち」「公共交通機関、公共施設・金融機関、医療機関などが充実しているまち」「住むのに便利で快適なまち」という共通したイメージが上位となっているが、その一方で、市外居住者では「広域から人が集まる魅力的なまち」というイメージが上位にあり、意識の違いもみられる。

また、イメージの差が大きいものとしては、「広域から人が集まる魅力的なまち」「子どもから大人まで全ての世代が楽しめるまちだと思う」「ワクワク、ドキドキ感のあるお店が多いと思う」などがあり、いずれも市内居住者よりも市外居住者の評価が高くなっていることから、市外居住者の方が黒崎中心市街地を高く評価していることがうかがえる。

【イメージ上位5項目】

市内居住者		評 点	
①電車やバスなど公共交通機関が充実していると思う	3.76	そう思う	5
②医療機関が充実しているまちだと思う	3.51	ややそう思う	4
③公共施設や金融機関などが充実しているまちだと思う	3.44	どちらともいえない	3
④住むのに便利で快適なまちだと思う	3.00	あまりそう思わない	2
⑤名所、旧跡などがあり歴史・文化のあるまちだと思う	2.88	そう思わない	1
市外居住者			
①電車やバスなど公共交通機関が充実していると思う	3.44		
②医療機関が充実しているまちだと思う	3.23		
③公共施設や金融機関などが充実しているまちだと思う	3.22		
④住むのに便利で快適なまちだと思う	3.10		
⑤広域から人が集まる魅力的なまちだと思う	3.02		

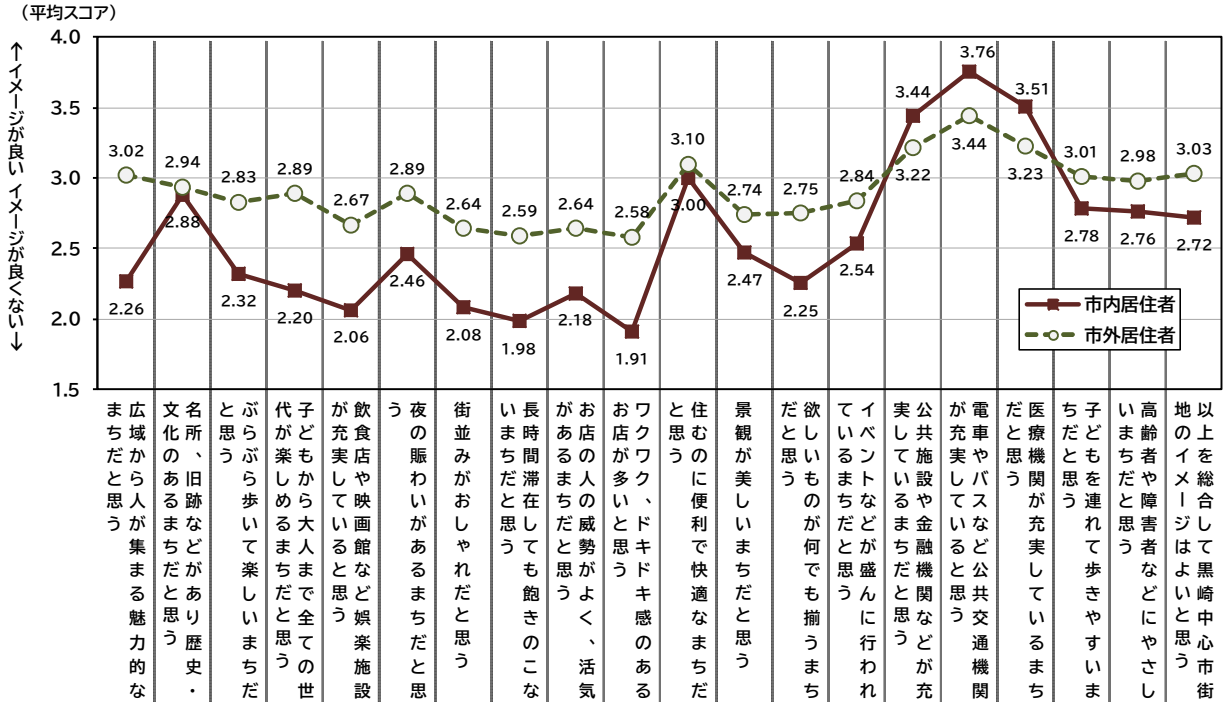
【黒崎中心市街地の全体イメージ評価】

総合して黒崎中心市街地のイメージはよいと思う	2.77
------------------------	------

【イメージに差のある上位5項目】

	市 内	市 外
①広域から人が集まる魅力的なまちだと思う	2.26	3.02
②子どもから大人まで全ての世代が楽しめるまちだと思う	2.20	2.89
③飲食店や映画館など娯楽施設が充実していると思う	2.06	2.67
④長時間滞在しても飽きのこないまちだと思う	1.98	2.59
⑤ワクワク、ドキドキ感のあるお店が多いと思う	1.91	2.58

■ 黒崎中心市街地に対するイメージ ■



(5) 利用交通手段

黒崎中心市街地を訪れる際の交通手段をみると、全体では「自家用車」が60.4%と最も高く、半数を超えており、次いで「バス」18.3%となっている。

居住地別にみると、市内居住者では「自家用車」56.7%と半数を超えるが、「バス」21.6%も少なからずいる。一方、市外居住者では「自家用車」77.9%と8割弱を占め、圧倒的に高くなっている。

■ 黒崎中心市街地までの利用交通手段 ■

単位:%	サンプル数	徒歩	自転車	バイク	自家用車	バス	J R	筑豊電鉄	その他	無回答
全体	695	8.2	3.3	0.7	60.4	18.3	8.8	4.0	1.6	1.7
北九州市	573	9.2	3.3	0.9	56.7	21.6	8.4	4.4	1.9	1.7
門司区	13	-	7.7	-	61.5	7.7	15.4	-	-	7.7
小倉北区	35	-	5.7	-	45.7	25.7	22.9	-	-	5.7
小倉南区	23	-	-	-	78.3	4.3	13.0	8.7	-	4.3
若松区	39	-	-	-	84.6	12.8	12.8	-	-	-
八幡東区	58	1.7	-	1.7	56.9	39.7	8.6	-	-	-
八幡西区	383	13.1	3.9	0.8	54.8	21.4	4.7	6.0	2.6	1.0
戸畑区	13	-	7.7	7.7	38.5	7.7	38.5	-	-	-
北九州市外計	122	3.3	3.3	-	77.9	2.5	10.7	2.5	-	1.6

(6)同行者

黒崎中心市街地を訪れる際の同行者をみると、全体では「一人」が58.4%と最も高く、次いで「配偶者」24.9%、「子供・親などの家族」23.7%、「友人・知人」18.4%の順となっている。

居住地別にみると、市内居住者では「一人」59.5%、「配偶者」27.1%、「子供・親などの家族」23.9%、市外居住者では「一人」53.3%、「友人・知人」28.7%、「子供・親などの家族」23.0%の順となっている。

性別・年代別にみると、男女ともに年代が下がるにつれて「友人・知人」が多くなる傾向にある。また、「子供・親などの家族」と行く人は、どちらかというとも男性よりも女性に多くみられる。

■ 同行者 ■

		サ ン プ ル 数	一 人	配 偶 者	の 子 家 族 ・ 親 な ど	友 人 ・ 知 人	そ の 他	無 回 答
単位:%								
全体		695	58.4	24.9	23.7	18.4	1.4	3.5
居 住 地 区	北九州市	573	59.5	27.1	23.9	16.2	1.4	3.3
	門司区	13	38.5	23.1	15.4	23.1	-	7.7
	小倉北区	35	45.7	17.1	8.6	20.0	2.9	8.6
	小倉南区	23	69.6	26.1	13.0	13.0	4.3	4.3
	若松区	39	56.4	30.8	23.1	20.5	-	-
	八幡東区	58	58.6	25.9	19.0	15.5	1.7	1.7
	八幡西区	383	61.6	28.5	27.7	16.2	1.3	2.3
	戸畑区	13	61.5	15.4	15.4	7.7	-	7.7
	北九州市外計	122	53.3	14.8	23.0	28.7	1.6	4.1
性 ・ 年 代	男性29歳以下	24	66.7	-	16.7	29.2	8.3	4.2
	男性30～44歳	52	53.8	28.8	32.7	23.1	-	3.8
	男性45～59歳	86	61.6	29.1	18.6	20.9	3.5	1.2
	男性60歳以上	125	59.2	32.0	5.6	11.2	0.8	4.0
	女性29歳以下	40	67.5	2.5	25.0	35.0	-	-
	女性30～44歳	68	45.6	25.0	52.9	20.6	2.9	1.5
	女性45～59歳	108	63.9	26.9	35.2	14.8	1.9	-
	女性60歳以上	174	57.5	24.7	20.1	19.0	-	5.2

5 ふだんの買物行動

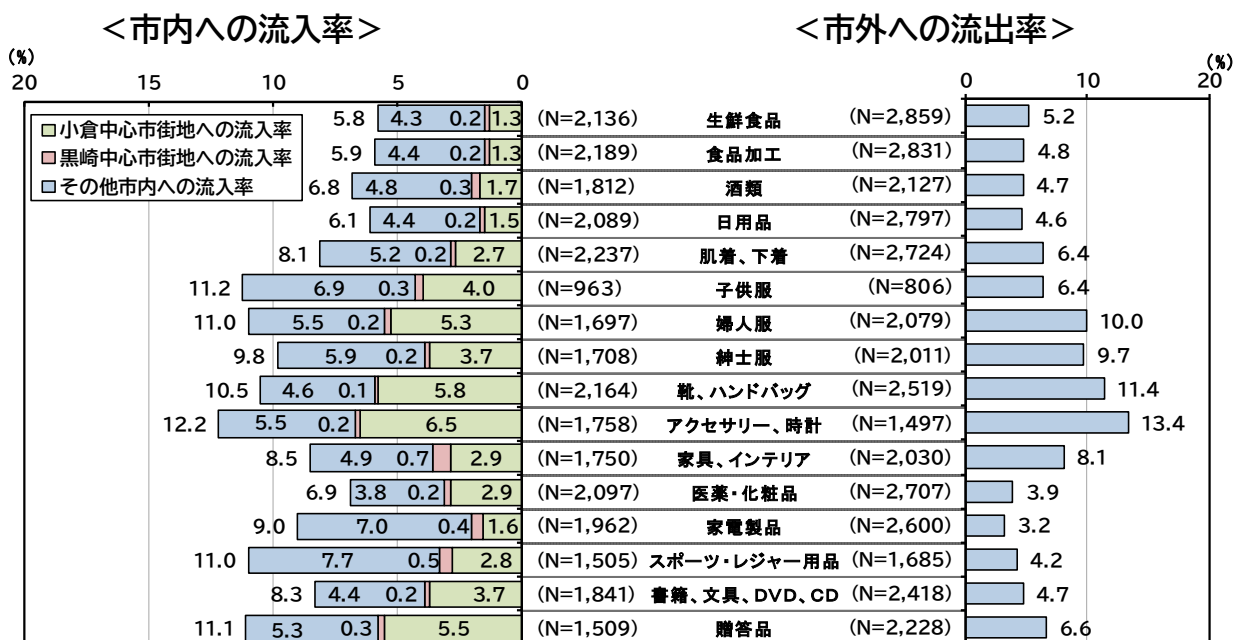
(1)買物場所

品目別に最もよく利用する買物場所を市内居住者と市外居住者に分けて集計し、市外居住者が北九州市内へ買物に来る割合(流入率)と、市内居住者が市外へ買物に行く割合(流出率)を示したのが下図である。

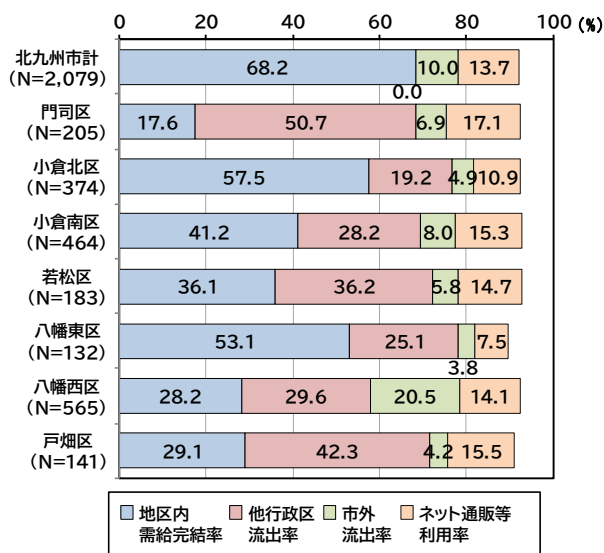
多くの品目で、流入率が流出率を上回る流入超過となっているが、「アクセサリー、時計」と「靴、ハンドバッグ」は、わずかだが流出超過となっている。

品目別に流入超過の状況を見ると、「スポーツ・レジャー用品」の6.8ポイントが最も大きく、「家電製品」5.8ポイント、「子供服」4.8ポイント、「贈答品」4.5ポイント、「書籍、文具、DVD、CD」3.6ポイントの順となっている。

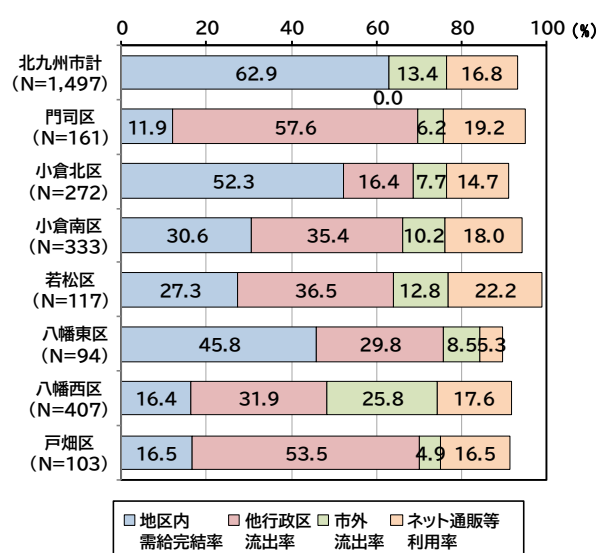
■ 市内への流入率・市外への流出率 ■



■ 婦人服の地区内需給完結率 ■



■ アクセサリー、時計の地区内需給完結率 ■



(2)買物先の店舗形態

品目別に買物先の店舗形態をみると、最寄品のうち「生鮮食品」「食品加工」は『食品スーパー』、「酒類」「日用品」は『ディスカウントストア』、「医薬・化粧品」は『ドラッグストア』の割合が最も高くなっている。

買回品のうち、「肌着、下着」、「子供服」、「婦人服」、「紳士服」、「靴、ハンドバッグ」「アクセサリー、時計」は『総合スーパー・SC』、「家具、インテリア」「家電製品」「スポーツ・レジャー用品」「書籍、文具、DVD、CD」では『専門店』、「贈答品」は『デパート』が割合が最も高くなっている。

市内居住者、市外居住者でみても、最も多い店舗形態はほぼ同じであるが、異なっている点をあげると、市内居住者では、「酒類」が『食品スーパー』、「アクセサリー、時計」が『デパート』、「家具、インテリア」が『ホームセンター』、市外居住者では、「贈答品」が『総合スーパー・SC』の割合が最も高くなっている。

この結果から、消費者は、地域の商業施設の充実度や商品の品目ごとに利用する店舗形態を上手に使い分けていることがうかがわれる。

■ 主な品目別にみた買物先の店舗形態TOP3 ■

【最寄品】

	生鮮食品		食品加工		酒類		日用品		医薬・化粧品	
全 体	食品スーパー	50.6	食品スーパー	42.7	ディスカウントストア	33.2	ディスカウントストア	30.9	ドラッグストア	51.5
	総合スーパー・SC	21.6	ディスカウントストア	23.0	食品スーパー	28.7	総合スーパー・SC	18.9	総合スーパー・SC	14.6
	ディスカウントストア	18.0	総合スーパー・SC	20.9	総合スーパー・SC	17.5	ドラッグストア	18.1	ディスカウントストア	13.4
市内居住者	食品スーパー	54.5	食品スーパー	45.9	食品スーパー	30.7	ディスカウントストア	24.3	ドラッグストア	61.2
	総合スーパー・SC	22.5	総合スーパー・SC	22.0	ディスカウントストア	29.0	ドラッグストア	23.2	総合スーパー・SC	12.7
	ディスカウントストア	13.1	ディスカウントストア	18.7	総合スーパー・SC	19.0	総合スーパー・SC	18.1	ディスカウントストア	7.7
市外居住者	食品スーパー	45.6	食品スーパー	38.7	ディスカウントストア	38.0	ディスカウントストア	39.3	ドラッグストア	39.6
	ディスカウントストア	24.5	ディスカウントストア	28.6	食品スーパー	26.5	総合スーパー・SC	19.9	ディスカウントストア	20.4
	総合スーパー・SC	20.4	総合スーパー・SC	19.5	総合スーパー・SC	15.8	食品スーパー	13.0	総合スーパー・SC	17.0

【買回品】

	肌着、下着		子供服		婦人服		紳士服		靴、ハンドバッグ	
全 体	総合スーパー・SC	50.7	総合スーパー・SC	52.7	総合スーパー・SC	46.4	総合スーパー・SC	46.5	総合スーパー・SC	40.8
	ディスカウントストア	13.2	専門店	14.9	デパート	14.2	専門店	16.8	デパート	18.3
	専門店	8.4	インターネット	9.1	インターネット	12.3	デパート	12.1	インターネット	13.4
市内居住者	総合スーパー・SC	51.3	総合スーパー・SC	46.8	総合スーパー・SC	43.0	総合スーパー・SC	43.2	総合スーパー・SC	37.9
	専門店	10.2	専門店	21.7	デパート	16.6	専門店	20.9	デパート	21.5
	ディスカウントストア	9.0	インターネット	9.9	インターネット	11.4	デパート	13.0	専門店	13.4
市外居住者	総合スーパー・SC	50.0	総合スーパー・SC	57.5	総合スーパー・SC	50.5	総合スーパー・SC	50.2	総合スーパー・SC	44.0
	ディスカウントストア	18.1	専門店	9.3	インターネット	13.5	専門店	12.1	インターネット	15.0
	インターネット	8.0	インターネット	8.4	デパート	11.3	デパート	11.1	デパート	14.8

	アクセサリー、時計		家具、インテリア		家電製品		スポーツ・レジャー用品		書籍、文具、DVD、CD	
全 体	総合スーパー・SC	32.1	専門店	34.5	専門店	66.6	専門店	46.5	専門店	41.3
	デパート	22.6	ホームセンター	32.1	インターネット	9.7	総合スーパー・SC	19.4	総合スーパー・SC	25.0
	インターネット	18.0	総合スーパー・SC	10.5	総合スーパー・SC	7.4	インターネット	14.1	インターネット	19.4
市内居住者	デパート	27.1	ホームセンター	41.7	専門店	71.4	専門店	49.4	専門店	41.5
	総合スーパー・SC	26.8	専門店	30.9	インターネット	9.5	総合スーパー・SC	15.9	総合スーパー・SC	26.3
	インターネット	16.8	インターネット	9.4	総合スーパー・SC	5.1	インターネット	15.0	インターネット	18.6
市外居住者	総合スーパー・SC	36.5	専門店	38.5	専門店	60.7	専門店	43.5	専門店	41.1
	インターネット	19.0	ホームセンター	21.5	総合スーパー・SC	10.3	総合スーパー・SC	23.3	総合スーパー・SC	23.4
	デパート	18.8	総合スーパー・SC	14.8	インターネット	9.8	インターネット	13.1	インターネット	20.5

	贈答品	
全 体	デパート	35.3
	総合スーパー・SC	33.8
	インターネット	13.3
市内居住者	デパート	43.3
	総合スーパー・SC	27.4
	インターネット	13.4
市外居住者	総合スーパー・SC	43.0
	デパート	23.9
	インターネット	13.2

■ 70%以上 ■ 50~70%未満 ■ 30~50%未満

また、普段の買物行動の中で最も利用している店舗形態の利用状況を前回調査と比べて変化をみたのが、下図である。

最も目立つのは、「インターネット」の利用の増加であり、買回品の全ての品目で前回より5ポイント以上利用率が上昇している。中でも、「アクセサリ、時計」「スポーツ・レジャー用品」「書籍、文具、DVD、CD」では10ポイント以上上昇している。

「ディスカウントストア」は生鮮食品、食品加工、酒類、日用品、医薬・化粧品、肌着・下着で、「総合スーパー」は子供服、婦人服、紳士服、贈答品(食料品を含む)で利用率が前回より5ポイント以上上昇している。

逆に、「デパート」は婦人服(14.9ポイント減)、靴、ハンドバッグ(13.5ポイント減)、アクセサリ・時計(11.9ポイント減)、紳士服(11.7ポイント減)などの買回品で前回より利用率が低下している。

「食品スーパー」は、最寄品での利用率は高いが、食品加工や酒類で利用率が低下している。

また、近年よく利用されるようになってきている「ドラッグストア」についてみると、医薬・化粧品、日用品などで利用が進んでいるが、まだ、一部の商品にかたよっている。

「コンビニエンスストア」は、身近な店舗として消費者によく利用されるようになってきているが、普段の買物行動全体の中でみると、最も利用される店舗としての位置づけは、まだ低いのが現状のようである。

■ 最も利用している店舗形態 ■

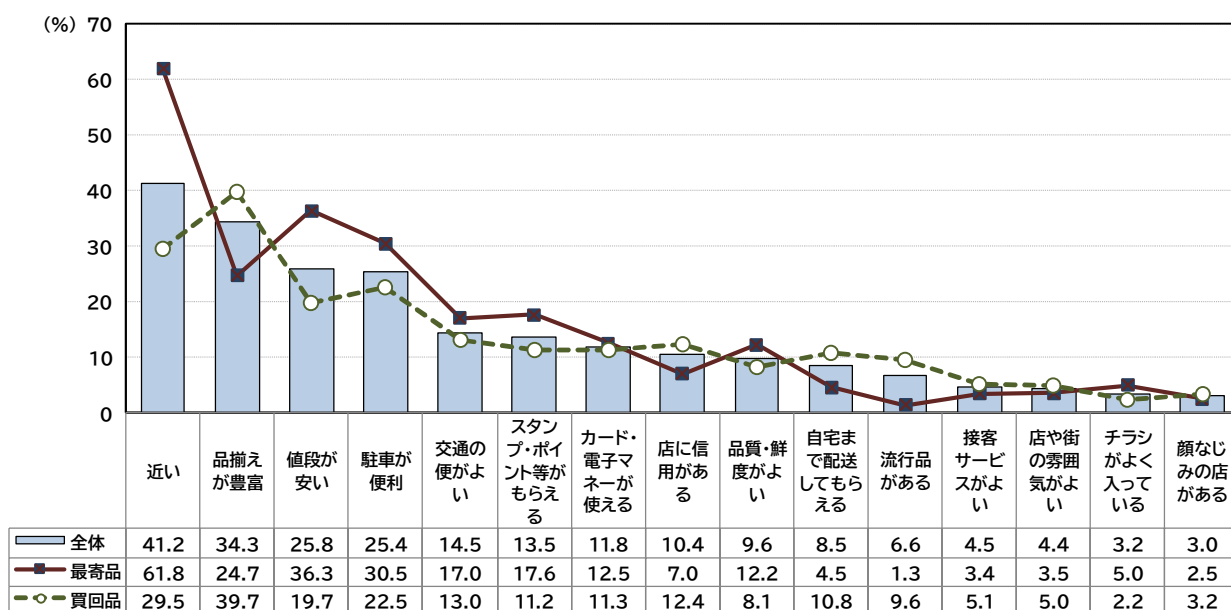
		単位:%	デパート	食品スーパー	S総合スーパー	アウトレット	コンビニエンス	ホームセンター	ディスカウント	専門店	ドラッグストア	商店街・市場	カタログ通販	テレビショッピング	インターネット	生協・宅配	その他
最寄品	生鮮食品	前回	4.1	55.4	22.4	0.1	0.6	0.0	7.8	0.2	0.2	2.0	0.1	0.1	0.1	2.3	0.4
		今回	2.2	50.6	21.6	0.1	0.4	0.0	18.0	0.2	0.5	1.5	0.1	0.1	0.3	2.9	0.4
	食品加工	前回	2.8	49.7	23.3	0.2	1.4	0.0	12.0	0.2	1.6	0.5	0.1	0.1	0.1	3.5	0.3
		今回	1.7	42.7	20.9	0.1	2.1	0.1	23.0	0.3	2.7	0.2	0.1	0.1	0.4	4.6	0.1
	酒類	前回	3.0	34.1	19.4	0.4	3.1	0.2	23.5	2.1	5.3	1.0	0.2	0.1	0.4	1.1	1.0
		今回	2.0	28.7	17.5	0.3	4.5	0.4	33.2	1.1	6.2	0.6	0.1	0.0	1.3	2.2	0.5
日用品(台所・洗濯・ふろ・トイレ用品など)	前回	2.9	13.8	22.8	0.3	0.4	15.3	22.1	0.8	14.7	0.3	0.2	0.1	0.3	1.3	0.4	
	今回	1.4	12.3	18.9	0.1	0.3	11.6	30.9	0.5	18.1	0.1	0.1	0.1	1.8	2.1	0.2	
医薬・化粧品	前回	5.7	2.4	16.7	0.4	0.2	0.9	8.1	5.0	49.7	0.4	1.1	0.2	2.2	0.8	1.1	
	今回	3.5	1.9	14.6	0.3	0.2	0.9	13.4	3.2	51.5	0.3	0.8	0.8	5.2	0.6	0.8	
買回品	肌着、下着	前回	14.8	4.8	49.9	1.3	0.2	0.8	7.7	8.4	0.4	0.6	1.6	0.2	2.6	0.9	0.9
		今回	6.9	4.0	50.7	1.3	0.2	0.7	13.2	8.4	0.4	0.2	1.3	0.2	8.0	1.2	1.1
	子供服	前回	16.7	2.1	47.0	1.9	0.3	0.4	2.6	10.6	0.1	0.3	0.8	0.1	2.8	0.1	1.6
		今回	8.7	1.9	52.7	3.0	0.2	0.1	3.9	14.9	0.0	0.4	0.3	0.2	9.1	0.4	1.2
	婦人服	前回	29.1	1.8	41.1	3.0	0.2	0.2	1.8	8.9	0.0	0.8	1.9	0.2	3.1	0.5	1.4
		今回	14.2	1.6	46.4	3.8	0.2	0.1	3.6	9.7	0.1	0.9	2.0	0.5	12.3	1.0	1.3
	紳士服	前回	23.8	1.8	39.7	2.9	0.2	0.3	2.1	18.8	0.0	0.4	0.8	0.0	2.4	0.2	1.0
		今回	12.1	1.4	46.5	3.5	0.2	0.2	5.6	16.8	0.0	0.4	1.0	0.4	8.5	0.3	1.0
	靴、ハンドバッグ	前回	31.8	1.4	36.1	4.1	0.1	0.2	1.6	11.6	0.1	1.0	1.0	0.2	4.0	0.3	1.1
		今回	18.3	1.1	40.8	5.0	0.2	0.4	3.8	11.4	0.0	0.9	0.9	0.5	13.4	0.4	0.9
	アクセサリ、時計	前回	34.5	0.6	28.9	4.5	0.1	0.5	1.5	14.2	0.0	1.0	0.9	0.4	5.2	0.2	1.4
		今回	22.6	0.7	32.1	5.1	0.3	0.8	2.2	11.4	0.0	0.9	0.9	0.6	18.0	0.2	1.4
	家具、インテリア	前回	8.4	0.9	10.2	1.9	0.2	35.0	1.5	30.0	0.1	0.4	1.2	0.1	3.0	0.8	0.8
		今回	3.3	0.6	10.5	1.7	0.1	32.1	2.8	34.5	0.2	0.3	0.5	0.5	9.6	0.3	0.6
	家電製品	前回	2.7	1.0	7.3	0.6	0.1	4.6	2.7	68.8	0.3	0.5	0.5	0.3	3.7	0.6	0.8
		今回	1.4	0.8	7.4	0.4	0.2	4.6	4.5	66.6	0.5	0.2	0.4	0.8	9.7	0.1	0.5
	スポーツ・レジャー用品	前回	5.3	1.1	20.4	1.7	0.3	3.7	3.2	52.3	0.3	0.5	0.4	0.2	3.4	0.3	0.7
		今回	2.7	0.9	19.4	3.4	0.2	3.8	3.9	46.5	0.3	0.2	0.5	0.4	14.1	0.2	0.6
書籍、文具、DVD、CD	前回	7.9	1.5	24.5	0.4	0.7	0.7	1.8	47.2	0.2	0.5	0.4	0.0	7.6	0.4	0.7	
	今回	3.1	1.1	25.0	0.4	0.7	0.8	2.9	41.3	0.4	0.5	0.2	0.4	19.4	0.5	0.6	
贈答品(食料品を含む)	前回	44.3	2.2	28.2	0.5	0.3	0.3	1.4	7.4	0.1	0.8	1.4	0.1	4.3	0.9	1.6	
	今回	35.3	1.8	33.8	0.7	0.3	0.1	2.6	4.6	0.1	1.1	1.2	0.6	13.3	1.0	1.3	

前回よりも5ポイント以上増加
 前回よりも5ポイント以上減少

次に、買物先を選ぶ理由をみると、全体では「近い」の41.2%が最も高く、次いで、「品揃えが豊富」34.3%、「値段が安い」25.8%、「駐車が便利」25.4%の順となっている。

品目別にみると、最寄品では「近い」が61.8%と圧倒的に高くなっているが、買回品では「品揃えが豊富」が39.7%と最も高く、買物先を選ぶ理由に違いがみられる。また、「値段が安い」「駐車が便利」「スタンプ・ポイント等がもらえる」「品質・鮮度がよい」という理由は最寄品に多く、「流行品がある」「自宅まで配送してもらえる」「店に信用がある」という理由は買回品に多くみられる。

■ 買物をする際に店舗を選ぶ理由 ■

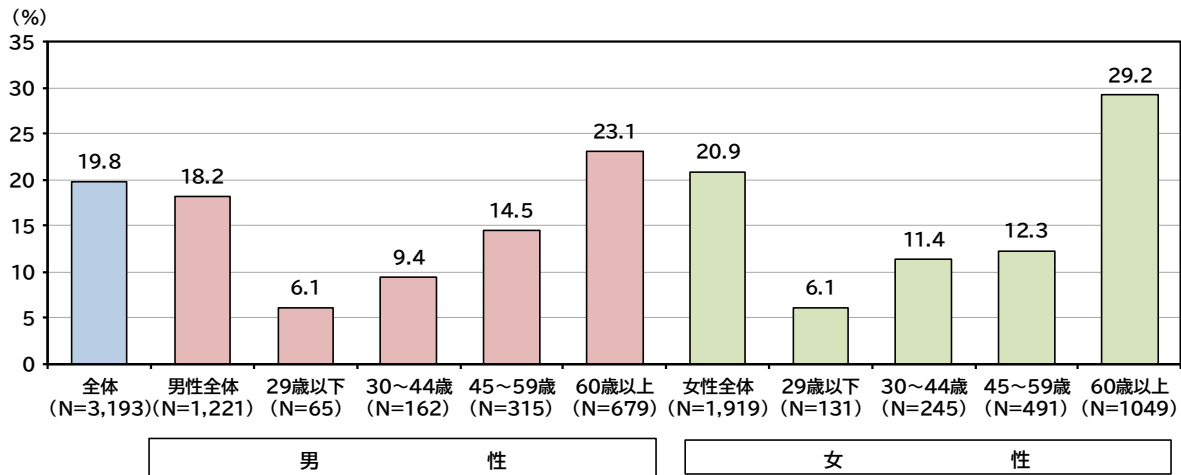


(3) 商店街・市場の利用状況

商店街・市場を週1回以上利用する人の割合をみると、全体では19.8%となっている。

性別・年代別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて利用頻度が高くなり、60歳以上の男性では23.1%、女性では29.2%となっている。

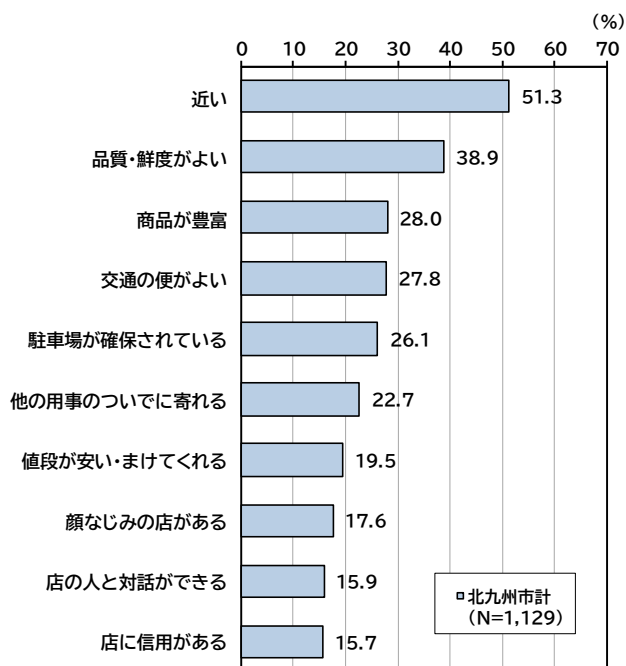
■ 性別・年代別にみた商店街・市場の利用頻度(週1回以上) ■



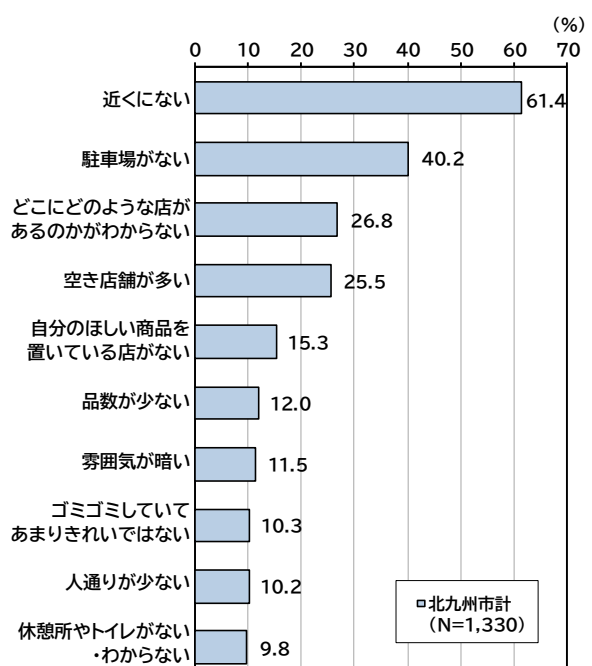
次に、市内居住者が商店街・市場を利用する理由をみると、「近い」51.3%が最も高く、ついで「品質・鮮度がよい」38.9%、「商品が豊富」28.0%、「交通の便がよい」27.8%、「駐車場が確保されている」26.1%の順となっている。

一方、市内居住者が商店街・市場を利用しない理由をみると、「近くにない」が61.4%と圧倒的に高く、次いで「駐車場がない」40.2%、「どこにどのような店があるのかがわからない」26.8%、「空き店舗が多い」25.5%の順となっている。

■ 商店街・市場を利用する理由 ■



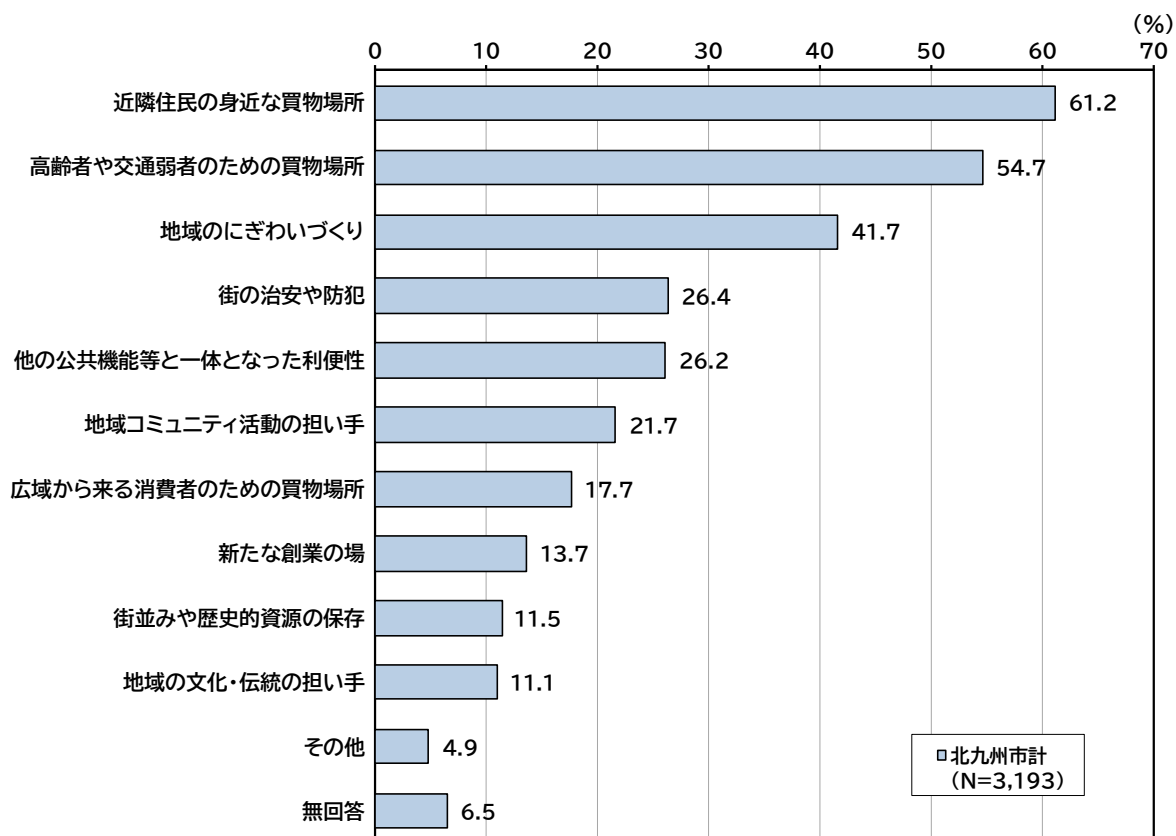
■ 商店街・市場を利用しない理由 ■



(4)商店街や市場が活性化していく上で果たすべき役割

今後、商店街や市場が活性化していく上で、商店街や市場が消費者に対してどのような役割・機能を果たしていくべきかをみると、「近隣住民の身近な買物場所」が61.2%と最も高くなっている。次いで「高齢者や交通弱者のための買物場所」54.7%、「地域のにぎわいづくり」41.7%、「街の治安や防犯」26.4%、「他の公共機能等と一体となった利便性」26.2%、「地域コミュニティ活動の担い手」21.7%の順となっている。

■ 商店街や市場が活性化していく上で果たすべき役割 ■



6 東田地区(ジ アウトレット北九州、北九州英語村(KGG)、スペース・ラボ(新科学館)、いのちのたび博物館など)について

(1) 来街経験

東田地区(ジ アウトレット北九州、北九州英語村(KGG)、スペース・ラボ(新科学館)、いのちのたび博物館など)への来街経験をみると、「行ったことがある」が50.7%となっている。

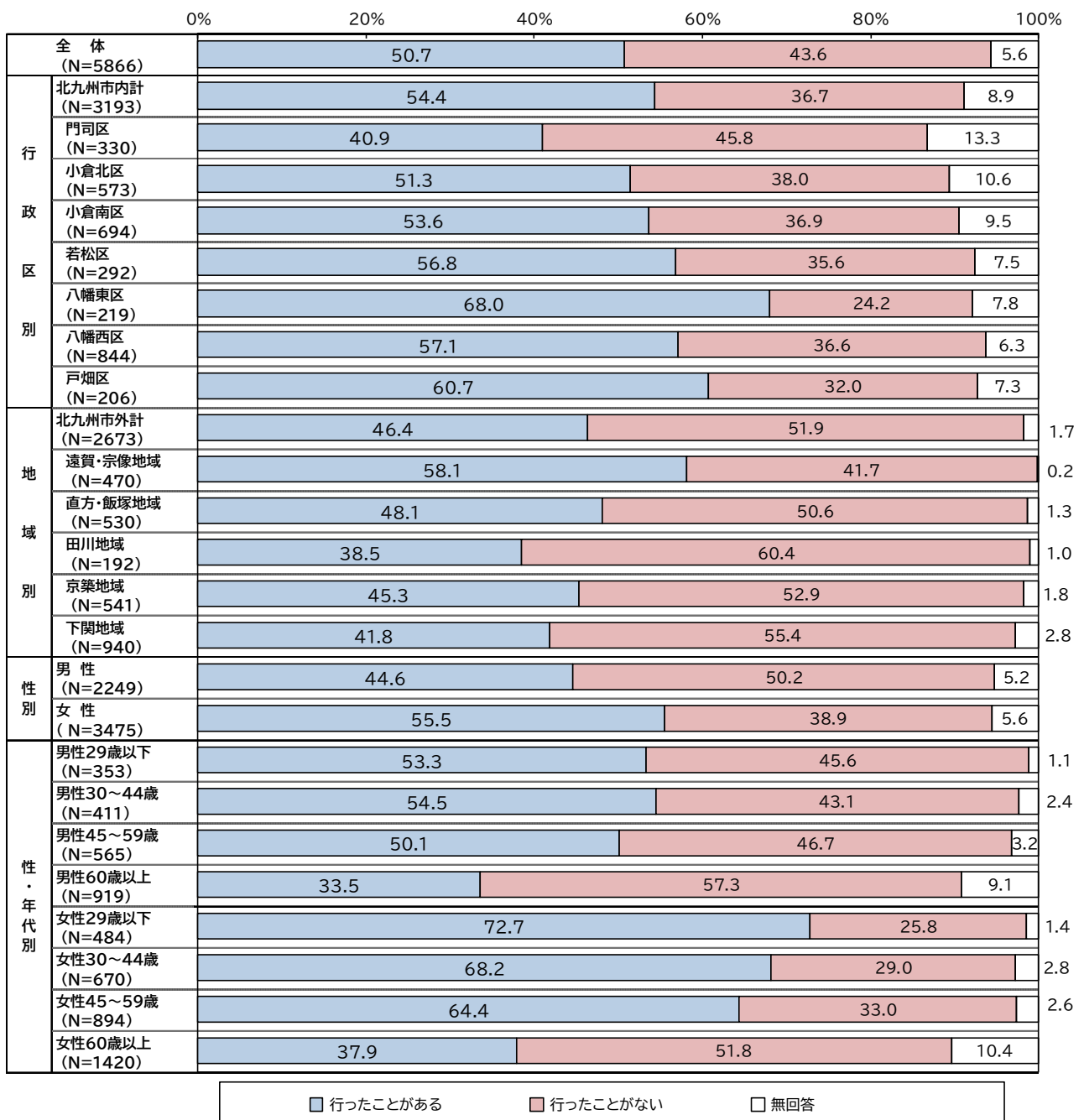
行政区別にみると、八幡東区が68.0%と最も高く、次いで戸畑区60.7%、八幡西区57.1%、若松区56.8%の順となっている。

地域別にみると、遠賀・宗像地域が58.1%と半数を超えている。

性別にみると、女性が55.5%と半数を超えているが、男性は44.6%にとどまっている。

性・年代別にみると、女性では、年代が下がるほど「行ったことがある」の割合が高く、29歳以下では72.7%に達している。

■ 来街経験 ■



(2)来街目的

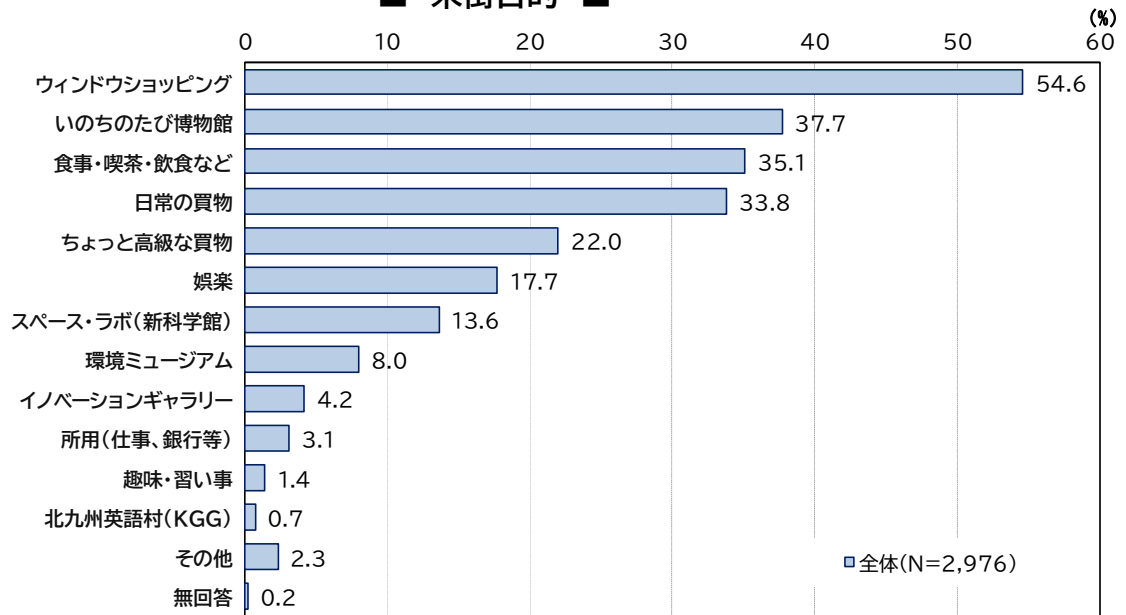
東田地区に行った目的をみると、「ウィンドウショッピング」が54.6%と最も高くなっている。次いで「いのちのたび博物館」37.7%、「食事・喫茶・飲食など」35.1%、「日常の買物」33.8%、「ちょっと高級な買物」22.0%の順となっている。

市内居住者では、「いのちのたび博物館」が43.0%と高く、行政区別にみると、小倉南区では51.3%と半数を超えている。また、八幡東区、戸畑区では「日常の買物」が半数を超えている。

市外居住者では、「日常の買物」は23.5%と低いが、「ちょっと高級な買物」が29.3%と市内居住者16.8%に比べて高くなっている。

性・年代別にみると、女性30～44歳、45～59歳では「ウィンドウショッピング」が6割を超えている。

■ 来街目的 ■



	サンプル数	日常の買物	買物 ちょっと高級な	食事・ 喫茶・飲	ウイ ン ド ウ シ ョ ッ ピ ン グ	娯 楽	趣 味 ・ 習 い 事	行 等 (仕 事 、 銀	(北 九 州 英 語 村)	(ス ペ ー ス ・ ラ ボ)	物 館 の ち の た び 博	ギ ャ ラ リ ー シ ョ ン	ム 環 境 ミ ュ ジ ア	そ の 他	無 回 答
全体	2976	33.8	22.0	35.1	54.6	17.7	1.4	3.1	0.7	13.6	37.7	4.2	8.0	2.3	0.2
北九州市内計	1736	41.1	16.8	35.7	55.4	15.7	1.6	3.3	0.8	16.9	43.0	5.8	10.3	2.9	0.2
門司区	135	31.9	17.0	33.3	57.0	15.6	4.4	-	0.7	14.8	45.9	3.7	9.6	6.7	-
小倉北区	294	39.8	20.1	39.1	58.2	17.3	1.0	3.1	1.4	19.7	39.8	6.5	11.6	3.7	0.3
小倉南区	372	33.6	14.2	25.8	53.2	15.1	1.1	3.2	0.8	17.2	51.3	3.8	9.4	2.2	-
若松区	166	36.7	18.7	36.1	51.2	16.3	1.2	2.4	1.2	14.5	43.4	3.6	9.0	1.2	-
八幡東区	149	54.4	18.8	50.3	48.3	14.1	2.0	8.7	1.3	16.8	36.2	10.1	13.4	4.0	-
八幡西区	482	44.6	15.8	33.6	56.6	14.9	0.8	2.7	0.2	15.6	41.9	6.2	9.5	2.9	0.2
戸畑区	125	53.6	16.0	48.8	63.2	18.4	4.0	4.0	0.8	20.8	32.8	8.8	11.2	0.8	-
北九州市外計	1240	23.5	29.3	34.3	53.5	20.5	1.3	2.7	0.5	9.0	30.3	1.9	4.8	1.5	0.3
性別															
男性	1004	30.7	23.1	31.3	49.4	16.2	2.0	3.1	0.6	11.3	35.5	4.7	7.9	2.5	0.1
女性	1927	35.5	21.3	37.1	57.6	18.4	1.1	3.0	0.7	14.7	39.3	3.9	7.9	2.2	0.3
性・年代別															
男性29歳以下	188	21.8	34.6	30.3	52.7	22.3	1.1	1.6	-	5.3	20.7	1.6	3.7	2.1	0.5
男性30～44歳	224	30.4	24.6	32.6	54.5	18.8	2.2	5.4	2.2	17.0	34.4	4.0	5.8	2.7	-
男性45～59歳	283	35.7	21.6	30.0	55.8	17.7	1.8	3.5	0.4	10.2	34.3	4.2	8.8	2.8	-
男性60歳以上	308	31.8	16.6	32.1	38.0	9.4	2.6	1.9	-	11.7	46.1	7.5	11.0	2.3	-
女性29歳以下	352	36.4	26.1	36.4	55.1	25.0	2.3	2.0	1.1	12.2	26.7	1.4	6.8	2.8	-
女性30～44歳	457	37.9	21.2	41.4	63.2	26.0	1.1	3.1	0.7	20.6	44.6	3.9	6.3	0.4	0.2
女性45～59歳	576	39.2	23.6	38.0	63.7	17.4	1.0	4.5	0.9	14.4	37.0	4.5	7.3	2.1	0.3
女性60歳以上	538	28.8	15.6	32.7	47.8	8.7	0.6	1.9	0.4	11.9	45.4	4.8	10.8	3.5	0.4

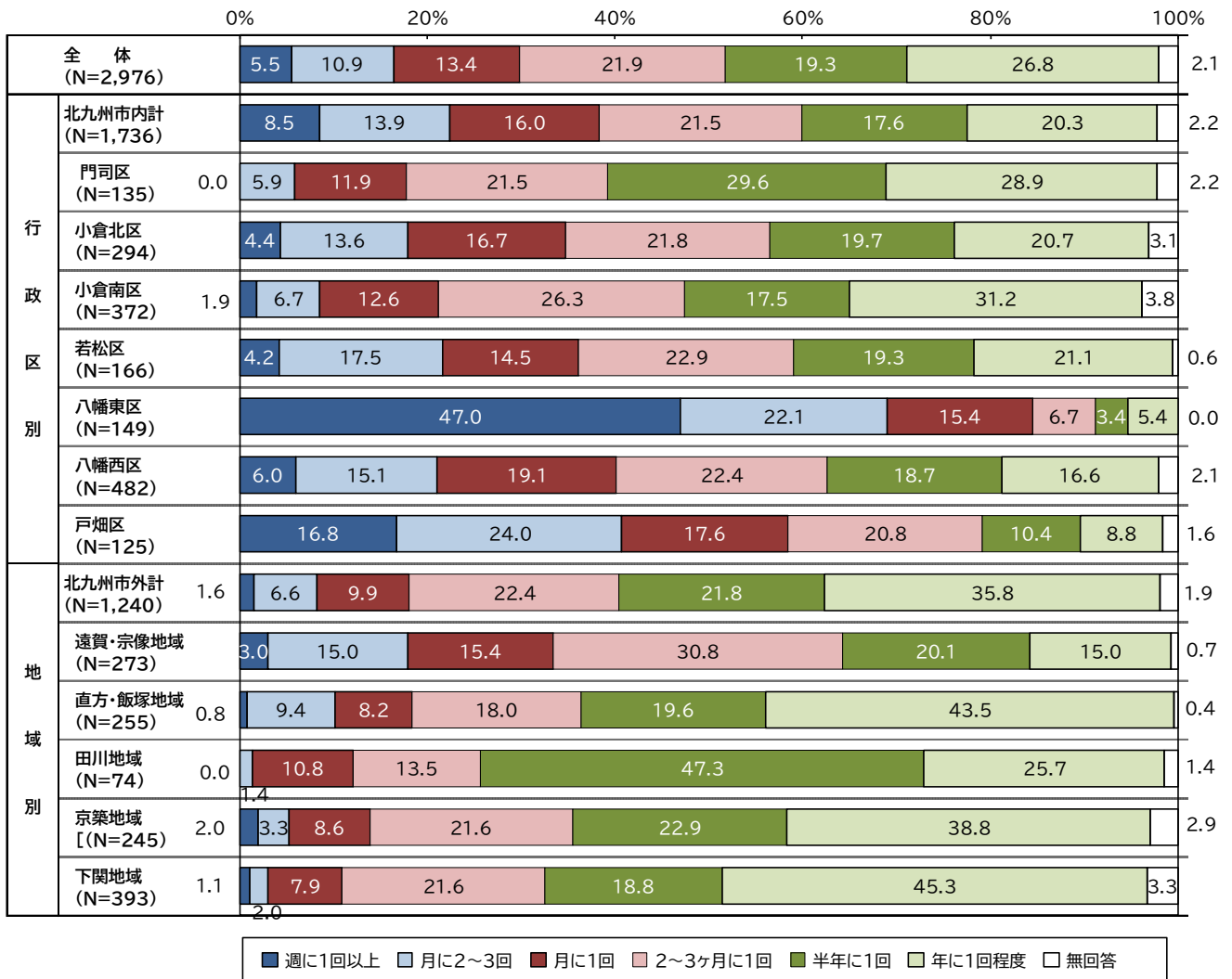
(注) 太字は、全体より5ポイント以上大きいもの(「その他」「無回答」は除く)

(3)来街頻度

普段、買物する・しないに関係なく、東田地区に行く頻度をみると、「年に1回程度」が26.8%と最も高くなっている。次いで「2～3ヶ月に1回」21.9%、「半年に1回」19.3%、「月に1回」13.4%、「月に2～3回」10.9%、「週に1回以上」5.5%の順となっている。

行政区別にみると、八幡東区では「週に1回以上」が47.0%と高くなっている。

■ 来街頻度 ■



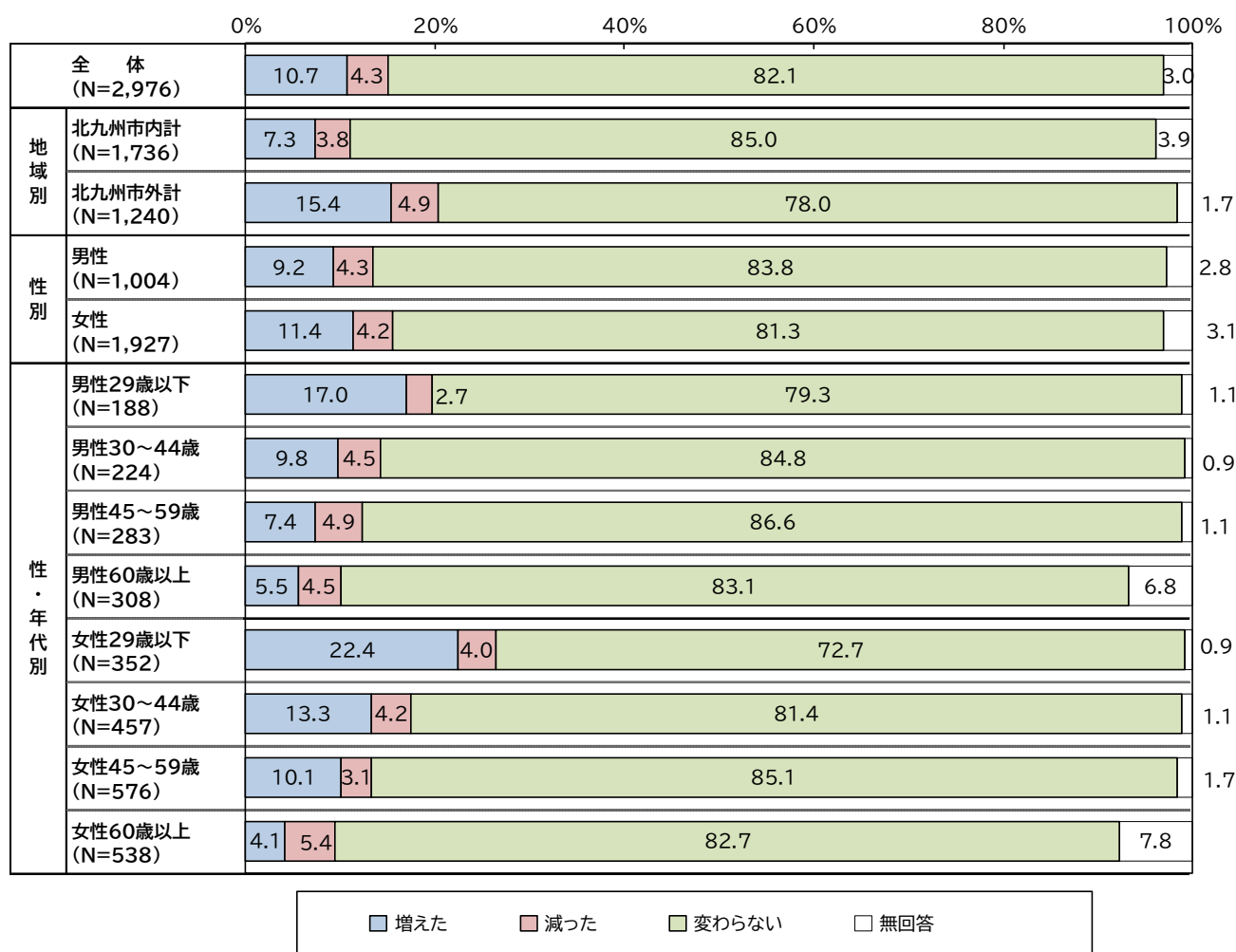
(4)ジ アウトレット北九州の利用による普段利用商業地区の利用状況変化

ジ アウトレット北九州を利用することで、それまで普段利用していた商業地区の利用状況の変化をみると、「変わらない」が 82.1%と圧倒的に高くなっている。「増えた」が 10.7%で、「減った」は 4.3%と低くなっている。

地域別にみると、市内居住者では「増えた」は 7.3%であるが、市外居住者では 15.4%と 8.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女とも年代が下がるほど「増えた」が高くなっており、女性 29 歳以下では 22.4%、男性 29 歳以下では 17.0%と高くなっている。

■ 普段利用商業地区の利用状況の変化 ■



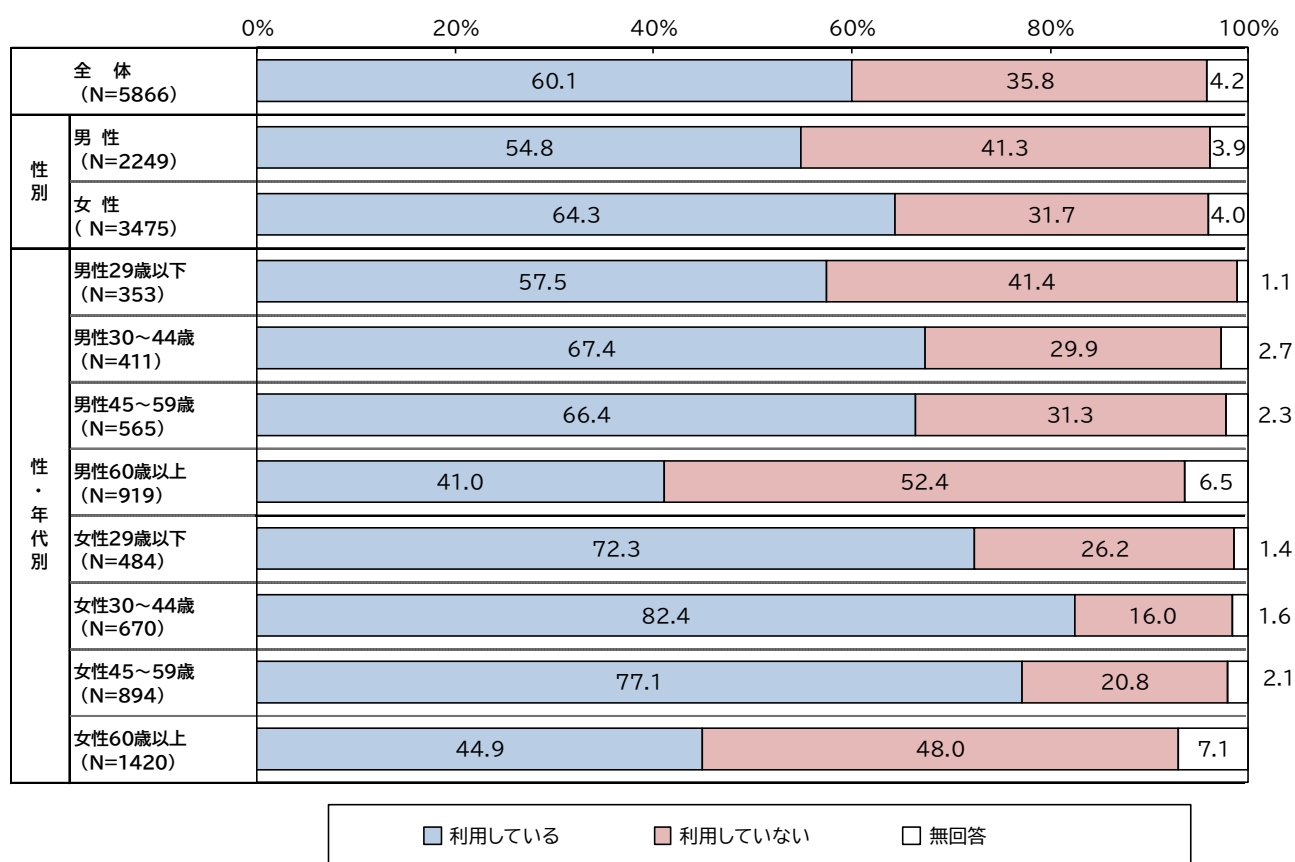
7 キャッシュレス決済について

(1) 利用状況

電子マネー(ICカード/スマホ)、カード(クレジット/デビット/プリペイド)、コード決済(QR/バーコード/スマホ)などのいわゆるキャッシュレス決済の利用状況をみると、「利用している」は60.1%となっている。

性・年代別にみると、女性30～44歳での利用率が82.4%と最も高く、次いで女性45～59歳で77.1%、女性29歳以下で72.3%の順となっている。一方、男女とも60歳以上での利用率は4割台にとどまっている。

■ 利用状況 ■



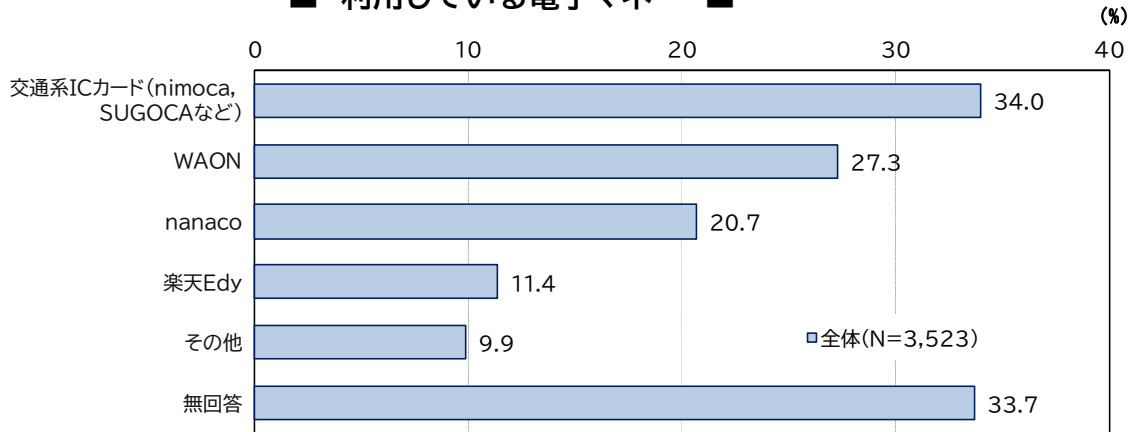
(2) 利用しているキャッシュレス決済

① 電子マネー

利用している種類としては、「交通系ICカード(nimoca, SUGOCA など)」が34.0%ともっとも多く、次いで「WAON」(27.3%)、「nanaco」(20.7%)となっている。

性・年代別にみると、男性60歳以上、女性29歳以下では「交通系ICカード(nimoca, SUGOCA など)」、女性30～44歳、45～59歳、60歳以上では「WAON」の利用率が高くなっている。

■ 利用している電子マネー ■



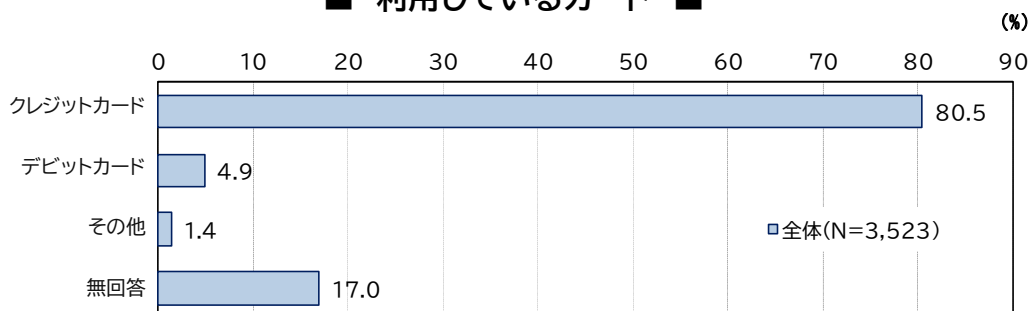
		サンプル数	S (交通系ICカードなど)	nanaco	WAON	楽天Edy	その他	無回答
全体		3523	34.0	20.7	27.3	11.4	9.9	33.7
性別	男性	1233	33.7	18.5	16.9	9.2	9.0	39.5
	女性	2234	33.8	22.0	33.3	12.8	10.6	30.3
性年代別	男性29歳以下	203	34.0	21.7	6.9	3.4	7.4	38.9
	男性30~44歳	277	24.9	15.9	11.6	11.6	9.4	47.3
	男性45~59歳	375	33.6	19.5	21.9	12.0	10.7	37.1
	男性60歳以上	377	40.3	17.8	21.2	7.7	8.0	36.3
	女性29歳以下	350	41.1	20.9	15.1	5.4	5.7	33.4
	女性30~44歳	552	25.4	25.0	34.1	14.5	9.1	33.5
	女性45~59歳	689	33.1	22.2	41.5	15.4	13.4	26.9
女性60歳以上	637	38.1	20.1	33.8	12.9	11.3	29.5	

(注) **太字** は、全体より5ポイント以上大きいもの(「その他」「無回答」は除く)

② カード

利用している種類としては、「クレジットカード」が80.5%と圧倒的に高い。

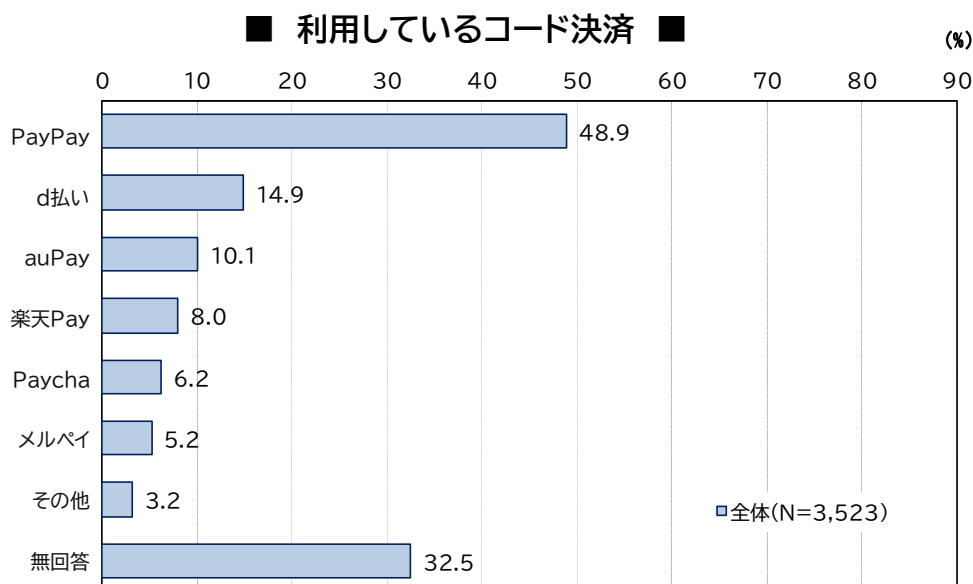
■ 利用しているカード ■



③ コード決済(QR／バーコード／スマホ決済)

利用しているコード決済としては、「PayPay」が 48.9%と最も多くなっている。次いで「d払い」(14.9%)、「auPay」(10.1%)となっている。

性・年代別にみると、男女とも年代が低いほど「PayPay」の利用が多くなり、女性 29 歳以下では 70.0%、男性 29 歳以下では 68.0%に達している。



		サンプル数	PayPay	d払い	楽天Pay	auPay	メルペイ	Paycha	その他	無回答
単位:%										
全体		3,523	48.9	14.9	8.0	10.1	5.2	6.2	3.2	32.5
性別	男性	1,233	48.7	13.7	8.4	8.8	3.1	5.4	2.9	34.3
	女性	2,234	48.7	15.7	7.8	10.9	6.4	6.8	3.3	31.7
性・年代別	男性29歳以下	203	68.0	7.9	9.4	8.9	4.9	1.0	3.0	22.2
	男性30~44歳	277	56.7	15.9	12.6	10.8	5.1	2.9	4.0	22.4
	男性45~59歳	375	51.5	16.5	10.4	9.3	2.9	9.1	4.3	32.3
	男性60歳以上	377	29.4	12.5	2.9	6.9	0.5	5.8	0.8	51.7
	女性29歳以下	350	70.0	10.6	6.9	11.4	9.1	1.4	3.4	16.6
	女性30~44歳	552	57.2	18.5	14.1	12.9	10.9	8.5	3.4	23.0
	女性45~59歳	689	50.9	18.3	7.0	13.2	5.8	9.4	3.0	28.6
	女性60歳以上	637	27.5	13.5	3.9	6.4	1.7	5.5	3.3	50.7

(注) **太字** は、全体より5ポイント以上大きいもの(「その他」「無回答」は除く)

(3) キャッシュレス決済の利用頻度

■ 電子マネー

利用頻度をみると、「週に1~2回」が 17.1%と最も高い。次いで「週に5回以上」13.9%、「週に3~4回」13.9%、「月に2~3回」9.8%、「月に1回」5.2%の順となっている。週に1回以上利用している割合は 44.9%となっている。

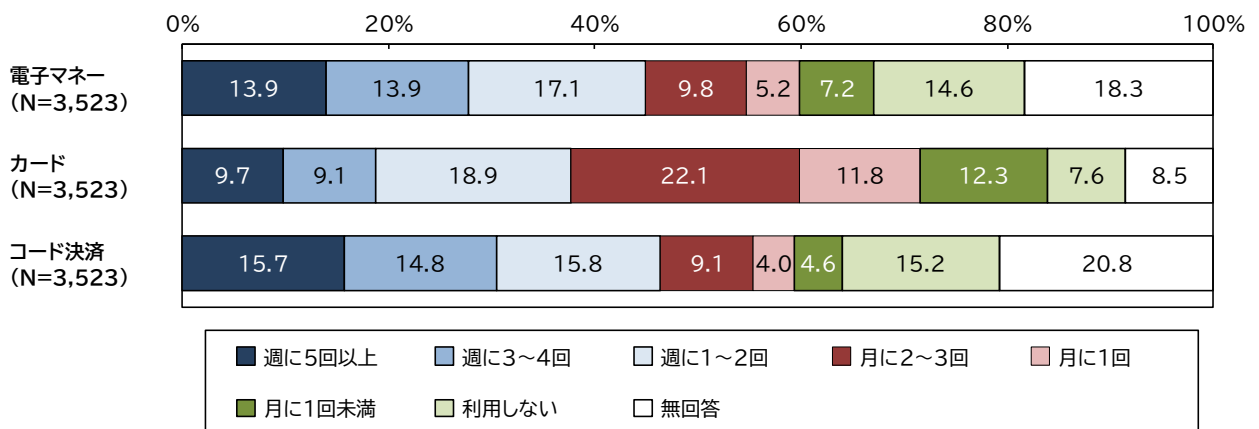
■ カード

利用頻度をみると、「月に2~3回」が 22.1%と最も高い。次いで「週に1~2回」18.9%、「月に1回」11.8%、「週に5回以上」9.7%、「週に3~4回」9.1%の順となっている。週に1回以上利用している割合は 37.7%となっている。

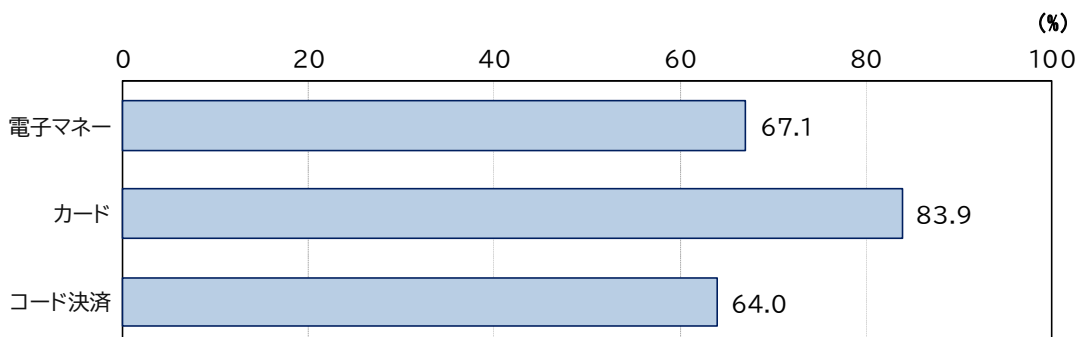
■ コード決済

利用頻度をみると、「週に1~2回」が 15.8%と最も高い。次いで「週に5回以上」15.7%、「週に3~4回」14.8%、「月に2~3回」9.1%、「月に1回」4.0%の順となっている。週に1回以上利用している割合は 46.3%となっている。

■ キャッシュレス決済の利用度 ■



■ キャッシュレス決済の利用率 ■



8 まとめ

【人口】

令和2年に実施された国勢調査によると、北九州市圏域の令和2年の人口は、226万人で、平成27年と比べて6万5千人の減少(増加率▲2.8%)となっており、減少傾向が続いている。北九州市の人口も、平成27年と比べて2万2千人の減少(増加率▲2.3%)している。

【有効商圈人口】

人口減少傾向の中でも、市外からの買物出向率が増加していることから、市全体の有効商圈人口は、平成27年の179万8千人から186万人に増加している。しかし、小倉・黒崎中心市街地の有効商圈人口は、平成27年に比べて減少している。この主な原因は、市外からの買物出向率は増加しているものの、市人口の減少と市内からの買物出向率の減少の影響が大きいと考えられる。特に、黒崎中心市街地では1次・2次商圈がなく、3次商圈(買物出向率が30%以上50%未満)のみとなっている。

【大型店の出店状況】

北九州市内には、店舗面積1,000㎡超の大型店が221店舗(商圈内の37.5%)、店舗面積の合計は111万9,827㎡(商圈内の41.1%)となっており、平成27年と比べて店舗数は17店舗、店舗面積の合計は4,874㎡増加している。

最近、出店した主な店舗としては、平成30年(2018年)にJR城野駅南口近くにゆめマート城野、高須・学研都市地区にフォレオひびきの、平成31年(2019年)に守恒・徳力地区にマルシヨク新守恒、令和4年(2022年)にはスペースワールドの跡地にジ アウトレット北九州がオープンして、北九州市商業の新しい魅力となっている。その一方で、下関地域では平成30年(2018年)3月にシーモール下関が大規模リニューアルを行ったほか、遠賀・宗像地域では令和4年(2022年)4月にプラザモールなかまが、京築地域では5月にスパイシーモール行橋がオープンするなど大型店出店が続いている。

【小倉中心市街地・黒崎中心市街地】

普段、買物をする・しないに関係なく、小倉中心市街地に月1回以上行く割合を平成27年と比べると、42.4%から31.5%に10.9ポイント減少し、年代別にみても全ての年代で減少している。

来街目的は、「食事・喫茶・飲食など」が最も多く、次いで「日常の買い物」「ちょっと高級な買い物」となっている。平均滞在時間は全体で3.22時間、市内居住者2.98時間に対し、市外居住者は3.93時間、平均消費金額では全体で8,495円、市内居住者8,072円に対し、市外居住者は9,721円となっており、市内居住者より市外居住者の方が長く滞在し、消費金額が大きくなっている。

黒崎中心市街地に月1回以上行く割合は、平成27年と比べ18.4%から12.4%に6.0ポイント減少し、小倉中心市街地と同様に全ての年代で減少している。

来街目的は、「日常の買い物」が最も多く、次いで「食事・喫茶・飲食など」「市役所等公共機関の利用」となっており、小倉中心市街地との違いがみられる。平均滞在時間は全体で2.07時間、市内居住者2.03時間に対し、市外居住者は2.27時間、平均消費金額では全体で5,281円、

市内居住者 4,966 円に対し、市外居住者は 6,852 円となっており、市内居住者より市外居住者の方がやや長く滞在し、消費金額が大きくなっている。

【東田地区】

東田地区へは全体の 50.7%が行ったことがあると回答し、市内行政区別では八幡東区が 68.0%、戸畑区 60.7%、八幡西区 57.1%、市外地域別では遠賀・宗像地域からの 58.1%が最も多くなっている。東田地区に月 1 回以上行く割合は、全体で 29.8%、市内居住者では 38.4%、市外居住者では 18.1%と高くなっている。

また、ジ アウトレット北九州の利用による他の商業地区の利用状況の変化をみると、「変わらない」が全体で 82.1%と圧倒的に高く、大きな影響はないと思われる。年代別にみると、男女とも年代が下がるにつれて、普段利用していた商業地区の利用が「増えた」と答える割合が増加しており、ジ アウトレット北九州と合わせて普段利用している商業地区も利用していることがうかがえる。

【その他の地区】

小倉・黒崎中心市街地への来街率は低下しているものの、市内居住者について市内の主要 12 商業地区への年 1 回以上の買物出向状況をみると、12 商業地区のうち 8 地区で平成 27 年より出向率が上昇しており、その他の地区もほぼ平成 27 年の水準を維持している。東田地区へは前述のとおり遠賀・宗像地域から 58.1%が行ったことがあると回答し、買物でも 44.7%が年に 1 回以上出向している。また、葛原・下曾根地区へは京築地域から 32.7%が、折尾・本城地区へは遠賀・宗像地域から 32.1%が年に 1 回以上買物に出向している。こうしたことから、北九州市の集客力をアップする要素も十分にあることがわかる。

【買物行動】

普段よく利用する買物場所として、インターネットを「書籍、文具、DVD、CD」「アクセサリー、時計」でそれぞれ約 20%が利用し、買回品の全ての品目で平成 27 年と比べ 5%以上利用率が上昇している。また、最寄品も全ての品目で利用率が上昇しており、今後の拡大が予想される。

【キャッシュレス決済】

電子マネー、カード、コード決済などのいわゆるキャッシュレス決済の利用経験者は全体では 60%に達し、中でも女性 30~44 歳では 82.4%、45~59 歳では 77.1%、29 歳以下では 72.3%と高くなっている。キャッシュレス決済についても、今後の拡大が予想される。

令和4年度 北九州市商圈調査報告書

令和5年6月

北九州市

【調査企画】

北九州市産業経済局 地域経済振興部 商業・サービス産業政策課

〒803-8501

北九州市小倉北区城内1番1号

TEL 093-582-2050

【調査・集計・分析】

株式会社 東京商工リサーチ

〒802-0003

北九州市小倉北区米町二丁目1番2号小倉第一生命ビル

TEL 093-551-1731